

# 熊本大学五高記念館館報 第2号

(平成21年度～24年度)



表 紙：第五高等学校 校友会誌 『龍南』205号表紙

図案 村岡示申武 昭和3年度雑誌部委員 大正15年入学、昭和4年卒業 文科乙組  
「図案の意味は新しい感じとは反対に古い時代、殊に奈良、平安朝時代を表はして、同時にその時代の文芸を連想せしめんとしたのである。」(編輯後記より)

裏表紙：同上 裏表紙

中 扉：昭和2年卒業アルバムより



# 発刊にあたって

館長 伊藤 重剛

熊本大学五高記念館館報第2号をお届けする。平成21年度から24年度まで4年間の報告である。平成18年度に五高記念館が平日開館して平成22年度までの最初の5年間は、ユニバーシティ・ミュージアム構想第一期計画にのっとり運営が行なわれてきた。その計画の要諦は常駐スタッフを配置して平日開館を行い、熊本大学の文化的施設群の中心として整備を図り、大学による社会的貢献を図ろうというものであった。第二期の中期計画は大学内の他施設と連携をより強め、全体としてユニバーシティ・ミュージアムとしての機能を高めようというものである。五高記念館はその中心施設としてこれまで以上に成果をあげつつある。

こうした過程の中で平成24年度から、それまでの学長裁量経費ではなく経常的費用としての運営経費によって運営されるようになった。そして企画事業には、別途学長裁量経費や中期目標達成経費などを申請して行なうようになった。

それにしても予算不足の問題は深刻であり、そのために平成23年度から文化庁補助金を申請して、これにより様々な活動の活発化を図ることとした。この補助金により、五高記念館の全体予算も大きく増加し、企画行事や館内整備などの充実がいくらか可能となった。これは喜ばしいことである。しかし一方で、こうした補助金を受領すれば事業での実働はもちろん書類作成などの仕事が増え、労働環境の面で職員がかなり無理をする部分も出てきたことも確かで、今後の課題である。

建物の補修も大きな問題である。五高記念館も化学実験場も老朽化による屋根の改修が急務であり、また現状では化学実験場は階段教室を除き積極的利用をしていないので、今後の有効活用がひとつの課題である。建物に関するこうした一連の問題の解決のために、工学部研究資料館を含め、24年度には文化庁の指導の下に、文化財保存活用計画書を作成した。これに基づいて今後、耐震改修および屋根改修を行なっていく予定である。

このように様々な問題も抱えているものの、教職員の努力、大学側の理解、学内外からの支援などにより、五高記念館は着実に成長を遂げている。現在では一般市民はもちろん、大学関係者や文化財関係者など多様な人が毎年1万人以上訪れるようになっている。新聞やテレビなどのマスコミ取材も多くなり、益々注目を浴びるようになってきている。今後もさらなる発展を期したい。

# 目次

発刊にあたって .....	3
<b>I 熊本大学五高記念館概要</b>	
1 沿革 .....	7
2 施設概要 .....	9
3 利用案内 .....	11
<b>II 事業概要</b>	
1 展観事業 .....	12
(1) 常設展示	
(2) 特別展・企画展等	
2 教育普及事業 .....	29
(1) 講演会・文化講座・コンサート等	
(2) 出版活動	
(3) 生涯学習に関する事	
(4) 友の会活動	
(5) その他	
3 重要文化財建造物等公開活用事業 .....	39
4 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 .....	41
5 調査研究事業 .....	43
(1) 収蔵資料に関する調査及び五高記念館等に関する調査研究活動	
(2) 教職員の科学研究費採択状況	
(3) 教職員の外部資金受託状況	
(4) 他機関の研究プロジェクトへの参画	
(5) 教職員の研究活動等	
<b>III 収蔵資料</b>	
1 平成21～24年度寄贈資料 .....	50
2 平成21～24年度購入資料目録 .....	57
3 平成17年度以前の寄贈資料 .....	58
<b>IV 運営等に関する資料</b>	
1 入館者の動向 .....	61
2 五高記念館機構 .....	63
3 五高記念館教職員 .....	63
4 五高記念館等運営委員会委員名簿 .....	64

5	教職員等の変遷	64
	(1) 館長	
	(2) 教職員	
	(3) 五高記念館等運営委員会	
6	五高記念館等運営委員会記録	67
7	運営に関する諸規程等	72
	(1) 設置規程	
	(2) 教授会等	
	(3) 熊本大学五高記念館等規則	
	(4) 職員組織規程等	
	(5) 資料公開等に関する規程等	
	(6) 利用規則等	
	(7) 業務協力者に関すること	
	(8) 公印規程	
	(9) 防災規程	
	(10) 新聞・雑誌・書籍・放送等掲載一覧	
V	学芸員養成課程に関する事	96
VI	研究	
	旧第五高等中学校の建築図面に関する研究	97
	大正・昭和の『龍南会雑誌』『龍南』と雑誌部委員 —懸賞と検閲—	101

# I 熊本大学五高記念館概要

## 1 沿革

明治20年（1887）4月、熊本に第五高等中学校の設置が決定し、同年11月熊本区古城町（現熊本市中央区古城町の仮校舎で第1回目の入学式を挙行了。翌21年2月、飽田郡黒髪村（現熊本市中央区黒髪）において校舎建設がはじまり、22年8月に本館が、12月には化学実験場が竣工した。表門もおそらく同時期の竣工であろう。第五高等中学校は同27年9月の高等学校令施行にともない第五高等学校と改称した。

第五高等学校は、第二次世界大戦後の学制改革によって熊本大学の母体のひとつとなり、昭和25年に最後の卒業生を送り出して閉校した。熊本大学となってからも本館は法文学部の管理のもと「教室本館」として講義・研究棟として活用されていた。

昭和44年（1969）8月、本館・化学実験場・表門の3棟が「旧第五高等中学校」として国の重要文化財指定を受けた。指定にあたり、本館設計図24枚、化学実験場設計図10枚、表門設計図6枚も附指定されている。平成5年（1993）10月、本館の西側半分が旧制第五高等中学校及び同第五高等学校の関係資料を展示する「五高記念館」として公開され、財務部管財係が管理することとなった。平成12年4月には「熊本大学五高記念館」に名称を改め、残る東側半分の利用計画を策定して全館を公開するなど、五高記念館を熊本大学の教育・研究及び地域連携の拠点と位置づけ、収蔵資料調査や公開講座、友の会設立等の活動を展開してきた。またその間、平成10年3月には『熊本大学資料館に関する検討委員会報告』を、翌年には『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム』をまとめ、大学博物館設置の検討を行なった。

平成18年2月、熊本大学の歴史的遺産を地域資源として総合的に活用し、教育・研究に資するとともに、地域文化の発展・向上に寄与することを目的に『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期五カ年計画（案）』を策定した。そこでは、4期20か年の計画を想定し、第1期5か年計画として五高記念館の整備が提案され、平成18年3月から同計画案にそった整備事業に着手した。同年12月1日には五高記念館を学内共同教育研究施設（センター）として位置づけるとともに専任教員が配置され、五高記念館の事務は研究・国際部社会連携課が担当することとなった。

『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期5カ年計画（案）』に盛り込まれた整備方針の骨子は、博物館法第29条に規定された博物館に相当する施設とすることであった。申請に当たって、「博物館に相当する施設指定審査要項」及び「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」並びに「公立博物館の設置及び運営に関する基準」等に基づき、館内設備・資料目録等の整備を行い、諸規定については管理運営に関する内規、資料取扱要項等を定めた。また事業については、特別展の開催や印刷物の刊行、各種教育普及活動の実施、資料に関する調査研究等、指定審査要項に規定された活動を着実にを行い、主に平成18年度から平成20年度にわたる3カ年分の実績をもって平成21年7月に文部科学省生涯学習政策局社会教育課に申請書を提出した（指定日：平成22年12月9日）。

博物館相当施設指定申請は、五高記念館を核として大学博物館を設置することにあつたが、学芸員養成課程における省令科目「博物館実習」を館内で実施することも大きな理由であった。そのため指定に先立ち平成19年度から博物館実習3単位のうち1～2単位分を学内実務実習として館内講義室及び博物館実習室において実施してきた。平成24年度から施行された学芸員養成課程新カリキュラムにおいても同様の体制で実施している。

平成23年3月に『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第1期五カ年計画』が終了し、五高記念

館等運営委員会に検証結果の概要を報告した。『熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想 第2期五カ年計画』は、平成23年度総合企画会議の下に「ユニバーシティ・ミュージアム構想検討WG」を設置して策定した。

なお、文化庁補助事業として平成23・24年度「重要文化財建造物等公開活用事業」、および平成23・24・25年度「くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（文化芸術振興費補助金）」の補助金を受け、熊本大学が保有する国指定重要文化財の保存活用計画策定、ガイド育成事業、展示等の多言語化事業、情報発信システム・ガイドシステム構築事業など、展示・研究などとともに多岐にわたる事業を展開している。

(岩崎竹彦)



## 2 施設概要

- ・種別 歴史博物館
- ・所在地 熊本県熊本市黒髪2丁目40番1号
- ・規模 地上2階
- ・面積 建築面積 921.6㎡  
延床面積 1,806㎡
- ・構造 煉瓦造、2階建、棧瓦葺、背面木造裏玄関付
- ・建築年代 明治22年(1889)
- ・建築設計 山口半六、久留正道

### ・動線計画

熊本大学五高記念館は、2階及び1階西側部分に常設展示スペース、1階に教育普及スペース及び管理スペース並びに研究スペースを設けている。

日常動線は1階正面玄関を導入口とし、中央階段を上がって西側部分に誘導し、第1展示室から第4展示室、西側階段を下りて第5・第6展示室及び復原教室へと導く流れを取り入れている。そして、日常動線の最後に休憩室・図書室・情報プラザといった教育普及スペースを設けることで利用者の自己学習の便を図っている。

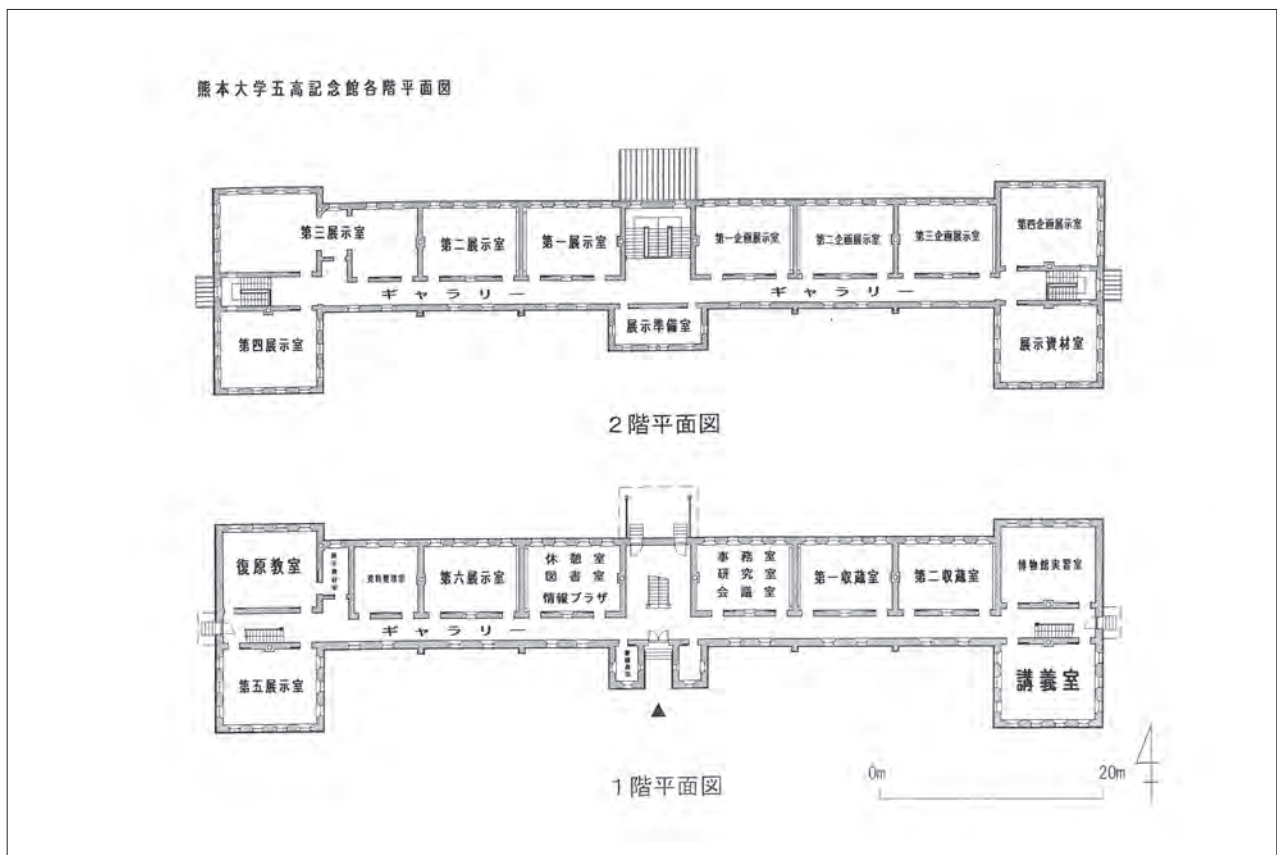
企画展示室(第1企画展示室～第4企画展示室)は、2階東側部分に集中させることで常設展とは別の流れを作り、企画・特別展に関係した講演会等の際には特別展を鑑賞した後、東側階段を利用して1階の講義室に導くことで日常動線と交錯しないよう配慮している。企画展示室が稼動していないときは、2階ホール東側にパーティションスタンドを設置して東側部分を閉鎖している。

講義室は本学の通常講義にも使用され、博物館実習室は学芸員課程の講義で使用することから、1階管理スペースの奥に配置することで日常動線から切り離している。

利用者の動線パターンは廊下接続タイプであり、動線計画は可能なかぎり交差を減らし、機能的な流れとなるよう設定している。

・建物用途別表

室名		階層	面積	室名	階層	面積
常設展示室	第1展示室	2階	66㎡	ギャラリー	2階	237㎡
	第2展示室	2階	66㎡	ギャラリー	1階	230㎡
	第3展示室	2階	118㎡	展示準備室	2階	20㎡
	第4展示室	2階	66㎡	展示資材室	2階	66㎡
	第5展示室	1階	66㎡	展示資材室	1階	12㎡
	第6展示室	1階	66㎡	休憩室・図書室・情報プラザ	1階	66㎡
	復原教室	1階	66㎡	講義室	1階	66㎡
	小計 514㎡			博物館実習室	1階	66㎡
企画展示室	第1企画展示室	2階	66㎡	事務室・研究室・会議室	1階	66㎡
	第2企画展示室	2階	66㎡	資料整理室	1階	40㎡
	第3企画展示室	2階	66㎡	第1収蔵室	1階	66㎡
	第4企画展示室	2階	66㎡	第2収蔵室	1階	66㎡
	小計 264㎡			その他		27㎡
						合計 1,806㎡

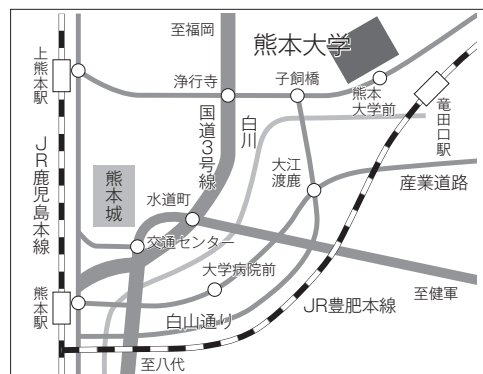


(岩崎竹彦)

### 3 利用案内

- ・所在地等 〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
- ・TEL (096) 342-2050
- ・FAX (096) 342-2051
- ・URL [www.goko.kumamoto-u.ac.jp](http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp)
- ・Email [goko@kumamoto-u.ac.jp](mailto:goko@kumamoto-u.ac.jp)
- ・入館料 無料
- ・開館時間 10:00~16:00 (ただし、入館は15:30まで)
- ・休館日 毎週火曜日 大学の都合による休館あり  
※3、4月は火曜日も開館  
※12~2月の土・日と重ならない祝日は休館

### Access Map



#### ・アクセス

##### 阿蘇くまもと空港から

空港リムジンバス：西部車庫・熊本駅前行き「通町筋」下車  
「通町筋」(電車通りをはさんで向かい側カトリック手取教会前)から  
産交バス、電鉄バス：[子1] [子7] [子8] [子9] [子18] [子20]  
楠団地、武蔵ヶ丘、大津方面行き「熊本大学前」下車

##### 熊本交通センターから

13番のりばから  
産交バス、電鉄バス：[子1] [子7] [子8] [子9] [子18] [子20]  
楠団地、武蔵ヶ丘、大津方面行き「熊本大学前」下車

##### JR熊本駅から

都市バス：第一環状線 [駅2] (大学病院・大江渡鹿経由)  
「子飼橋」下車 徒歩10分  
産交バス、電鉄バス：[子1] [子7]  
楠団地、武蔵ヶ丘方面行き「熊本大学前」下車  
※熊本駅発の豊肥本線、各駅停車への連絡の便が良ければ竜田口駅までJRを  
ご利用いただき、JR竜田口駅からバスをご利用になるのが便利です。  
(豊肥本線：光の森、肥後大津、宮地、豊後竹田、大分方面行き)

##### JR上熊本駅から

都市バス：第一環状線 [駅1] (子飼橋・大江渡鹿経由)  
「子飼橋」下車 徒歩10分

##### JR竜田口駅から

産交バス、電鉄バス：[子1] [子7] [子8] [子9] [子18] [子20] [西18]  
交通センター、熊本駅、西部車庫行き「立田自然公園入口」下車

(市原富代)

## Ⅱ 事業概要

### 1 展観事業

#### (1) 常設展示

#### 第1展示室 【五高開校と歴代校長】

明治20年の開校と歴代校長に関する資料を展示。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	横一行書 「瑞邦」	1面	絹本墨書	有栖川宮熾仁親王	明治24年(1891)頃
2	横一行書 「済美」	1面	絹本墨書	小松宮彰仁親王	明治30年(1897)
3	校長肖像・写真	14面		第五高等学校	
4	嘉納校長送別記念 写真	1葉		第五高等学校	明治26年(1893)
5	生徒募集木札	2枚	木材	第五高等学校	明治22年(1889)6月 明治27年(1894)5月
6	第一回開校記念式関係書類	1式	一紙	第五高等学校	明治23年(1890)10月10日
7	寄付金感謝状	1枚	一紙	第五高等学校	明治24年(1891)5月13日
8	徽章に関する文部省宛の申請書類(写)	2枚		第五高等学校	明治20年(1887)9月7日
9	徽章鑄型	1個	金属	第五高等学校	
10	第五高等学校医学部卒業証書(写)	1枚		第五高等学校	
11	帽子(複製)	1個		五高同窓会	
12	第五高等学校関係公印	3個	木材	第五高等学校	
13	校章レリーフ	1個	石膏	第五高等学校	
14	開校50周年記念式典 写真	1葉		第五高等学校	昭和12年(1937)10月10日
15	年表、五高小史(パネル)	1枚			
16	第五高等学校沿革略(パネル)	1枚			

#### 第2展示室 【五高の敷地と建物】

五高の建造物を復元模型や図面類で紹介、講堂や教室に掲げられた扁額も展示している。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	横一行書 「入神致用」	1面	絹本墨書	勝海舟	明治24年(1891)頃
2	「順道制勝行不害人」	1面	絹本墨書	嘉納治五郎	明治25年(1892)
3	横一行書 「寛猛相濟」	1面	絹本墨書	閑院宮載仁親王	
4	横一行書 「仰光館」	1面	絹本墨書	武藤虎太	昭和7年(1932)8月
5	第五高等学校復元模型	1台			昭和62年(1987)
6	第五高等中学校本館図面(写)	9枚		山口半六、久留正道	明治20年(1887)
7	第五高等学校全図(写)	1枚			明治23年(1890)
8	第五高等学校全図(写)	1枚		富田治禧、渡辺仁、 滝川長雄、天草狭裔	明治42年(1909)
9	第五高等学校全図(写)	1枚			大正10年(1921)
10	第五高等学校全図(写)	1枚			昭和15年(1940)
11	建物写真	5葉			
12	赤煉瓦	1個			
13	第五高等中学校新築落成報告	1枚	一紙		明治23年(1890)10月10日

#### 第3展示室 【五高の教授陣】

夏目漱石やラフカディオ・ハーンをはじめとする五高で教鞭をとった教師を紹介。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	秋月胤永 年譜	1枚			平成24年(2012)
2	秋月胤永 肖像画	1面			

3	第3回卒業記念写真	1葉		第五高等中学校	明治27年(1894)
4	「北越潜行之詩」	1面	紙本墨書	秋月胤永	
5	五高職員生徒宛の書簡	1通	一紙	秋月胤永	明治28年(1895)7月16日
6	学年試験問題(写)	1枚		秋月胤永	明治25年(1892)6月
7	掛軸 命名由来記	1幅		秋月胤永	明治25年(1892)
8	掛軸 寄せ書き	1幅		小島伊佐美、白壁傑次郎、池田一幸他	
9	夏目漱石 年譜	1枚			平成24年(2012)
10	夏目金之助第五高等学校赴任関係資料(写)	1式			明治29年(1896)
11	佐賀福岡尋常中学校参観報告書(写)	1式		夏目金之助	明治30年(1897)
12	試験問題(写)	1枚		夏目金之助	明治31年(1898)
13	開校10周年記念祝辞(写)	1枚		夏目金之助	明治33年(1900)10月10日
14	祝辞朗読(MD試聴)	1式		夏目金之助	
15	夏目金之助英国留学関係資料(写)	1式			明治33年(1900)
16	俳句 短冊(写)	1式		夏目金之助	
17	ラフカディオ・ハーン 年譜	1枚			平成24年(2012)
18	ラフカディオ・ハーン第五高等中学校雇用関係資料(写)	1式		第五高等中学校	
19	旅行免状付与証明書(写)	1枚			明治24年(1891)
20	試験問題(写)	1枚		ラフカディオ・ハーン	明治26年(1893)
21	ラフカディオ・ハーン紹介冊子	2冊	冊子	木下順二	
22	ラフカディオ・ハーン新聞記事(写)	3部		ラフカディオ・ハーン	
23	イ・ジグランブス	1冊	冊子	ラフカディオ・ハーン	
24	シンシナティ市街地図	1枚			
25	ニューオーリンズの地図(複製)	1枚			1878年
26	ハロルド・ウァラー・ゾフィー・ビュットナー 写真	1葉			大正2年(1913)
27	松浦校長への謝辞/龍南会雑誌(写)	1枚		ビュットナー、ウァラー	大正3年(1914)
28	ヴィルヘルム・グンデルト『全国五高会会報』30号記事			鹿子木敏範	昭和57年(1982)
29	ウィリアム・ポーター 写真	1葉			大正13年(1924)
30	『徒然草』	1冊	冊子	ウィリアム・ポーター訳	大正3年(1914)
31	『百人一首』	1冊	冊子	ウィリアム・ポーター訳	明治42年(1909)
32	ジェームズ・マーター 写真	2葉			昭和11年(1936)頃
33	原稿「The Stone Buddha of Tatsutayama」	1冊	冊子	ジェームズ・マーター	昭和7年(1932)
34	『龍南の五高生』	1冊	冊子	ジェームズ・マーター	昭和5年(1930)
35	フリードリヒ・グライル『全国五高会会報』25号記事	1冊	冊子	フリードリヒ・グライル	昭和56年(1981)6月
36	ロバート・クラウダー 写真	3葉		ロバート・クラウダー	昭和14年(1939) 平成7年(1995)
37	京都スケッチ(写)	2枚		ロバート・クラウダー	
38	『わが失われし日本』	1冊	冊子	ロバート・クラウダー	平成8年(1996)
39	ロバート・クラウダー 新聞記事			西日本新聞	平成6年(1994)12月8日
40	雑誌記事(写)・掲載雑誌	1式		ロバート・クラウダー	平成6年(1994)
41	ゲオルグ・ドル 写真	3葉			
42	外国人教師一覧(パネル)	1枚			平成24年(2012)
43	山形元治 写真	1葉			
44	第7回開校記念祝辞	1枚	一紙	山形元治	明治30年(1897)
45	山形元治 愛用の英語辞書	1冊	冊子		
46	学生時代のノート	5冊	冊子	山形元治	

47	浅井東一 写真	2葉			大正13年(1924)
48	論文草稿「立田山のヤエクチナシ」の発見	2冊	冊子	浅井東一	大正12年(1923)
49	植物スケッチ	1枚	一紙	浅井東一	昭和7年(1932)
50	植物教室実習記録	1冊	冊子	浅井東一	
51	観察器具(カメラ用三脚、比例尺)	2基			
52	『弾性體理論・弾性振動及び音響学』	1冊	冊子	田丸卓郎	昭和5年(1930)
53	試験問題	1枚	一紙	白壁傑次郎	昭和13年(1938)
54	「五高におけるヘルン先生」(写)	1枚		白壁傑次郎	大正15年(1926)
55	『中学理科示教』	1冊	冊子	白壁傑次郎	明治32年(1899)
56	第7回開校記念式祝辞	1枚	一紙	八波則吉	明治30年(1897)
57	色紙	1枚		八波則吉	
58	「五高の思い出」原稿	6枚	一紙	八波則吉	
59	授業風景写真と川柳(写)	2枚		田中辰二	昭和14年(1937)頃
60	田中辰二 似顔絵(写)	1枚			
61	高橋仁助 写真	1葉			
62	試験問題	1枚	一紙	高橋仁助	昭和15年(1940)
63	近藤清次郎 写真	1葉			
64	試験問題	2枚	一紙	近藤清次郎	昭和12年(1937) 昭和13年(1938)
65	渡辺格司 写真	1葉			昭和17年(1942)
66	菅野寅夫 写真	1葉			昭和15年(1940)
67	菅野寅夫 『全国五高会会報』50号記事	1冊	冊子	全国五高会	昭和62年(1987)9月
68	竹原東一 写真	1葉			大正元年(1924)
69	『丘の路』	1冊	冊子	竹原東一	平成5年(1993)
70	山崎兎茂吉 契約等書類	1式		第五高等学校	明治23年(1890)、明治28年(1895)、明治30年(1897)
71	山崎兎茂吉 出張命令	1枚	一紙	第五高等学校	明治27年(1894)
72	五高教職員 集合写真	8葉			大正5年、昭和4年、昭和12年、昭和17年、昭和20年
73	担当箱	1架	木材		
74	会議用の椅子	1脚			
75	隅棚	1架	木材		

#### 第4展示室【近代日本を支えた卒業生】

政界、官界、実業界、研究者、作家など各界で活躍した卒業生を紹介。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	五高卒業生と学科課程の変遷(パネル)	1枚			平成25年(2013)
2	学校系統図(パネル)	1枚			平成25年(2013)
3	五高卒業生紹介(パネル)	1枚			平成25年(2013)
4	五高時代と首相時代の池田勇人写真	1葉			
5	首相時代の池田勇人 写真	2葉			昭和36年(1961) 昭和39年(1964)
6	池田勇人と同級生 写真	1葉			
7	五高時代の佐藤栄作 写真	1葉			
8	首相時代の佐藤栄作 写真	1葉			昭和39年(1964)
9	ノーベル賞を受ける佐藤栄作写真	1葉			昭和49年(1974)12月10日
10	寺田寅彦 写真	1葉			明治32年(1899)
11	『触媒』	1冊		寺田寅彦	昭和10年(1935)
12	山本健一 『全国五高会会報』45号記事	1冊		山本健一	昭和61年(1986)6月

13	西村龍介 写真・小西六社誌(写)	2枚		(株)小西六	
14	『次郎物語』	1冊	冊子	下村湖人	
15	新風土 「次郎物語」	1冊	冊子	下村湖人	昭和23年(1948)
16	「短歌」 『会報』2号	1枚		下村湖人	昭和6年(1931)
17	下村湖人 写真	1葉			明治39年(1906)
18	生徒課日誌(写)	1枚		第五高等学校	明治40年(1907)9月17日
19	『萩原朔太郎詩集』	1冊	冊子	萩原朔太郎	昭和45年(1970)
20	随筆「池田勇人-敗戦と復興の現代史」	1冊	冊子	林房雄	昭和43年(1968)5月25日
21	色紙	1枚		林房雄	
22	『万葉の歌人』	1冊	冊子	犬養孝	
23	「八雲先生と五高」 『会報』8号	1冊	冊子	木下順二	昭和10年(1935)
24	『夕鶴』	1冊	冊子	木下順二	昭和59年(1984)
25	「春」 『龍南』230号	1冊	冊子	梅崎春生	昭和10年(1935)
26	年賀状(写)	1枚		中野孝次	昭和57年(1982)
27	『ハラスのいた日々』	1冊	冊子	中野孝次	昭和62年(1987)
28	『華の乱』	1冊	冊子	永畑道子	平成10年(1988)
29	大川周明 写真	1葉			明治40年(1907)
30	『古蘭』	1冊	冊子	大川周明訳	昭和25年(1950)
31	大川周明 『全国五高会会報』50号	1冊	冊子	竹原東一	昭和62年(1987)9月
32	『空想より化学へ』	1冊	冊子	大内兵衛訳	昭和21年(1946)
33	『論語』	1冊	冊子	宇野哲人訳	昭和4年(1929)
34	『大学・中庸』	1冊	冊子	宇野哲人訳	昭和5年(1930)
35	牛原虚彦 写真	2葉			大正15年(1926) 昭和17年(1942)
36	『虚彦映画譜50年』	1冊	冊子	牛原虚彦	昭和9年(1934)
37	李 源京 『全国五高会会報』35号	1冊	冊子	多々見恭資	昭和58年(1983)
38	『怒りの河』	1冊	冊子	李 佳炯	平成7年(1995)
39	女子生徒の合格を報じる記事	1枚		熊本日日新聞	昭和23年(1948)3月23日

## 第5展示室【五高の教育】

試験問題や授業風景、学校行事など五高生の学校生活を紹介。

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	掛木札 生徒心得	1枚	木材	第五高等学校	
2	掛木札 図書閲覧細則	1枚	木材	第五高等学校	明治39年(1906)
3	図書カード整理箱	1架	木材	第五高等学校	
4	図書閲覧室 写真	1葉		第五高等学校	
5	試験問題(写)	2枚		第五高等学校	明治20年(1887) 明治33年(1900)
6	総合共通選抜制 試験問題	4枚		第五高等学校	明治37年(1904)
7	入学通知	1式		第五高等学校	昭和11年(1936)
8	教科書	7冊	冊子		
9	賀来熊次郎 写真	1葉			
10	ドイツ語教科書				
11	明治末五高のドイツ語教師たち 写真	1葉			
12	龍南学徒報国団規則	1冊	冊子	第五高等学校	昭和15年(1940)
13	龍南学徒報国隊の組織編成図 (写)	1枚		第五高等学校	昭和16年(1941)
14	徴集者名簿	1冊	冊子	第五高等学校	昭和18年(1943)
15	出陣学徒壮行会での送辞・答辞 (写)	2枚	一紙	森 俊世、棧 熊獅	昭和18年(1943)10月13日
16	出陣学徒壮行会 写真	1葉			昭和18年(1943)10月13日
17	学徒出陣時に詠んだ短歌	1枚	一紙		昭和18年(1943)10月

18	表彰状 学徒動員	3枚	一紙		昭和20年(1945)
19	徴兵検査旅行証	1枚	一紙	第五高等学校	
20	終戦の日の寮務日誌(写)	1枚		第五高等学校	昭和20年(1945) 8月15日
21	森興彦 出陣の記録	1式			
22	銃架	1台			
23	理科実験道具類	22基			
24	龍南会関係資料	4冊	冊子	龍南会	明治41年(1908~昭和19年(1944))
25	龍南会雑誌・龍南	9冊	冊子	龍南会	
26	優勝カップ	6個			
27	旗	2旒			
28	開校記念運動会旗	1旒			
29	部報・部誌	24冊	冊子		
30	写真 学校生活	19葉	冊子		

## 第6展示室【習学寮の生活】

寮生活など、五高生の日常生活を紹介

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	YMCA花陵会(パネル)	2枚			
2	提灯	2個			
3	生徒の羽織	1枚		吉村常助	
4	大太鼓	1張		池田勇人寄贈	昭和39年10月(1964)
5	小太鼓	1張		東京五高会寄贈	
6	恵利武 写真	1葉			
7	『寮歌集』	1冊	冊子		
8	東京帝国大学寄贈寮歌楽譜	1枚			
9	寮歌「黎明の鐘」楽譜、随筆	2点			
10	寮歌(MD試聴)	1枚			
11	寮生誓詞(写)	1枚			昭和15年(1940)
12	寮生誓詞 昭和16年改訂(写)	1枚			昭和16年(1941)
13	出入寮通知簿	1冊		第五高等学校	
14	入寮者心得及習学寮諸規程	1枚		第五高等学校	
15	「習学寮報」創刊号(写)	1枚			昭和12年
16	寮務日誌	1冊	冊子	第五高等学校	昭和20年(1945)
17	外出又は外泊に関する指令簿	1冊	冊子	第五高等学校	
18	習学寮食堂清規(写)	2枚		第五高等学校	
19	第五高等学校習学寮炊事部日計表	1枚	冊子	第五高等学校	
20	習学寮食器 木箱(壬寅8/17)付き	3個		第五高等学校	
21	習学寮木札	1個		第五高等学校	
22	第五高等学校習学寮之印	1個		第五高等学校	
23	習学寮名入りバックル	1個			
24	習学寮鉄製・陶器火鉢	2個	鉄、陶器		
25	マーター先生のピアノ	1台			
26	マーター先生 写真	1葉			
27	写真 寮生活	38葉			
28	五高生逍遙地図(パネル)	1枚			



## 復原教室

五高当時の備品を用い、教室を復原している

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	黒板	1台	木製		
2	教卓	1台	木製		
3	机・椅子	36個	木製		

## 廊下

番号	資料名称	員数	材質・形態	作成者・発行者	年代
1	大太鼓	1張		福岡五高会寄贈	

第一展示室



第二展示室



第三展示室



第四展示室



第五展示室



第六展示室



復原教室



(宮田恭子)

## (2) 特別展・企画展等

平成21年度

### ① 企画展「忙中閑ありーアートするプロフェッサーー」



〔開催趣旨〕

本学には、研究の傍ら趣味として絵画、陶芸、写真、木工などに親しみ、レベルの高い作品を制作している教員が数多くいる。一部には、作品展をとおして腕前を披露している者もあるが、多くは身近な人にも知られていない。作品展を開催することで、教員同士あるいは学生たちとの話題やつながりを広げてゆく。また、一般の来館者やこの時期に来館の増える保護者には、作品を展示するだけでなく、各自の担当科目や研究内容、プロフィールなどを掲示することで、本学教員の幅広い人間性を感じ取ってもらうことを目的として開催した。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・写真・漆芸・陶芸・CG等46点

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成21年3月19日（木）～5月18日（月）

〔開催日数〕

60日間

〔期間中入館者数〕

1,625人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

市原富代（当館事務補佐員）

### ② 企画展「熊本大学の海外調査」



〔開催趣旨〕

熊本大学では、様々な海外学術（フィールド）調査が行われており、その成果はそれぞれ専門分野で発表され、高い評価を受けている。しかし、他の研究分野の研究者や学生、また一般の人の目に触れる機会は少ない。この展覧会では、これらの調査概要を一般の人にもわかりやすく展示し、幅広く展開される熊本大学の海外学術（フィールド）調査を紹介することを目的として開催した。

〔主な出品資料〕

パネルや写真、模型を使つての本学教授、准教授による海外フィールド調査の紹介

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔監修〕

伊藤重剛（当館館長）

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成21年8月7日（金）～10月26日（月）

〔開催日数〕

66日

〔期間中入館者数〕

2,542人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

③ 企画展「坂の上の雲の時代 日露戦争と熊本」



〔開催趣旨〕

五高記念館をはじめ熊本大学構内や三角西港で撮影が行われたNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」が放送されることにより、日露戦争とその時代への関心が高まっている。

明治維新後、近代国家として成長した日本が意気盛んな時代であり、市民生活や五高の生活にもいろいろな影響が見られ、第二次世界大戦時とはかなり違っている。当時の新聞記事や五高記念館に残された資料から、百年前の戦時の様子を垣間見られる展示を企画した。

〔主な出品資料〕

パネル・写真・市街地図・新聞記事等35点

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔協力〕

富重写真所

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成21年11月1日（日）～22年1月31日（日）

〔開催日数〕

64日間

〔期間中入館者数〕

2,361人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

④ 熊本大学公開講座 陶芸教室「作陶展」



〔開催趣旨〕

熊本大学公開講座の陶芸教室は、市民一般を対象に、もの作りを通した生涯学習として開催している講座であり、人気も高く受講生も多い。

陶芸教室では約半年かけて陶芸の基礎から学び作品を作り出している。これまでは、学外の施設でその成果作品を展示していたが、多くの学内の来館者に見てもらいたいということで、本館での開催とした。

〔主な出品作品〕

特別支援学校教員による公開講座「陶芸」コース受講者制作の陶芸作品約50点

〔主催〕

熊本大学政策創造研究教育センター 熊本大学教育学部附属特別支援学校

〔協力〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成21年12月5日（土）～12月18日（金）

〔開催日数〕

12日間

〔期間中入館者数〕

283人

〔展覧会担当者〕

芳武敏雄（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

⑤ 企画展「昭和六年の天覧標本 子どもたちが記録した豊かな熊本の自然」



〔開催趣旨〕

昭和6年11月の陸軍特別大演習・地方行幸に際して、昭和天皇に熊本の動植物などを天覧するため、「聖駕奉迎博物採集動員」が行われた。50万人を超える児童、生徒、職員によって採集された標本は、93万点に及んだ。この時作成され、昭和天皇の天覧に供したのが「天覧標本」である。この中には「キキョウ」「カワラサイコ」「ハカマカズラ」など、県内では今や絶滅が危惧される植物が数多く含まれている。

昭和6年の博物採集動員で集められた数多くの標本から、今とは比べものにならないほど自然が豊かであった時代を振り返るとともに、熊本の博物学の発展に大きな影響を与えたこの事業の意義を紹介した。

〔主な出品資料〕

天覧植物標本約135点・天覧石材見本13点・天覧木炭標本2点・その他解説パネル等

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本県文化企画課

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会 熊本記念植物採集会  
熊本県自然保護関係団体協議会

〔監修〕

熊本記念植物採集会

〔協力〕

熊本県林業研究指導所

〔後援〕

熊本県教育委員会 熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成22年3月1日（月）～5月31日（月）

〔開催日数〕

87日間

〔期間中入館者数〕

2,773人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

〔記念講演会〕

日時 平成22年5月8日（土）13：30～15：30

演題 「天覧標本と熊本の博物学」

講師 今江正知（熊本記念植物採集会名誉会長）

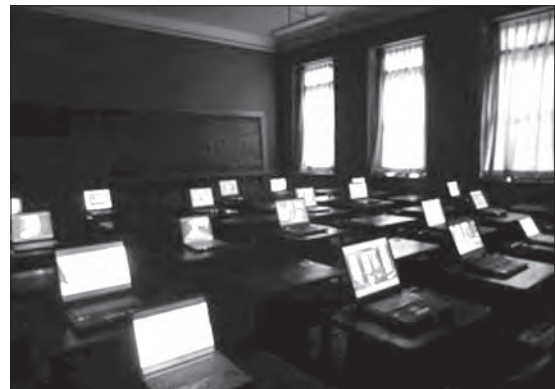
会場 熊本大学工学部百周年記念館

〔参加者数〕

97人

## 平成22年度

### ① 現代アート展示「いないいないばあ～階段の怪談」



〔開催趣旨〕

ラフカディオ・ハーン生誕160年、来日120年を記念し、現代美術館で開催された「へるんさんの秘めごと」の関連展示である。現代日本のアーティストにより、ハーンの世界や趣味、嗜好が脈々と現代に受け継がれていることを視覚化・検証することを目指した。本展示では復原教室の机に映像の再生機器（ノートパソコン）を設置して館内で撮影した映像を放映し、ハーンの世界をイメージした。

〔主な出品作品〕

ビデオカメラで撮影された映像作品

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本市現代美術館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館1階復原教室

〔開催期間〕

平成22年6月26（土）～9月5日（日）

〔開催日数〕

55日間

〔期間中入館者数〕

1,881人

〔展覧会担当者〕

鈴木 淳 熊本市現代美術館

### ② 企画展「五高時代の漱石先生2010」

〔開催趣旨〕

人生の一時期を五高教師として熊本で過ごした夏目漱石の教師としての姿に着目し、その活動や生活が後の作品執筆の大きな糧となったことを紹介することを目的として開催した。

〔主な出品資料〕

五高時代年譜・写真45点・新聞記事・転居地図・その他解説

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成22年8月10日（火）～24年3月10日（日）

〔開催日数〕

455日間

〔期間中入館者数〕

17,261人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

### ③ 企画展「アートするプロフェッサー」



〔開催趣旨〕

本学には、研究の傍ら趣味として絵画、陶芸、写真、木工などに親しみ、レベルの高い作品を制作している教員が数多くいる。本学教職員によるアート作品発表の場所を提供するとともに、地域社会と大学や、職員同士あるいは学生たちとの交流を促進することを目的とした。

さらに、国の重要文化財に指定されている五高記念館で数多くの美術作品に親しんでもらうことで、社会に開かれた大学として地域社会の文化の向上に寄与することを目的として開催した。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・写真・漆芸・陶芸・CG等41点

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本大学教員美術会

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成22年10月1日（金）～12月6日（月）

〔開催日数〕

59日間

〔期間中入館者数〕

3,043人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

市原富代（当館事務補佐員）

#### ④ 熊本大学公開講座 陶芸教室「作陶展」



##### 〔開催趣旨〕

熊本大学公開講座の陶芸教室は、市民一般を対象に、もの作りを通じた生涯学習として開催している講座であり、人気も高く受講生も多い。

陶芸教室では約半年かけて陶芸の基礎から学び作品を作り出している。これまでは、学外の施設でその成果作品を展示していたが、多くの学内の来館者に見てもらいたいということで、本館での開催とした。

##### 〔主な出品作品〕

特別支援学校教員による公開講座「陶芸」コース受講者制作の陶芸作品約50点

##### 〔主催〕

熊本大学政策創造研究センター 熊本大学附属特別支援学校

##### 〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

##### 〔協力〕

熊本大学五高記念館

##### 〔会場〕

当館2階企画展示室

##### 〔開催期間〕

平成22年12月8日（水）～12月17日（金）

##### 〔開催日数〕

9日間

##### 〔期間中入館者数〕

280人

##### 〔展覧会担当者〕

芳武敏雄（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

#### ⑤ 企画展「ちょっと昔の暮らし探検」

##### 〔開催趣旨〕



昭和30年代後半から40年代にかけての高度経済成長の下、機械化、電化、プラスチックなどの化学製品の普及により、日本人の暮らしは激変した。このように短期間で日々の暮らしが変化することとは、これまで日本人が経験したことがないものである。

今回の展示では水道、電化製品、ガス製品が普及する以前の暮らしの道具、機械化が進む以前の農機具、漁具などを中心に約200点の昔の道具を展示した。なお、この展覧会の展示は学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ」の受講生22人が担当した。

##### 〔主な出品資料〕

農機具・漁具等約200点

##### 〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本県文化企画課

##### 〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

##### 〔会場〕

当館2階企画展示室

##### 〔開催期間〕

平成23年1月17日（月）～2月14日（月）

##### 〔開催日数〕

24日間

##### 〔期間中入館者数〕

558人

##### 〔展覧会担当者〕

岩崎竹彦（当館准教授・学芸員養成課程担当）

國本信夫（熊本県文化企画課主幹）

迫田久美子（熊本県松橋収蔵庫学芸員）

① 企画展「アートするプロフェッサー」



〔開催趣旨〕

本学には、研究の傍ら趣味として絵画、陶芸、写真、木工などに親しみ、レベルの高い作品を制作している教員が数多くいる。本学教職員によるアート作品発表の場所を提供するとともに、地域社会と大学や、職員同士あるいは学生たちとの交流を促進することを目的とした。

さらに、国の重要文化財に指定されている五高記念館で数多くの美術作品に親しんでもらうことで、社会に開かれた大学として地域社会の文化の向上に寄与することを目的として開催した。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・写真・漆芸・陶芸・CG等44点

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本大学教員美術会

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会 熊本大学教育学部

〔後援〕

熊本県教育委員会 熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成23年11月4日（金）～12月5日（月）

〔開催日数〕

28日間

〔期間中入館者数〕

1,840人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

市原富代（当館事務補佐員）

② 企画展「五高記念館収蔵美術品展」

〔開催趣旨〕

五高記念館所蔵の美術品を展示することで、五高記念館が貴重な資料を収蔵している博物館であることをアピールし、数多くの美術品に親しんでもらうことにより、社会に開かれた大学として地域社会の文化の向上に寄与することを目的とした。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・陶芸等9点

〔主催〕

熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔後援〕

熊本県教育委員会 熊本市教育委員会

〔会場〕

当館2階展示準備室

〔開催期間〕

平成23年11月4日（金）～12月5日（月）

〔開催日数〕

28日間

〔期間中入館者数〕

1,840人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

③ 共催展「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」

（天草市立本渡歴史民俗資料館）



〔開催趣旨〕

八代市在住の麦島 勝氏は熊本県全域でほぼ半世紀近く写真を撮影し、人々の生活を記録しつづけている。この中から昭和20年代から30年代にかけて天草で撮影された昭和の生活を物語るものを中心に展示した。

現在麦島氏の写真は熊本大学拠点形成B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」研究グループデジタル化を進めている最中であり、本展示はその成果でもある。

〔主な出品資料〕

昭和20年代から30年代の天草・八代地方の写真約100点

〔主催〕

天草市立本渡歴史民俗資料館

〔共催〕

熊本大学五高記念館 熊本大学拠点形成B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」研究グループ 熊本大学文部科学省特別研究「生物多様性のある八代海沿岸海域の俯瞰型再生研究プロジェクト」研究グループ

〔会場〕

天草市立本渡歴史民俗資料館 2階研修室

〔開催期間〕

平成23年11月8日（火）～12月25日（日）

〔開催日数〕

48日間

〔期間中入館者数〕

1,664人

〔展覧会担当者〕

梶原誠太郎(天草市立本渡歴史民俗資料館学芸員)

岩崎竹彦(当館准教授)

國本信夫(熊本県文化企画課主幹)

④ 熊本大学公開講座 陶芸教室「作陶展」



〔開催趣旨〕

熊本大学公開講座の陶芸教室は、市民一般を対象に、もの作りを通じた生涯学習として開催している講座であり、人気も高く受講生も多い。

陶芸教室では、約半年かけて陶芸の基礎から学び作品を作り出している。これまでは、学外の施設でその成果作品を展示していたが、多くの学内の来館者に見てもらいたいということで、本館での開催とした。

〔主な出品作品〕

特別支援学校教員による公開講座「陶芸」コース受講者製作の陶芸作品約50点

〔主催〕

熊本大学政策創造研究センター 熊本大学附属特別支援学校

〔協力〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

当館2階展示準備室

〔開催期間〕

平成23年12月7日（水）～12月16日（金）

〔開催日数〕

9日間

〔期間中入館者数〕

214人

〔展覧会担当者〕

芳武敏雄(熊本大学教育学部附属特別支援学校)



⑤ 共催展「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」  
（天草宝島国際交流会館ポルト）

〔開催趣旨〕

〔主な出品資料〕

前述「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」に同じ

〔主催〕

天草市立本渡歴史民俗資料館 天草宝島国際交流会館ポルト

〔共催〕

前述「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」に同じ

〔会場〕

天草宝島国際交流会館ポルト 2階展示ホール

〔開催期間〕

平成23年12月27日（火）～平成24年1月3日（火）

〔開催日数〕

8日間

〔期間中入館者数〕

86人

〔展覧会担当者〕

前述「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」に同じ

⑥ 企画展「ちょっと昔のくらし探検Ⅳ」



〔開催趣旨〕

昭和30年代後半から40年代にかけての高度経済成長の下、機械化、電化、プラスチックなどの化学製品の普及により、日本人の暮らしは激変した。このように短時間で日々の暮らしが変化するということは、これまで日本人が経験したことがないものである。

今回の展示では水道、電化製品、ガス製品が普及する以前の暮らしの道具、機械化が進む以前の農機具、漁具などを中心に約200点の昔の道具を展示し

た。なお、この展覧会の展示は学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ」の受講生13人が担当した。

〔主な出品資料〕

台所用具・照明器具・暖房機器・洗濯・裁縫用具・農機具・漁具等

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本県文化企画課松橋収蔵庫

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成24年1月5日（木）～2月16日（木）

〔開催日数〕

34日間

〔期間中入館者数〕

492人

〔展覧会担当者〕

岩崎竹彦（当館准教授・学芸員養成課程担当）

國本信夫（熊本県文化企画課主幹）

迫田久美子（熊本県松橋収蔵庫学芸員）

⑦ 共催展「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」  
（天草市立天草コレジヨ館）

〔開催趣旨〕

〔主な出品資料〕

前述「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」に同じ

〔主催〕

天草市立本渡歴史民俗資料館 天草市立天草コレジヨ館

〔共催〕

前述「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」に同じ

〔会場〕

天草市立天草コレジヨ館 1階展示室

〔開催期間〕

平成24年1月14日（土）～2月29日（水）

〔開催日数〕

47日間

〔期間中入館者数〕

612人

〔展覧会担当者〕

前述「天草今昔－麦島 勝の見た昭和－」に同じ

⑧ 熊本大学教育学部美術科卒業・修了制作展

〔開催趣旨〕

熊本大学教育学部美術科では、毎年卒業・修了制

作展を熊本県立美術館分館で開催しており、多くの市民の入館があるが、本学関係者や学生の入館は少ない。本年も県立美術館分館において同展を開催するが、引き続き五高記念館で開催することにより、展示機会と見学者数を増やし、当館企画展示室の有効活用を図れると共に社会貢献の機会を増やすことを目的とした。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・論文及び関連作品等約30点

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本大学教育学部美術科

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成24年3月13日（火）～3月25日（日）

〔開催日数〕

13日間

〔期間中入館者数〕

305人

〔展覧会担当者〕

熊本大学教育学部美術科

## 平成24年度

### ① 企画展「大城組の小さな巨匠たち」



〔開催趣旨〕

「大城組の小さな巨匠たち」は、福岡と熊本市内の特別支援学校・特別支援学級に在籍する子ども達と、その保護者を中心に構成された団体である。主に絵画や詩や書などの作品制作や展覧会の開催を

通して、支援の必要な子ども達の社会参加の場の拡大と社会へ正しい啓発のメッセージを伝えることを目的として、特別支援学級の大城由紀子教諭の働きかけの元に2009年から活動している。本展覧会は、社会参加の一環として、子どもたちの作品を展示した。

〔主な出品作品〕

絵画・書・写真・生け花

〔主催〕

熊本大学五高記念館友の会 熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科 佐々木千穂研究室

〔共催〕

熊本大学五高記念館

〔協力〕

熊本大学附属特別支援学校華道クラブ

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成24年9月15日（土）～10月28日（日）

〔開催日数〕

38日間

〔期間中入館者数〕

1,552人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

### ② 企画展「アートするプロフェッサー」



〔開催趣旨〕

本学には、研究の傍ら趣味として絵画、陶芸、写真、木工などに親しみ、レベルの高い作品を制作している教員が数多くいる。本学教職員によるアート

作品発表の場所を提供するとともに、地域社会と大学や、職員同士あるいは学生たちとの交流を促進することを目的とした。

さらに、国の重要文化財に指定されている五高記念館で数多くの美術作品に親しんでもらうことで、社会に開かれた大学として地域社会の文化の向上に寄与することを目的として開催した。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・写真・漆芸・陶芸・CG等41点

〔主催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔共催〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成24年11月2日（金）～12月3日（月）

〔開催日数〕

28日間

〔期間中入館者数〕

1,789人

〔展覧会担当者〕

藤本秀子（当館特定事業研究員）

市原富代（当館事務補佐員）

### ③ 企画展「ちょっと昔のくらし探検Ⅴ」



〔開催趣旨〕

昭和30年代後半から40年代にかけての高度経済成長の下、機械化、電化、化学製品の普及が進み、日本人の日々の暮らしは大きく変わっていった。

今回の展示では水道、電化製品、ガス製品が普及する以前の暮らしの道具、機械化が進む以前の農機

具、漁具などを中心に約200点の昔の道具を展示した。世代を超えて一緒に楽しんでもらいたいとの思いで、ちょっと昔までは当たり前だが、今の子どもたちにとっては想像もできない暮らしや仕事の様子、道具等を紹介した。

なお、この展覧会の展示は学芸員養成課程「博物館実習Ⅰ」の受講生20人が担当した。

〔主な出品資料〕

台所用具・照明機器・暖房機器・洗濯・裁縫用具・農機具・漁具等

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本県文化企画課松橋収蔵庫

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成25年1月24日（木）～2月23日（月）

〔開催日数〕

27日間

〔期間中入館者数〕

436人

〔展覧会担当者〕

岩崎竹彦（当館准教授・学芸員養成課程担当）

國本信夫（熊本県文化企画課主幹）

迫田久美子（熊本県松橋収蔵庫学芸員）

### ④ 熊本大学教育学部美術科卒業・修了制作展

〔開催趣旨〕

熊本大学教育学部美術科の卒業・修了制作展を五高記念館で開催することにより、展示機会と見学者数を増やし、当館企画展示室の有効活用を図れると共に社会貢献の機会を増やすことを目的とした。

〔主な出品作品〕

絵画・彫刻・工芸・論文及び関連作品等約30点

〔主催〕

熊本大学五高記念館 熊本大学教育学部美術科

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

当館2階企画展示室

〔開催期間〕

平成25年3月4日（月）～3月14日（木）

〔開催日数〕

9日間

〔期間中入館者数〕

292人

〔展覧会担当者〕

熊本大学教育学部美術科

(市原富代・薄田千穂)

## 2 教育普及事業

### (1) 講演会・文化講座・コンサート等

#### 平成21年度

#### ① 熊本大学設立60周年記念 春の茶会と館内見学ツアー



#### 〔開催趣旨〕

毎年、入学式には多くの新入学生の保護者が本学を訪れる。本館では、五高につながる熊本大学の歴史や恵まれた自然環境をアピールするため、保護者向けの館内見学ツアーと茶席での接待を実施した。

#### 〔主催〕

熊本大学五高記念館

#### 〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

#### 〔協力〕

熊本大学茶道部

#### 〔会場〕

茶席－くすのき会館（雨天のため五高記念館前より変更） 館内見学ツアー－五高記念館常設展示室

#### 〔日時〕

平成21年4月4日（土）10：00～16：00

#### 〔参加人数〕

76人

#### ② 熊本大学ホームカミングデー茶会

#### 〔主催〕

熊本大学 熊本大学五高記念館

#### 〔協力〕

熊本大学茶道部 熊本大学五高記念館友の会

#### 〔会場〕

熊本大学五高記念館

#### 〔日時〕

平成21年11月1日（日）11：00～16：00

#### 〔参加者数〕

85人

#### ③ 秋の夕暮れクラシックコンサート2009



#### 〔開催趣旨〕

工学部研究資料館は「熊本大学工学部（旧熊本高等工業学校）旧機械実験工場」として国の重要文化財指定を受けている（附指定：工作機械1式）。優れた音響効果を期待できることから、コンサート会場として活用し、貴重な歴史遺産を多くの人々に知ってもらうことを目的に開催した。

#### 〔主催〕

熊本大学工学部研究資料館 熊本大学五高記念館

#### 〔共催〕

熊本大学工学部技術部 熊本大学五高記念館友の会

#### 〔協力〕

熊本大学クラシックギタークラブ 熊本大学フィルハーモニーオーケストラ

#### 〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

#### 〔日時〕

平成21年11月6日（金）18：30～19：30

#### 〔演奏〕

熊本大学クラシックギタークラブ

熊本大学フィルハーモニーオーケストラ

#### 〔曲目〕

「雨にぬれても」「ロータ・スイター」「春よ、来い」「アストリアス」「大聖堂」「フルート三重奏のための雅」「4本のバイオリンのための協奏曲」「オーボエ四重奏曲」より第3楽章

〔参加者数〕

50人

## 平成22年度

### ① 「昭和六年の天覧標本」展記念講演会

日時 平成22年5月8日(土) 13:30~15:30

詳細は、企画展「昭和六年の天覧標本 子どもたちが記録した豊かな熊本の自然」の〔記念講演会〕として記載した(pp20)。

### ② 熊本大学サマースクール「五高記念館で漱石を学ぶ」



〔開催趣旨〕

熊本大学(実施主体:政策創造研究教育センター、五高記念館)では、社会貢献の新たな形として滞在型公開講座を企画した。

『熊本大学サマースクール』と名付けた滞在型公開講座では、全国的に興味を喚起するであろうテーマを取り上げ、1週間程度のカリキュラムを組み、首都圏や関西圏を中心に、熊本に滞在して学ぼうという受講生を募り、熊本市内及び熊本県内をフィールドとして実施した。

今回の試みは、熊本県や熊本市、熊本国際観光コンベンション協会などと連携して取り組むことにより、熊本の観光地としての魅力を発信すると共に、大学のグローバル化を視野に入れた幅広い広報活動として開催した。

〔企画監修〕

熊本大学 熊本大学五高記念館 熊本大学政策創造研究教育センター

〔企画実施〕

九州産交ツーリズム株式会社

〔協力〕

夏目漱石内坪井旧居 草枕交流館 熊本近代文学館 ホテル山王閣漱石記念館

〔後援〕

熊本市

〔会場〕

熊本大学五高記念館 夏目漱石旧居 草枕記念館等

〔開催期間〕

平成22年8月23日(月)~8月27日(金)

〔開催日数〕

5日間

〔内容〕

○講座

◎「戦前の高等学校制度と第五高等学校」

三澤 純(熊本大学文学部准教授)

◎「五高時代の漱石 論説『人生』を読む」

坂元昌樹(熊本大学文学部准教授)

◎「熊本時代の漱石 その日常の交遊」

村田由美(熊本高等専門学校講師)

◎「熊本と漱石の文学」

中村青史(元熊本大学教育学部教授・草枕交流館長)

◎「子規と漱石」「漱石のロンドン留学」

末延芳晴(文芸評論家)

◎「松山の『坊っちゃん』VS熊本の『草枕』」

跡上史郎(熊本大学教育学部准教授)

◎「漱石と俳句にトライ」

岩岡中正(熊本大学法学部教授)

○阿蘇フィールドワーク

○五高記念館内見学 案内実施

〔参加人数〕

7人

### ③ 熊本大学ホームカミングデー茶会

〔主催〕

熊本大学 熊本大学五高記念館

〔協力〕

熊本大学茶道部 熊本大学五高記念館友の会

〔会場〕

熊本大学五高記念館

〔日時〕

平成22年10月30日(土) 11:00~16:00

〔参加者数〕

150人

④ 秋の夕暮れ・工学部赤レンガ資料館コンサート



〔開催趣旨〕

工学部研究資料館は「熊本大学工学部（旧熊本高等工業学校）旧機械実験工場」として国の重要文化財指定を受けている（附指定：工作機械1式）。ふだん公開していないが、優れた音響効果を期待できることから、コンサート会場として活用し、貴重な歴史遺産を多くの人々に知ってもらうことを目的とし、さらに、本学の音楽教育や音楽サークルの成果発表や社会貢献の場とすることも目的として開催した。

〔主催〕

熊本大学工学部研究資料館 熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学工学部技術部 熊本大学五高記念館友の会

〔協力〕

熊本大学教育学部音楽科 熊本大学マンドリンクラブ

〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

〔日時〕

平成22年11月12日（金）18：00～19：00

〔演奏〕

バイオリン／ビオラ 吉永誠吾（熊本大学教育学部教授）

ピアノ 島 優子（熊本大学非常勤講師）  
岩切舞子 名川親子

ソプラノ独唱 名川親子

マンドリン 杉山大介 瀬之口僚 福屋 篤  
磯部友弥

〔曲目〕

「A flower in every heart」「南蛮渡来」「グラスの中の月夜」「旅愁」「ビリーブ」「小さい秋見つけた」「小さな木の実」「秋の子」「荒城の月」「虹の彼方に」「さくらさくら」「愛のあいさつ」「白鳥」「エレジー」「チャルダッシュ」

〔参加者数〕

112人

平成23年度

① 熊本県民カレッジ「熊本学①」コース第3講座

〔主催〕

熊本県生涯学習推進センター

〔協力〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

当館復原教室

〔日時〕

平成23年6月9日（木）11：00～16：00

〔内容〕

○五高記念館内見学 案内実施

○講座

「八雲・漱石他～熊本高等教育のあけぼの～」

猪飼隆明（大阪大学名誉教授）

〔参加者数〕

40人

② 熊本大学滞在型セミナー「熊本へ行こう！ 明治を探そう！！」



〔開催趣旨〕

本学の中期目標・中期計画に基づくアクションプラン2010（プラン50）には、“五高記念館を利用し

た長期滞在型セミナーの実施”を掲げており、この実現を図ることを目的とした。また、滞在型セミナーとすることで、県外在住の方々の中から、“いわゆる熊大ファン”や“熊大応援団”を創出し、将来の様々な本学の活動に資することを目的として開催した。

〔主催〕

熊本大学政策創造研究教育センター 熊本大学五高記念館

〔共催〕

九州産交ツーリズム株式会社

〔後援〕

熊本県 熊本市 玉東町 NHK熊本放送局 熊本日日新聞社

〔会場〕

熊本大学五高記念館 化学実験場等

〔開催期間〕

平成23年11月3日（木）～5日（土）

〔開催日数〕

3日間

〔内容〕

- 見学－五高記念館・城下町熊本歴史探訪
- 講座
- ◎「江戸から明治へ 激動の城下町・熊本」  
富田紘一（熊本市文化財専門相談員）
- ◎「ドラマ『坂の上の雲』制作の裏側」  
藤澤浩一（NHKドラマ「坂の上の雲」チーフプロデューサー）
- ◎「熊本の明治建築」  
伊藤重剛（五高記念館長）
- ◎「子規と漱石の青春－俳句をめぐって－」  
岩岡中正（熊本大学大学院社会文化科学研究科長）
- ◎「西郷と横井小楠から辛亥革命へ－激動の明治の青春－」  
中村青史（元熊本大学教育学部教授）

〔参加者数〕

37人

### ③ 熊本大学ホームカミングデー茶会

〔主催〕

熊本大学 熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学茶道部 熊本大学五高記念館友の会

〔場所〕

熊本大学五高記念館

〔日時〕

平成23年11月5日（土）11：00～16：00

〔参加者数〕

103人

### ④ 日本サウンドスケープ協会研究発表会スペシャルセッション「産業遺産と音」

〔開催趣旨〕

熊本大学工学部研究資料館は、その中にある工作機械群を含めて国指定の重要文化財である。本企画はその歴史ある空間の中で、軍艦島、万田坑など九州の産業遺産を取材し制作した映像作品の紹介を通じて「産業遺産と音」について共に考えつつ、「サウンドスケープ＝音の風景」という考え方を来場の人々に紹介することを目的として開催した。

〔主催〕

日本サウンドスケープ協会

〔共催〕

熊本大学五高記念館 熊本大学工学部研究資料館

〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

〔日時〕

平成23年11月11日（金）18：30～19：30

〔内容〕

映像作品「軍艦島黙示録」の制作者による講演とマルチメディアプレゼンテーション

西田信行（NPO法人J-heritage顧問）

佐藤 宏（音響エンジニア）

〔参加者数〕

25人

### ⑤ 工学部赤レンガ資料館 秋の夕暮れコンサート





〔開催趣旨〕

国指定の重要文化財である工学部研究資料館と館内に設置されている工作機械群（動態保存）をより多くの方々に知ってもらうと共に、本学教育学部の音楽科の教師、学生などが出演し、本学の音楽教育の成果発表や社会貢献の場とすることも目的として開催した。

〔主催〕

熊本大学工学部研究資料館 熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学工学部技術部 熊本大学五高記念館友の会

〔協力〕

熊本大学教育学部音楽科

〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

〔日時〕

平成23年11月18日（金）18：00～19：00

〔演奏〕

バイオリン 吉永誠吾（熊本大学教育学部教授）  
ピアノ 袴田和泉（熊本大学教育学部教授）

〔熊本大学教育学部音楽科〕

バイオリン 尾上香織 河野真理  
ピアノ 盛田安紗未  
ヴィオラ 松尾理菜  
チェロ 繁永菜那美  
コントラバス 吉田晃次郎 八谷治廣  
クラリネット 糸永理子  
ホルン 石田ひかる  
トランペット 家入 侑 三橋貴彦

〔曲目〕

「アルペジョーネソナタ第1楽章」「ロマンス」「パッサカリア」「愛の夢」「『六つのポーランド歌曲』より乙女の願い」「嵐メドレー」「カノン」

〔参加人数〕

87人

⑥ 小泉八雲来熊120年記念事業



〔主催〕

熊本スピリット発信協議会 小泉八雲来熊120年記念事業実行委員会 熊本大学

〔協力〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

熊本大学工学部百周年記念館

〔日時〕

平成23年11月26日（土）13：00～17：00

〔内容〕

○基調講演

「ハーンと熊本－丸山 学の民俗学とハーン」  
小泉 凡（島根県立大学教授）

○シンポジウム

テーマ「ハーン来熊120年これまでとこれから－ハーンの多面性の底流にあるもの－」

〈パネリスト〉

池田雅之（早稲田大学教授）  
長岡真吾（島根大学教授）  
西川盛雄（熊本大学名誉教授）

〈コーディネーター〉

小泉 凡

〈司会〉

アラン・ローゼン

○公演 清和文楽（熊本県指定重要無形文化財）

演目「雪女」

○演奏 アイリッシュクリーム

〔参加人数〕

300人

平成24年度

① 熊本大学ホームカミングデー茶会

〔主催〕

熊本大学 熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学五高記念館友の会

〔協力〕

熊本大学茶道部

〔会場〕

熊本大学五高記念館

〔日時〕

平成24年11月3日（土）11：00～16：00

〔参加者数〕

92人

② 工学部赤レンガ資料館 秋の夕暮れコンサート



〔開催趣旨〕

本学が進める「熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想」整備の一環として開催した。また、国指定の重要文化財である工学部研究資料館と館内に設置されている工作機械群（動態保存）をより多くの方々に知ってもらうと共に、本学教育学部の音楽科の教師、学生や、学内の音楽サークルの学生などが出演し、本学の音楽教育や音楽サークルの成果発表や社会貢献の場とすることも目的として開催した。

〔主催〕

熊本大学工学部研究資料館 熊本大学五高記念館

〔共催〕

熊本大学工学部技術部 熊本大学五高記念館友の会

〔協力〕

熊本大学教育学部音楽科

〔会場〕

熊本大学工学部研究資料館

〔日時〕

平成24年11月9日（金）18：00～19：00

〔演奏〕

バイオリン 吉永誠吾（熊本大学教育学部教授）  
 ピアノ 国枝春恵（熊本大学教育学部教授）  
 箏 山川玉枝（元熊本大学非常勤講師）  
 フルート 大村友樹（平成音楽大学非常勤講師）  
 弦楽アンサンブル：熊本大学フィル弦楽アンサンブル  
 金管アンサンブル：熊本大学フィル金管アンサンブル  
 合唱：熊本日独協会合唱団コール・クライゼル

〔曲目〕

「春の海」「『ブリージング』フルートとピアノのための（2002）」「『イースター・エッグ』フルートとピアノのための（2011）」「『イースター・エッグⅡ』フルートとピアノのための（2012）」「フーガと神秘」「Tico-Tico」「『天地創造』より天はみ神の栄光を語り」

〔参加人数〕

114人

③ 平成24年度 ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）

顕彰記念事業 講演と鼎談 ハーン五高時代の『講義ノート』の新発見



〔主催〕

熊本八雲会

〔共催〕

熊本アイランド協会 熊本公徳会 熊本大学  
五高記念館友の会

〔協力〕

熊本大学五高記念館

〔会場〕

桜の馬場城彩苑多目的交流室

〔日時〕

平成24年11月17日（土）13：30～16：30

〔内容〕

○講演

ハーン『講義ノート』発見の経緯と内容紹介  
マリ・クリスティーヌ

○鼎談

教育者ハーンの実像を求めて  
マリ・クリスティーヌ  
アラン・ローゼン（放送大学客員教授）  
西川盛雄（熊本大学客員／名誉教授）

○見学ツアー

ハーンゆかりの場所以見学ツアー  
場所 熊本大学五高記念館、石仏など  
日時 平成24年11月24日（土）13：00～16：00

〔参加人数〕

300人

## （2）出版活動

### 平成21年度

- ① 『熊本大学五高記念館館報』第1号〈平成18年度～20年度〉（A4版101頁）  
編集・発行 熊本大学五高記念館  
発行日 平成21年12月25日



### 平成23年度

- ① 『第五高等学校の学徒出陣』熊本大学五高記念館叢書 第1集（A4版131頁）  
編集・発行 熊本大学五高記念館  
発行日 平成24年3月31日



## （3）生涯学習に関する事

本学が整備を進めている大学博物館構想におい

て、五高記念館がその中核的組織となり、生涯学習振興において期待される役割を果たすことを目的として市民研究員制度を設置している。

市民研究員は当館が実施する諸活動に参画し、また自主的に課題を見つけ、当館スタッフとともに課題解決に向けた活動を実施する。こうした活動を通して市民研究員は自らの学習成果を発表し、その評価を受けることで社会的通用性の確立が可能となろう。さらに他の博物館と連携することで、地域社会におけるワンストップサービス及び生涯学習プラットフォームの構築を模索するものである。

平成23年度から1名（東 孝治）が市民研究員となり、五高記念館内において、調査・研究活動を実施している。

#### （4）友の会活動

熊本大学五高記念館友の会は、平成13年9月15日に発足した。

役員は以下のとおりである。

・代表世話人

平山謙二郎（平成13年9月15日～平成20年2月13日）

小野友道（平成20年2月14日～）

・世話人

書川清哉（平成13年3月13日～平成17年4月22日）

笹原正志（平成13年3月13日～平成17年4月22日）

中島最吉（平成13年3月13日～平成22年9月2日）

西岡鐵夫（平成13年3月13日～平成23年8月22日）

岩岡中正（平成13年3月13日～）

今江正知（平成13年3月13日～）

西川盛雄（平成13年3月13日～）

東 孝治（平成13年3月13日～）

久野啓介（平成13年3月13日～）

北野 隆（平成15年4月5日～）

田口宏昭（平成17年4月23日～）

上村直己（平成17年4月23日～）

伊藤重剛（平成19年6月2日～）

岩崎竹彦（平成19年6月2日～）

和田正隆（平成19年6月2日～）

緒方誠一郎（平成23年11月29日～）

藤本秀子（平成23年11月29日～）

・監事

西岡鐵夫（平成13年3月13日～平成23年8月22日）

書川清哉（平成16年2月4日～平成17年3月28日）

西川盛雄（平成17年3月29日～）

東 孝治（平成23年11月29日～）

・事務局長

東 孝治（平成13年3月13日～平成23年11月28日）

藤本秀子（平成23年11月29日～）

以下、年度別の活動概要を報告する。

#### 平成21年度

・代表世話人 小野友道

・世話人 中島最吉 西岡鐵夫 岩岡中正 今江正知 西川盛雄 東 孝治 久野啓介 北野 隆 田口宏昭 上村直己 伊藤重剛 岩崎竹彦 和田正隆

・監事 西岡鐵夫 西川盛雄

・事務局長 東 孝治

○会員数（3月末日）127人

① 【共催】企画展「忙中閑ありーアートするプロフェッサー」

開催期間 平成21年3月19日（木）～5月18日（月）

② 【共催】熊本大学設立60周年記念 春の茶会と館内見学

日時 平成21年4月4日（土）10：00～16：00

③ 会報『赤煉瓦通信』第7号発行

編集・発行 熊本大学五高記念館友の会

発行日 平成21年4月15日



④ 【共催】企画展「熊本大学の海外調査」

開催期間 平成21年8月7日（金）～10月26日（日）

⑤ 【協力】熊本大学ホームカミングデー茶会

日時 平成21年11月1日（日）11：00～16：00

⑥ 【共催】企画展「坂の上の雲の時代 日露戦争と熊本」

開催期間 平成21年11月1日（日）～1月31日（日）

⑦ 【共催】秋の夕暮れクラシックコンサート2009

日時 平成21年11月6日(金) 18:00~19:00

- ⑧ 平成21年度五高記念館友の会総会  
開催日 平成21年5月16日(土)
- ⑨ 【共催】企画展「昭和六年の天覧標本 子ども  
たちが記録した豊かな熊本の自然」  
開催期間 平成22年3月1日(月)~5月31日(月)

## 平成22年度

- ・代表世話人 小野友道
- ・世話人 中島最吉(～9月2日) 西岡鐵夫  
岩岡中正 今江正知 西川盛雄  
東孝治 久野啓介 北野隆  
田口宏昭 上村直己 伊藤重剛  
岩崎竹彦 和田正隆
- ・監事 西岡鐵夫 西川盛雄
- ・事務局長 東孝治
- 会員数(3月末日) 133人
- ① 【共催】「昭和六年の天覧標本」展記念講演会  
日時 平成22年5月8日(土) 13:30~15:30
- ② 平成22年度五高記念館友の会総会  
開催日 平成22年5月22日(土)  
記念講演  
「九州の山のパイオニア 五高山岳部」  
矢加部和幸(熊本大学政策創造研究教育センター教授)
- ③ 【共催】現代アート展示「いないいないばああ」  
「階段の怪談」  
開催期間 平成22年6月26日(土)~9月5日(日)
- ④ 会報『赤煉瓦通信』第8号 友の会発足十周年  
記念号  
編集・発行 熊本大学五高記念館友の会  
発行日 平成22年9月1日



- ⑤ 【共催】企画展「五高時代の漱石先生2010」  
開催期間 平成22年8月10日(火)~24年3月26日(月)
- ⑥ 【協力】熊本大学サマースクール「五高記念館で漱石を学ぶ」  
開催期間 平成22年8月23日(月)~8月27日(金)
- ⑦ 【協力】くまもと夏目漱石サマーウィーク  
開催期間 平成22年8月23日(月)~8月29日(日)
- ⑧ 【共催】企画展「アートするプロフェッサー」  
開催期間 平成22年10月1日(金)~12月6日(月)
- ⑨ 【協力】熊本大学ホームカミングデー茶会  
日時 平成22年10月30日(土) 11:00~16:00
- ⑩ 【共催】秋の夕暮れ・工学部赤レンガコンサート  
日時 平成22年11月12日(金) 18:00~19:00
- ⑪ 【共催】「ちょっと昔のくらし探検」  
開催期間 平成23年1月17日(月)~2月14日(月)

## 平成23年度

- ・代表世話人 小野友道
- ・世話人 西岡鐵夫(～8月22日) 岩岡中正  
今江正知 西川盛雄 東孝治  
久野啓介 北野隆 田口宏昭  
上村直己 伊藤重剛 岩崎竹彦  
和田正隆 緒方誠一郎(11月29日~)  
藤本秀子(11月29日~)
- ・監事 西岡鐵夫(～8月22日) 西川盛雄  
東孝治(11月29日~)
- ・事務局長 東孝治(～11月28日)  
藤本秀子(11月29日~)
- 会員数(3月末日) 126人
- ① 【共催】企画展「アートするプロフェッサー」  
開催期間 平成23年11月4日(金)~12月5日(月)
- ② 【共催】企画展「五高記念館収蔵美術品展」  
開催期間 平成23年11月4日(金)~12月5日(月)
- ③ 【共催】熊本大学ホームカミングデー茶会  
日時 平成23年11月5日(土) 11:00~16:00
- ④ 【共催】秋の夕暮れクラシックコンサート  
日時 平成23年11月11日(金) 18:00~19:00
- ⑤ 平成23年度五高記念館友の会総会  
日時 平成23年12月10日(土)
- ⑥ 【共催】「ちょっと昔のくらし探検Ⅳ」  
開催期間 平成24年1月5日(木)~2月16日(木)
- ⑦ 【共催】熊本大学教育学部美術科卒業・修了制

## 作展

開催期間 平成24年3月13日(火)～3月25日(日)

### 平成24年度

- ・代表世話人 小野友道
  - ・世話人 岩岡中正 今江正知 西川盛雄  
東 孝治 久野啓介 北野 隆  
田口宏昭 上村直己 伊藤重剛  
岩崎竹彦 和田正隆 緒方誠一郎  
藤本秀子
  - ・監事 西川盛雄 東 孝治
  - ・事務局長 藤本秀子
- 会員数(3月末日) 126人
- ① 平成24年度五高記念館友の会総会  
開催日 平成24年7月29日(日)  
報告会  
平成24年ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)顕彰  
記念事業について  
西川盛雄(熊本大学名誉教授)
- ② 【協力】熊本スピリッツ発信事業 創作舞台  
AOYAGI  
開催日 平成24年8月5日(日)
- ③ 【主催】展覧会「大城組の小さな巨匠たち」  
開催期間 平成24年9月15日(土)～10月28日(日)
- ④ 【主催】企画展「アートするプロフェッサー」  
開催期間 平成24年11月2日(金)～12月3日(月)
- ⑤ 【共催】熊本大学ホームカミングデー茶会
- ⑥ 【共催】工学部赤レンガ資料館 秋の夕暮れコン  
サート  
日時 平成24年11月9日(金) 18:00～19:00
- ⑦ 【共催】平成24年度 ラフカディオ・ハーン(小  
泉八雲)顕彰記念事業 講演と鼎談  
ハーン五高時代の『講義ノート』の新  
発見  
日時 平成24年11月17日(土) 13:30～16:30
- ⑧ 【共催】「ちょっと昔のくらし探検V」  
開催期間 平成25年1月24日(木)～2月23日(月)
- ⑨ 【共催】熊本大学教育学部美術科卒業・修了制作  
展  
開催期間 平成25年3月4日(月)～3月14日(木)
- その他の事業
- ・五高記念館叢書第1集  
『第五高等学校の学徒出陣』の増刷と会員配布
  - ・PR用うちわ制作と配布

## (5) その他

本学は、社会教育法(昭和24年6月10日法律第207号、最終改正:平成23年12月14日法律第122号)第9条の5の規定及び社会教育主事講習等規程(昭和26年6月21日文部省令第12号、最終改正:平成21年4月30日文部科学省令第20号)に基づき社会教育主事講習を実施している(主催:文部科学省、国立大学法人熊本大学、熊本県教育委員会、大分県教育委員会、宮崎県教育委員会、鹿児島県教育委員会)。

平成21年度からは社会主事講習における省令科目「社会教育特講」(3単位)のうち「文化財の保護—国指定重要文化財『五高記念館』で学ぶ—」(3時間)を当館講義室において実施し、当館専任教員(岩崎竹彦)が担当している。国指定重要文化財建造物である当館内での受講は、生きた文化財保護行政を学ぶ格好の場であろう。

### 年度別受講者数

年度	実施日	科目	受講者数
平成21年度	8月4日	文化財の保護	32名
平成22年度	8月17日	文化財の保護	37名
平成23年度	8月12日	文化財の保護	32名
平成24年度	8月2日	文化財の保護	31名

(岩崎竹彦・市原富代・薄田千穂)

### 3 重要文化財建造物等公開活用事業

#### 【事業年度・補助金等】

2011年度	補助金	1,325,000円
	自主財源	1,325,000円
2012年度	補助金	2,200,000円
	自主財源	2,200,000円

#### 【事業名称】

旧第五高等中学校本館ほか2棟重要文化財建造物等公開活用事業

#### 【事業内容】

国立大学法人熊本大学が保有する国指定重要文化財「旧五高等中学校本館（S44.8指定）」、「旧第五高等中学校化学実験場（S44.8指定）」、「熊本大学工学部（旧熊本高等工業学校）旧機械実験場（H6.12指定）」の3棟について、保存活用計画を策定する。

なお、策定にあたり次のことを実施した。

#### （1）検討委員会

##### 2011年度

- 2011/7～ 基礎資料収集
- 2011/10/20 旧第五高等中学校本館（熊本大学五高記念館）等保存活用計画策定委員会要項制定
- 2012/1/1 策定委員会外部委員等委嘱
- 2012/1/30 第1回策定委員会開催
- 2012/2/8 第1回策定委員会小委員会開催
- 2012/2/29 第2回策定委員会開催  
第2回策定委員会小委員会開催
- 2012/3/19 第3回策定委員会開催

##### 2012年度

- 2012/8/17 第1回策定委員会開催  
第1回策定委員会小委員会開催
- 2012/10/31 第2回策定委員会開催  
第2回策定委員会小委員会開催
- 2013/1/30 第3回策定委員会開催  
第3回策定委員会小委員会開催
- 2013/2/8 第4回策定委員会小委員会開催
- 2013/2/20 第4回策定委員会開催

#### （2）調査

- ① 昭和41年度から平成23年度までの旧第五高等中学校本館・化学実験場及び熊本大学工学部（旧熊本高等工業学校）旧機械実験工場に関する修理工事関係書類等（図面・写真を含む）を施設部倉庫から探し出し、保存事業履歴をまとめるとともに、デジタル化を行った。
- ② 旧第五高等中学校本館及び化学実験場に係る重要文化財指定後の保存修理について、修理工事報告書が存在しないことから、工事関係書類等から工事概要書の作成を行った。
- ③ 昭和30年代から平成5年までの旧第五高等中学校本館及び化学実験場の活用計画について、学内における委員会資料をもとに概要の作成を行った。

- ④ 旧制第五高等学校の校舎配置図面等、保存活用計画策定に必要と考えられる歴史資料のデジタル化を行った。
- ⑤ 旧第五高等学校及び熊本大学工学部（旧熊本高等工業学校）旧機械実験工場の内・外部を撮影した古写真を収集し、そのデジタル化を行った。
- ⑥ 旧第五高等中学校本館及び化学実験場の建具類の現状調査を行った。
- ⑦ 重文指定建造物（学校）及び登録有形文化財（学校）の活用調査を行った。
- ⑧ 北海道大学及び岩手大学が所有する重文指定建造物並びに愛知大学が所有する登録有形文化財建造物の保存活用状況を調査した。
- ⑨ 大学構内の樹木等環境調査を行った。
- ⑩ 防火環境の把握の為に、大学構内の喫煙コーナーとゴミ箱設置箇所の調査を行った。

（薄田千穂）



## 4 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 ミュージアム活性化支援事業)

### 【地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業】

くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

- ・フィルムロケーションデータベース制作事業【平成23・24年度】

補助金額 平成23年度 2,761,000円 平成24年度 840,000円

実施期間 平成23年度 平成23年8月17日～平成24年3月31日

平成24年度 平成24年4月6日～平成25年3月31日

平成23年度は、熊本大学構内の文化財（建造物）やその他の景観資産、周辺地域の景観資源を広くアピールし活用して行くため、映画やテレビドラマ、コマーシャル等の撮影スポットとして収集し、スポットの撮影を行い、画像データベースを制作した。平成24年度は、画像データベースを公開するためのホームページを制作した。

- ・近代熊本写真資料の企画展示事業【平成24・25年度】

補助金額 平成24年度 925,000円

実施期間 平成24年度 平成24年4月6日～平成25年3月31日

慶応2年に開業し、熊本市内で現在も営業を続ける富重写真所（熊本での開業は明治3年）の古写真を通して近代都市熊本の姿を伝える展覧会を開催する。（展覧会は25年度に開催）

### 【ミュージアム活性化支援事業】

(地域文化資源活用事業)

- ・留学生有償ボランティアガイド育成事業【平成23・24・25年度】

補助金額 平成23年度 710,000円 平成24年度 908,000円

実施期間 平成23年度 平成23年7月1日～平成24年3月31日

平成24年度 平成24年4月6日～平成25年3月31日

留学生ボランティアガイドの育成を目的に、五高記念館を中心とした熊本大学内の文化資源を案内できるガイド用テキストブックを制作した。最終年度には留学生ボランティアガイドの養成講座を行う。

- ・熊本大学周辺地域における観光コンテンツ開発事業【平成23・24年度】

補助金額 平成23年度 1,344,000円 平成24年度 1,720,000円

実施期間 平成23年度 平成23年7月1日～平成24年3月31日

平成24年度 平成24年4月6日～平成25年3月31日

熊本大学と周辺地域が有する文化観光資源の発掘と新たな視点による活用提言を行った。

(地域連携強化事業)

- ・熊本県博物館ネットワーク構築事業【平成23・24・25年度】

補助金額 平成23年度 1,704,800円 平成24年度 1,184,000円

実施期間 平成23年度 平成23年7月1日～平成24年3月31日

平成24年度 平成24年4月6日～平成25年3月31日

学芸員同士の交流やネットワークにより、博物館の連携を促進するため、学芸員課程を有する熊本大学が中心となり、収蔵品データベースの構築やホームページの制作を行っている。

(新規利用者創出事業)

・観光の国際化に対応した展示等の多言語化事業【平成23・24年度】

補助金額 平成23年度 1,479,200円 平成24年度 464,000円

実施期間 平成23年度 平成23年7月1日～平成24年3月31日

平成24年度 平成24年4月6日～平成25年3月31日

来館者の多国籍化に対応し四カ国語標示を進めるため、五高記念館の展示解説やリーフレット等の多言語化（英語・中国語・韓国語）を行っている。

・時代に即応した情報発信システム、ガイドシステム構築事業【平成23・24・25年度】

補助金額 平成23年度 1,810,000円 平成24年度 2,054,000円

実施期間 平成23年度 平成23年7月1日～平成24年3月31日

来館者により質の高い展示解説を提供するため、タッチパネル式解説装置の導入と同機に登録するコンテンツの制作を行っている。

(藤本秀子)

## 5 調査研究事業

### (1) 収蔵資料に関する調査及び五高記念館等に関する調査研究活動

当館の収蔵資料調査及び資料収集は、現在も継続的に行っており、平成22年度には本学工学部研究資料館の収蔵資料調査を完了した。いずれこれまでの成果を集約した『熊本大学五高記念館 館蔵資料目録』及び本学の学術資料標本等を網羅した目録を作成したいと考えている。

平成21年度には「戦中・戦後の第五高等学校に関する調査」を実施した。これは五高の卒業生1500名に調査書を送付し回答してもらうもので、373名から返信を得た。この結果は、薄田千穂『第五高等学校における軍事教練・査閲』（2010年3月31日発行）に一部掲載しており、調査報告書を作成する予定である。

平成23年度には学徒出陣を経験した五高卒業生の呼びかけで座談会を開催し、熊本大学五高記念館叢書第1号『第五高等学校の学徒出陣』（2012年3月31日発行）をまとめた。

さて、当館は平成22年12月9日に博物館相当施設の指定を受け、引き続き活発に展覧活動を実施している。展覧会の開催にあたって、さまざまな調査研究活動を展開していることはいうまでもないが、それらについては「2 特別展・企画展等開催概要報告」（pp18）を参照されたい。

また、平成23年度～24年度の重要文化財建造物等公開活用事業において、以下の調査を行った。（pp39）

- ① 昭和41年度から平成23年度までの旧第五高等学校及び熊本大学工学部（旧熊本高等工業学校）旧機械実験工場に関する修理工事関係書類等（図面・写真を含む）のデジタル化及び保存事業履歴調査
- ② 旧第五高等学校本館及び化学実験場に係る重要文化財指定後の保存修理の工事概要書作成
- ③ 昭和30年代から平成5年までの旧第五高等学校本館及び化学実験場の活用計画概要の作成
- ④ 旧制第五高等学校の校舎配置図面等のデジタル化。
- ⑤ 旧第五高等学校及び熊本大学工学部（旧熊本高

等工業学校）旧機械実験工場の古写真収集、デジタル化

- ⑥ 旧第五高等学校本館及び化学実験場の建具類の現状調査
- ⑦ 重文指定建造物（学校）及び登録有形文化財（学校）の活用調査
- ⑧ 北海道大学及び岩手大学が所有する重文指定建造物並びに愛知大学が所有する登録有形文化財建造物の保存活用状況
- ⑨ 大学構内の樹木等環境調査
- ⑩ 防火環境の把握の為、大学構内の喫煙コーナーとゴミ箱設置箇所の調査

平成23年度～25年度の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業において、「第五高等学校一覧」「熊本高等工業一覧」「職員履歴」のデータ化および「職員進退」「五高同窓会報」「規則類」の目次のデータ化を行った。

### (2) 教職員の科学研究費採択状況

#### 【伊藤重剛（館長）】

##### 平成21年度～24年度

- ・基盤研究（S）代表者：伊藤重剛（館長）  
「ギリシア古代都市メッセネおよびフィガリアの建築と都市環境に関する学際的研究」

年度	直接経費	間接経費	合計
平成21年度	16,300,041	5,490,000	21,790,041
平成22年度	19,300,000	5,790,000	25,090,000
平成23年度	18,900,000	5,670,000	24,570,000
平成24年度	19,700,000	5,910,000	25,610,000
総計	74,200,041	22,860,000	97,060,041

#### 【岩崎竹彦（専任准教授）】

##### 平成20年度～22年度

- 研究種目：基盤研究（C）
- 研究期間：平成20年度～22年度
- 研究題目：民俗・民具を活用した博物館における回想法・回想ワークの研究
- 課題番号：20605006
- 研究代表者：岩崎竹彦
- 交付額

(金額単位：円)

年度	直接経費	間接経費	合計
平成20年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成21年度	400,000	120,000	520,000
平成22年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

### 【薄田千穂（特定事業研究員）】

#### 平成21年度

・奨励研究 薄田千穂（特定事業研究委員）  
 「旧制高等学校と軍隊の関わりに関する研究」  
 直接経費59万円 間接経費0円  
 合計59万円

#### 平成24年度

平成24年度  
 ・奨励研究 薄田千穂（特定事業研究委員）  
 「戦前・戦後期における旧制高等学校と軍関係諸学校の生徒の意識に関する研究」  
 直接経費40万円 間接経費0円  
 合計40万円

### (3) 教職員の外部資金受託状況

#### 【岩崎竹彦（専任准教授）】

#### 平成21年度

(金額単位：円)

名称	委託者	受託金額
天草市文化的景観保存調査（棚底地区社会民俗調査）	天草市	280,000
天草市文化的景観保存調査（防風石垣現況調査）	天草市	400,000

### (4) 他機関の研究プロジェクトへの参画

#### 【岩崎竹彦（専任准教授）】

#### 平成21年度～

研究プロジェクト名称：熊本大学拠点形成研究B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」  
 拠点リーダー：滝川清（本学沿岸域環境科学教育研究センター長）  
 研究名称：歴史写真を活用した熊本県における生活環境の変容に関する研究

#### 平成23年度～

研究プロジェクト名称：文部科学省特別経費（プロジェクト分）—大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実—「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」  
 研究代表者：滝川清（本学沿岸域環境科学教育研究センター長）  
 研究名称：八代海沿岸域の歴史と文化の研究

### (5) 教職員の研究活動等

#### 【伊藤重剛（館長）】

#### 平成21年度

[論文]

- ① 安井伸顕、伊藤重剛、林田義伸：「ギリシア古代都市メッセネにおけるメッセネ神殿の周柱の平面に関する研究」、『日本建築学会計画系論文集』638号、pp955-962、2009年4月
- ② 安井伸顕、伊藤重剛、林田義伸：「ギリシア古代都市メッセネにおけるメッセネ神殿の内陣に関する研究」、『日本建築学会計画系論文集』648号、pp503-510、2010年2月
- ③ 佐伯春奈、山崎荘太郎、伊藤重剛：「旧制玉名中学校本館の建築に関する研究(1)建物の概要」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第49号3、pp521-524、2010年3月
- ④ 山崎荘太郎、伊藤重剛、佐伯春奈：「旧制玉名中学校本館の建築に関する研究(2)復元と考察」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第49号3、pp525-528、2010年3月
- ⑤ 吉木美保、伊藤重剛、安井伸顕：「旧安田銀行山鹿支店の建築」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第49号3、pp529-532、2010年3月
- ⑥ 光山 慧、中川正博、伊藤重剛：「旧熊本城下町の街路に関する研究(1)江戸期の地図の復元」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第49号3、pp565-568、2010年3月
- ⑦ 中川正博、光山 慧、伊藤重剛：「旧熊本城下町の街路に関する研究(2)街路幅の分析」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第49号3、pp569-572、2010年3月
- ⑧ 伊藤重剛、吉武隆一：「地中海古代都市の研究

(127) フィガリアの城壁と建築遺構の一般調査2009』、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第49号3、pp581-584、2010年3月

- ⑨ 吉武隆一、伊藤重剛、安井伸顕、岩田千穂、セイン・ソクンティエ：「地中海古代都市の研究(128)メッセネにおける劇場調査報告2009(1)平面」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第49号3、pp585-588、2010年3月
- ⑩ セイン・ソクンティエ、伊藤重剛、吉武隆一、岩田千穂、安井伸顕：「地中海古代都市の研究(129)メッセネにおける劇場調査2009(2)スケーネ」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第49号3、pp589-592、2010年3月
- ⑪ 岩田千穂、伊藤重剛、吉武隆一、安井伸顕、セイン・ソクンティエ：「地中海古代都市の研究(130)メッセネにおける劇場調査報告2009(3)スケーネの部材」、『日本建築学会九州支部研究報告(計画系)』第49号3、pp593-596、2010年3月

## 平成22年度

### 【論文】

- ① 神近健太郎、伊藤重剛：「旧熊本城下町の街路に関する研究(3)京町・壺川地区」、『日本建築学会九州支部研究報告』第50号3、pp545-548、2011年3月
- ② 青木信吾、伊藤重剛：「旧熊本医学専門学校講堂の復元に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第50号3、pp565-568、2011年3月
- ③ 中島亮介、吉武隆一、伊藤重剛：「地中海古代都市の研究(132)古代地中海および西アジアにおけるドームに関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第50号3、pp633-636、2011年3月
- ④ 吉武隆一、伊藤重剛、岩田千穂：「地中海古代都市の研究(133)メッセネにおける劇場調査報告2010(1)スカエナエ・フロンスの柱頭」、『日本建築学会九州支部研究報告』第50号3、pp637-640、2011年3月
- ⑤ 岩田千穂、吉武隆一、伊藤重剛、安井伸顕：「地中海古代都市の研究(134)メッセネにおける劇場調査報告2010(2)ローマ時代スケーネの復元試案」、『日本建築学会九州支部研究報告』第50号3、pp641-644、2011年3月

### 【資料】

- ① 伊藤重剛：「盛衰語るギリシア建築 現地調査で遺構復元、美の原理探る」、『日本経済新聞』(日本経済新聞社)、010年10月29日
- ② 伊藤重剛：「MESSENE」(研究室パンフレット)、2010年3月31日
- ③ 伊藤重剛：「蘇る!ギリシア古代都市メッセネ—熊本大学伊藤研究室の挑戦」(研究広報用DVD)、2010年3月31日

## 平成23年度

- ① 大塚和樹、伊藤重剛、吉武隆一、岩田千穂：「地中海古代都市の研究(136)古代都市メッセネにおける劇場の客席の復元に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第51号3、pp769-772、2012年3月
- ② 伊藤重剛、吉武隆一：「地中海古代都市の研究(137)フィガリアにおける城壁の実測調査2010-2011」、『日本建築学会九州支部研究報告』第51号3、pp773-776、2012年3月
- ③ 佐伯春奈、伊藤重剛、吉武隆一：「地中海古代都市の研究(138)メッセネの旧ヴルカノ修道院の建築に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第51号3、pp777-480、2012年3月
- ④ 山崎壮太郎、伊藤重剛：「旧陸軍第六師団煉瓦造兵器庫の建築に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第51号3、pp697-700、2012年3月
- ⑤ 伊藤重剛、遠竹孝史：「旧陸軍第六師団煉瓦造兵器庫の建築に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第51号3、pp701-704、2012年3月

## 平成24年度

- ① 林田義伸、吉武隆一、伊藤重剛(伊藤重剛編)：「Architectural Study of the Stoas of the Asklepieion at Ancient Messene」九州大学出版会、A4版284頁、2013年2月
- ② 伊藤重剛、大塚和樹、岩田千穂：「地中海古代都市の研究(139)フィガリアにおける城壁の実測調査2010-2011」、『日本建築学会九州支部研究報告』第52号3、pp625-628、2013年3月
- ③ 大塚和樹、伊藤重剛、岩田千穂：「地中海古代

都市の研究 (139) 古代都市フィガリアの墓に関する中間報告』、『日本建築学会九州支部研究報告』第52号3、pp629-632、2013年3月

- ④麻生貴裕、伊藤重剛：「旧第五高等中学校の建築図面に関する研究」、『日本建築学会九州支部研究報告』第52号3、pp525-528、2013年3月
- ⑤ 高瀬直紀、伊藤重剛：「旧熊本城下町の街路に関する研究 山崎・高田原地区」、『日本建築学会九州支部研究報告』第52号3、pp605-608、2013年3月

## 【岩崎竹彦（専任准教授）】

### 平成21年度

〔著書〕

- ① 岩崎竹彦他：田中宣一先生古稀記念論集編纂委員会編『神・人・自然 民俗的世界の相貌』、担当部分「[フリの文化論]序説」pp506-524、慶友社、2010年2月27日

〔辞・事典項目〕

- ① 岩崎竹彦：「春祭」（大項目）、『祭・芸能・行事大辞典』、pp1457-1459、朝倉書店、2009年11月6日

〔学術記事〕

- ① 岩崎竹彦：「那智勝浦の歴史と文化」、『孤峰』第31巻第10号、pp42-45、財団法人江戸千家茶道会、2009年10月10日
- ② 岩崎竹彦：「野田泉光院のみた那智勝浦」、『孤峰』第31巻第11号、pp42-45、財団法人江戸千家茶道会、2009年11月10日
- ③ 岩崎竹彦：「日常の道具を未来に伝える意味」、『備北新聞』第1746号、pp5、備北新聞社、2010年1月5日

〔学会発表〕

- ① 岩崎竹彦：「民具を活用した地域博物館における回想法—その課題と展望—」、『日本民具学会第34回大会研究発表要旨集』、pp29、日本民具学会、2009年12月5日

〔講演会等〕

- ① 岩崎竹彦：講演「思い出のチカラ—地域博物館と回想法—」、主催 筑紫女学園大学、会場 筑紫女学園大学、2009年6月
- ② 岩崎竹彦：講演「不景気な時代にはやるもの—

絵馬・妖怪・七福神—」、主催 熊本県立美術館、会場 熊本県立美術館講堂、2010年3月

- ③ 岩崎竹彦：講演「石垣のあるマチ」、主催 文化庁・熊本県教育委員会・天草市教育委員会、会場 天草市倉岳地区公民館、2010年3月
- ④ 岩崎竹彦：講演「水戸黄門は神だった」、主催 熊本西ロータリークラブ、会場 熊本全日空ホテルニュースカイ、2010年3月

〔学会活動〕

- ① 日韓次世代学術フォーラム国際学術大会諮問教授（分科8：民俗・人類担当）

- ② 近畿民具学会常任幹事

〔社会活動〕

- ① 熊本市立熊本博物館協議会委員
- ② 熊本大学社会教育主事講習講師（「文化財の保護」を「担当」）

### 平成22年度

〔論文〕

- ① 岩崎竹彦：「民具を活用した地域博物館における回想法・回想ワーク—その意義と可能性—」、『民具研究』第142号、pp35-51、日本民具学会、2010年10月31日

〔研究ノート〕

- ① 岩崎竹彦：「近代の生活文化と地域博物館」、『歴史学と博物館』第7号、pp35-38、歴史学と博物館のあり方を考える会、2010年9月30日

〔書評〕

- ① 岩崎竹彦：「書評 檜尾直樹著『スピリチュアル・ライフのすすめ』」、『紫明』第27号、pp88、紫明の会（丹波古陶館・能楽資料館友の会）、2010年10月1日
- ② 岩崎竹彦：「書評 村上哲他『シャガール展 色彩の詩人』」、『紫明』第28号、pp88、紫明の会（丹波古陶館・能楽資料館友の会）、2011年3月20日

〔学会発表〕

- ① 岩崎竹彦：「近現代の生活文化と地域博物館」、平成22年度歴史学と博物館のあり方を考える会総会、会場 大阪市総合学習センター、2011年2月26日

〔学会活動〕

- ① 日韓次世代学術フォーラム国際学術大会諮問教授（分科8：民俗・人類担当）

② 近畿民具学会常任幹事

〔社会活動〕

- ① 熊本市立熊本博物館協議会委員
- ② 御船町恐竜博物館基本構想・基本計画策定委員会委員
- ③ 熊本大学社会教育主事講習講師（「文化財の保護」を「担当」

平成23年度

〔著書〕

- ① 岩崎竹彦他：『Q&Aでわかる 回想法ハンドブック「よい聴き手」であり続けるために』、担当部分「地域に残っている資料を回想法に活かす方法を教えてください」pp90-91、中央法規出版、2011年8月20日
- ② 岩崎竹彦他：『新時代の博物館学』（全国大学博物館学講座協議会西日本部会編）、担当部分「第2章博物館経営論 第5節 博物館経営の実際／課題」pp84-91、「第6章博物館情報・メディア論 第4節情報・メディアの活用と博物館の体制 1.博物館における情報公開と個人情報の保護」pp257-260、「第6章 第4節 4.権利関係の処理——著作権・使用权・肖像権等」pp263-268、芙蓉書房出版、2012年3月12日

〔講演会等〕

- ① 岩崎竹彦：講演「生業：四季耕作図を読む」、主催 熊本市立熊本博物館、会場 熊本市立熊本博物館研修室、2011年6月
- ② 岩崎竹彦：講演「博物館における資料撮影」、主催 熊本県・天草市教育委員会、会場 天草市立本渡歴史民俗資料館、2011年9月
- ③ 岩崎竹彦：講演「年中行事Ⅱ：恵方巻について」、主催 熊本市立熊本博物館、会場 熊本市立熊本博物館研修室、2012年2月

〔学会活動〕

- ① 日韓次世代学術フォーラム国際学術大会諮問教授（分科8：民俗・人類担当）
- ② 近畿民具学会常任幹事

〔社会活動〕

- ① 熊本市立熊本博物館協議会委員
- ② 熊本市立熊本博物館リニューアル基本構想及び基本計画策定委員会委員
- ③ 御船町恐竜博物館展示検討委員会委員

- ④ 熊本大学社会教育主事講習講師（「文化財の保護」を「担当」

平成24年度

〔監修〕

- ① 岩崎竹彦：「恵方巻の歴史をたどる」、『日本の伝統食 巻寿司のはなし』、pp48-53、株式会社あじかん、2012年9月1日

〔研究報告〕

- ① 岩崎竹彦：「八代地域の世相史的研究」、『第11回熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会・2012年度熊本大学拠点形成研究B成果報告会合同講演会 要旨集』、pp29-30、2012年11月10日
- ② 岩崎竹彦、梶原誠太郎：「八代海沿岸域の歴史と文化」、『文部科学省特別経費（プロジェクト分）—大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実—生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト H24年分』、pp17-18、2013年2月
- ③ 岩崎竹彦：「平成24年度研究報告 歴史写真を活用した熊本県における生活環境の変容に関する研究」、『平成24年度報告書 閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成研究』、pp53-56、2013年3月

〔学会発表〕

- ① 岩崎竹彦、梶原誠太郎：「写真供養」、近畿民具学会第230回例会、会場 財団法人奄美文化財団豊中支部ギャラリーA.I、2013年3月24日

〔講演会等〕

- ① 岩崎竹彦：講演「博物館文化の創造—回想法に学ぶ博物館活動のあり方」、主催 山口県周防大島町教育委員会、会場 周防大島文化交流センター、2013年2月

〔学会活動〕

- ① 日韓次世代学術フォーラム国際学術大会諮問教授（分科8：民俗・人類担当）
- ② 近畿民具学会常任幹事

〔社会活動〕

- ① 熊本市立熊本博物館協議会委員
- ② 熊本市立熊本博物館リニューアル基本設計・実施設計業務委託業者選定委員会委員
- ③ 御船町恐竜博物館展示検討委員会委員

- ④ 熊本大学社会教育主事講習講師（「文化財の保護を担当」）
- ⑤ 天草市祭り・祭礼調査指導・助言者

### 【磯田桂史（客員教授）】

#### 平成24年度

〔研究報告等（査読なし）〕

- ① 磯田桂史：「明治6年における陸軍の「兵営略表」及び付図について」、『日本建築学会学術講演梗概集』建築歴史・意匠、pp.95-96、2012年
- ② 磯田桂史：「明治30年代前半の熊本県庁における営繕体制について」、『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』第52号3、pp.533-536、2013年

〔シンポジウム・講演会等〕

- ① 磯田桂史：講演「玉名高校校舎の美観と魅力」、『まちかど教養講座【高瀬夜嘶】』、主催 NPO法人高瀬蔵、会場 高瀬蔵（玉名市）、2012年10月25日
- ② 磯田桂史：講演「熊本の近代化を支えた建築達」、『講演会 熊本の建築を考える』、主催（社）熊本県建築士事務所協会、会場 くまもと県民交流館パレア、2012年11月29日
- ③ 西嶋公一、磯田桂史、西郷正浩、田中智之：第3回けんちく寿プロジェクト「熊本通信病院を寿ぐ」、主催 けんちく寿プロジェクト実行委員会、会場 くまもと森都総合病院及び熊本市市民活動支援センター、2012年12月1日
- ④ 磯田桂史：パネルディスカッション「ジェーンズが熊本にもたらしたもの」、主催 熊本市、会場 熊本テルサ、2013年1月20日

### 【藤本秀子（特定事業研究員）】

#### 平成21年度

- ① 藤本秀子：展示企画、企画展「アートするプロフェッサー 忙中閑あり」（熊本大学五高記念館）、2009年3月19日～5月18日
- ② 藤本秀子：展示解説とキャプション、企画展「熊本大学の海外調査」（熊本大学五高記念館）、2009年8月7日～10月26日
- ③ 藤本秀子：展示解説とキャプション、企画展「坂の上の雲の時代 日露戦争と熊本」（熊本大学五

高記念館）、2009年11月1日～2010年1月31日

- ④ 藤本秀子：展示企画、展示解説とキャプション、大学サイエンスフェスタ「極限を制御せよ！衝撃エネルギー科学と熊大マグネシウムが開く未来」第2会場、（熊本大学）、国立科学博物館「発見！体験！先端研究@上野の山シリーズ」2009年11月20日～11月29日
- ⑤ 藤本秀子：展示解説とキャプション、特別企画展「昭和六年の天覧標本 子ども達が記録した豊かな熊本の自然」（熊本大学五高記念館、熊本県文化企画課）、2010年3月1日～5月31日
- ⑥ 藤本秀子：文部科学教育通信72号～77号連載「大学の文化財」、第1回 熊本大学五高記念館（第五高等学校本館）、第2回 熊本大学赤門（第五高等学校表門）、第3回 熊本大学化学実験場（第五高等学校化学実験場）、第4回 熊本大学工学部研究資料館（熊本高等工業学校機械実験工場）、第5回 熊本大学事務局本部（熊本高等工業学校本館）、第6回 熊本大学医学部山崎記念館（熊本医科大学山崎記念図書館）、（ジ アース教育社）、2009年5月11日～7月27日

#### 平成22年度

- ① 藤本秀子：展示解説とキャプション、企画展「五高時代の漱石先生2010」（熊本大学五高記念館）、2010年8月10日～2012年3月26日
- ② 藤本秀子：展示企画とキャプション、「Dr. Arita 天然痘根絶の軌跡」（ユニセフ熊本）、2010年6月2日
- ③ 藤本秀子：「猫にまつわるエトセトラ」、『五高記念館友の会会報 赤煉瓦通信』第8号 2010年9月1日
- ④ 藤本秀子：展示企画、企画展「アートするプロフェッサー」（熊本大学五高記念館）、2010年10月1日～12月6日
- ⑤ 藤本秀子：企画及び運営、熊本大学サマースクール「五高記念館で漱石を学ぶ」（熊本大学五高記念館、政策創造研究教育センター）、2010年8月22日～27日

#### 平成23年度

- ① 藤本秀子：展示企画、企画展「アートするプロフェッサー」、（熊本大学五高記念館）、2011年11



月4日～12月5日

- ② 藤本秀子：「日本の教育文化遺産を訪ねる 12 熊本大学五高記念館」『教育旅行』
- ③ 藤本秀子：熊大ベシック授業ビデオ講演、「熊大A to Z 熊本大学の歴史をたどる」、「01 熊大のルーツ」「02 熊大の歴史的建造物」「03 熊大ゆかりの人物」、2012年4月～
- ④ 藤本秀子：大学職員係長研修講演、「熊本大学の文化的資産の活用について」、2011年9月14日

#### 平成24年度

- ① 藤本秀子：「ハーンの熊本を感じたい」『くまもとハーン通信 石仏』No.19 2012年4月22日
- ② 藤本秀子：「MUSEUM & CAMPUS」、「熊本大学工学部研究資料館」（旧熊本高等工業学校機械実験工場）、国立大学協会広報誌「JANU」支部通信 2012年6月
- ③ 藤本秀子：「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業について 事例紹介2 くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」、「月刊文化財」592号（文化庁文化財部、第一法規株式会社）2013年1月1日
- ④ 藤本秀子：「平成23年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業事例集」、（文化庁）、平成23年度

#### 【薄田千穂（特定事業研究員）】

#### 平成21年度

- ① 薄田千穂：「龍南会雑誌と雑誌部委員—明治期の動向を中心として—」『熊本大学五高記念館館報』第1号（熊本大学五高記念館）、pp95～101、2009年12月25日
- ② 薄田千穂：『第五高等学校における軍事教練・査閲』B5版 77頁、2010年3月31日

#### 平成23年度

- ① 薄田千穂：「戦時体制下の高等教育と徴兵—制度の変遷—」「第五高等学校の「学徒出陣」」、「第五高等学校の学徒出陣」熊本大学五高記念館叢書第1号（熊本大学五高記念館）、pp7～25 69～131、2012年3月31日
- ② 瀬戸致誠、薄田千穂：「石神少年平和農園と荒

尾福祉村」『荒尾市史』第4編7章 pp1431～1451、2012年3月20日

#### 平成24年度

- ① 薄田千穂：「五高記念館」、「熊本大学60年史」部局史編 pp1071～1081、2012年10月31日

### Ⅲ 収蔵資料

#### 1 寄贈資料（平成21～24年度）

番号	資料名	数量	作成者・発行者	年代	寄贈者
1	同窓会関係資料	12	東京五高会	昭和37年	宮嶋幸子 宮嶋晃
2	太鼓	1			宮嶋幸子 宮嶋晃
3	五高関係絵葉書	4			姫野照正
4	「第五高等学校本館赤煉瓦」(版画)	1	中川木鈴 制作	昭和54年	田淵 元
5	色紙 森興彦慰霊祭	1	村田茜雲	平成9年	芥川昭
6	生徒証明書等	2	第五高等学校生徒課	昭和17年	泉宗一
7	五高時代写真	8		昭和17・18年	泉宗一
8	ノート・教科書・著書	1式			米田和夫
9	『火盞』 第三輯	1	第五高等学校文芸部	昭和21年	辛島正信
10	『龍南の青春 九龍会だより特集号』	1	九龍会事務局	平成6年	辛島正信
11	五高時代写真	34		昭和18年～22年	辛島正信
12	教科書	5	竹内端三	昭和23年	西松裕一
13	アルバム	1		昭和16年	緒方秀逸
14	アルバム	1		昭和15年	堤太郎
15	アルバム	1		昭和15年	後藤いづみ 後藤晶
16	アルバム	1		昭和13年	倉光宏
17	栗林一幸関係資料	1式	栗林一幸		栗林清子
18	『遙かなり武夫原』	2	第五高等学校文甲2組	平成6年	森一郎
19	『雲流れて五十年』	1	昭和17年度入学文甲2組	平成7年	河島正
20	『第五高等学校水泳部史』	1	第五高等学校水泳部後援会	昭和23年	山下梨里子
21	『大福帳』	1	荒木光昭	平成19年	荒木光昭
22	『自分史』 随想録付	1	白川和則		白川和則
23	『日記抄—青春の詩—』	1	野田輝雄	昭和63年	野田輝雄
24	『寮歌集』	1	第五高等学校習学寮	昭和18年～22年	加来悌一
25	思い出の中の「裏切られた人々」	3	神崎倫一	昭和63年	河島正
26	平田治書簡 春富夫、河島正宛	3	平田治	平成10年	河島正
27	『龍南』 253号	1	第五高等学校龍南会	昭和23年	佐々鎮夫
28	「習学寮報」(写)	10	第五高等学校習学寮寮報部	昭和23年	高尾壽郎
29	「椿花咲く南国の」 原稿複製	1	中井正文	平成11年	高尾壽郎
30	五高時代写真複製	5			東都宏
31	『文三、四十七年の軌跡 武夫原頭に集えりし』	1	泉喬	平成元年	山本哲三
32	アルバム	1		昭和17年	秋田成就
33	運動会メダル	2		昭和8・11年	秋田成就
34	『五高九龍会名簿』	1		平成10年	力武利夫
35	『龍南』 第254号	1		昭和19年	力武利夫
36	身分証明書	1		昭和18～23年	鳥井弘之
37	『火盞』 第三輯	1	第五高等学校文芸部	昭和21年	鳥井弘之
38	「報告 第三輯」(屋久島)	1	第五高等学校文芸部	昭和19年	工藤晃
39	五高時代写真	9		昭和18年～22年	工藤晃
40	五高寮歌「武夫原頭」の作詞者恵利武氏を偲ぶ	1	水月文哉	昭和16年	豊福武彦
41	龍南会総務委員	1		昭和21年	田口昭生
42	『龍南会』 253号	1	龍南学徒報国団	昭和18年～22年	住野義弘
43	馬術部関係資料	3	第五高等学校馬術部	昭和18～19年、昭和54年	橋口権

44	『わが失われし日本』	1	ロバート・クラウダー	昭和19年	恒松奎五郎
45	生徒証明書(写)	1	第五高等学校生徒課	昭和19年	堤敬一
46	四寮別館入寮者集合写真	1		昭和18年	堤敬一
47	合格通知封筒	1		昭和23年	二宮英治
48	「ラグビー部東原会会員名簿」	1		昭和57年	中西信高
49	射撃部集合写真	1		昭和19年	中山惟良
50	五高時代写真	6		昭和17年	渡邊信一
51	入学書類(写)	5	第五高等学校、習学寮	昭和17年	渡邊信一
52	五高時代写真	15		昭和21年	竹尾健一
53	入学関係写真	1	第五高等学校	昭和21年	竹尾健一
54	封筒 教練検定合格証明書	1	第五高等学校	昭和21年	竹尾健一
55	五高野球部関係資料	2		昭和63年	木下昭二
56	大学受験数学入試問題解答	2	柴岡與志夫、檜田恒一	昭和24年	山城宗隆
57	『現代日本の保守政治』	1	内田健三	平成元年	百合本順太郎
58	五高時代写真	6		昭和18年	百合本順太郎
59	『武夫原頭に草萌えて』	1	五高十日会 編	昭和62年	山口雅也
60	「入学志願者心得」「入学許可証」	1	第五高等学校	昭和22年	野田俊明
61	「図書閲覧票」等	2	第五高等学校	昭和23・24年	野田俊明
62	『統計力学』	1	中村伝	平成8年	中村伝
63	昭和24年度東京大学第一工学部入学者選抜要項、入試問題	5		昭和24年	吉田正
64	『物理学』 上・下巻	2	寺澤寛一 監修	昭和21年	吉田正
65	記念祭時の食堂の写真	1		昭和23年	島本耕之介
66	『揺籃』	1	第五高等学校理科1年5組	昭和24年	野口透
67	五高時代写真	7		昭和14年～17年	津澤正巳
68	五高時代写真	28		昭和20年23年	近藤基樹
69	絵画 「五高復元」	1	戸田郁郎	平成22年	浦野榮一
70	第五高等学校音楽部	1	吉田秀喜	昭和22年	吉田秀喜
71	ロバートクラウダー関係新聞記事・書籍	4			恒松奎五郎
72	『悠々蒼天 村井典男の思い出』	1	山本恒一、山本崇広、佐藤章子	平成22年	山本恒一・崇広・佐藤章子
73	アルバム	1		昭和18年	緒方秀逸
74	「日露国勢大見立番附」附日露軍艦大見立	1	駸々堂	明治37年	藤本秀子
75	「熊本県植物誌附図」熊本県地質図 熊本県概念図	2	熊本記念植物採集会	昭和44年	藤本秀子
76	絵葉書 天草情景 他	16	みくに社		藤本秀子
77	五高時代写真	21			山崎啓
78	入学関係書類	2	第五高等学校	昭和20年	浜高家三雄
79	『高ぼくり 訣別号』	1	五高理一之一	昭和24年	兼川晋
80	私の『続習学寮史』補遺	1	兼川晋	平成9年	兼川晋
81	五高時代写真	11		昭和22～23年	原尻英俊
82	『火蓋』 第5輯	1	第五高等学校文芸部	昭和23年	原尻英俊
83	第五高等学校音楽部関係資料	8	第五高等学校音楽部	昭和22～24年	原尻英俊
84	映画研究部関係資料	10	第五高等学校映画研究部	昭和23～24年	原尻英俊
85	授業関係資料	6		昭和22年	原尻英俊
86	昭和21年度入学関係書類	9	第五高等学校	昭和21年	長谷川信一
87	生徒証明書	1	第五高等学校生徒課	昭和17年	萩原允江
88	五高時代写真	17		昭和17年	萩原允江
89	五高関係書籍	8	浪岡洋一 追想録刊行会	平成元年	有馬直之
90	五高時代写真	14		昭和22年	有馬直之
91	入学料領収証書	1	第五高等学校	昭和20年	浜高家三雄
92	ボタン	3	第五高等学校	昭和20年	浜高家三雄
93	昭和15年4月五高文乙入学者の概要	1	自見信仰	昭和15年	自見信仰

94	海軍経理学校関係資料	2	自見信仰		自見信仰
95	学徒出身二等水兵座談会	1	西日本新聞	昭和18年	自見信仰
96	『龍南』 第254号	1	龍南学徒報国団	昭和19年	蓮田昇
97	『歌集 小ヶ倉』	1	小ヶ倉学徒寮事務所	昭和20年	蓮田昇
98	五高時代写真	3		昭和18年	藤川芳郎
99	軍関係学校五高入学者に関する資料	1			福井孝一
100	『全国五高会会報』	6	全国五高会	平成8年	川島史郎
101	『寺田寅彦書籍』	3	吉村冬彦(寺田寅彦)	昭和10~16年	中村伝
102	「習学寮報」	1	第五高等学校習学寮寮報部	昭和23年	田阪耕一
103	『龍南』 242・243号	1	龍南会	昭和13・14年	後藤いづみ 後藤晶
104	『龍南』 249~251号 253号	4	龍南学徒報国団	昭和16~18年	緒方秀逸
105	「習学寮報」 11・12号	1	第五高等学校習学寮	昭和16・17年	緒方秀逸
106	『会報』 16号	1	五高同窓会	昭和18年	緒方秀逸
107	IMMANUEL KANT THE METAPHYSIC OF MORALITY	1			緒方秀逸
108	『落葉草子』	1	菅沼天涯	昭和62年	菅沼滋
109	『平安文学新選』	1	遠藤佐市郎	昭和16年	小島直行
110	巻頭言	1	佐川敏明	平成22年	佐川敏明
111	『唐津時代—第五高等学校水泳部前史—』	3	立石順一	昭和58年	佐川敏明
112	『学徒動員・学徒出陣に関する東京大学史料室の調査』	1	東京大学史料室	平成16年	今江正知
113	同窓会関係資料	2			今江正知
114	東光会関係資料	1			今江正知
115	阿蘇道場関係資料	1			今江正知
116	クラウダー先生手紙 コピー	3	ロバート・クラウダー	平成6年	今江正知
117	アルバム	1		昭和22年	今江正知
118	アルバム 活潑之地	2	第五高等学校習学寮	昭和15・17年	自見信仰
119	高木市之助関係書籍	8	高木市之助	昭和33~52年	中西達治
120	「短歌集 余録の人生」	2	是永正雄	平成21・22年	是永正雄
121	『憧憬湛ふ 青春の』	1	第五高等学校昭和17年3月卒業生	平成15年	林幸二郎
122	『となみ』 1~25号	25	第五高等学校昭和17年3月卒業生	平成16年	林幸二郎
123	習学寮 名札	1	第五高等学校習学寮	昭和23年	古賀正則
124	五高演劇サークル講演「マリウス」プログラム コピー	2	五高演劇サークル	昭和23年	吉野寛
125	『風の時』	1	大江志乃夫	昭和60年	有馬直之
126	『陸上競技インターハイ廿三年史』(写)	1	蛭川幸茂	昭和52年	福井孝一
127	第五高等学校紅白のぼり	2			大塚忠男
128	菅虎雄・内田周平書簡写等	5	菅虎雄	昭和10年	湯浅和夫
129	集合写真	1	写真士 岩田壮策	明治33年	湯浅和夫
130	アルバム	2	石井一郎	大正14年	野田俊明
131	尾本文之助関係資料	1		平成8年	恒松奎五郎
132	長崎原爆65回忌—ある浦上キリシタン家族の記録— (写)	1	中島驥	平成22年	山下善陸
133	『惑星』創刊号(写)	1	昭和20年入学理甲4	昭和21年	松岡順之助
134	「集いて語る戦後五十年」(写)	1	昭和20年入学理甲4	平成7年	松岡順之助
135	五高末子会会員名簿	1	五高末子会	平成10年	塩地薫
136	アルバム 習学寮	2		昭和15・17年	大串俊夫
137	色紙 添野信 高津巖	2		昭和17年	大串俊夫
138	色紙 理三甲二	1		昭和17年	大串俊夫
139	卒業証書	1	久留米第二陸軍予備士官学校	昭和20年	泉宗一
140	除隊証明書	1	阿蘇第3242部隊	昭和20年	泉宗一
141	五高時代の写真等	3		昭和17・22年	泉宗一

142	十八年会横断幕	1	佐川敏明	平成22年	佐川敏明 室原亥十二
143	アルバム 習学寮・文甲1組	1	第五高等学校習学寮	昭和17年	山下善睦
144	『GOKOSEI OF RYUNAN』	1	グレイアム・マーター	昭和5年	廣瀬隆一
145	多々見恭資関係資料	1式			多々見眸
146	『高木敏雄初期論文集』 上巻	1	高木敏雄 著 卯野木盈二 編		卯野木幸子
147	アルバム	1	第五高等学校	大正15年	須原ナミノ
148	『厨川千江句集』	1	厨川千江 著 原井拓士 編	昭和56年	原井拓士
149	第五高等学校龍尾会名簿	2	龍尾会	平成23年	水田宗昭
150	官報 官立学校入学許可者名簿	1		昭和8年	赤坂極
151	西日本新聞 九州4高校など競争率記事	1		昭和22年	赤坂極
152	第五高等学校卒業証書	1	第五高等学校	昭和18年	安武悦子
153	アルバム	2	安武敏明	昭和16・18年	安武悦子
154	中野孝次氏はがき、関係新聞記事	1	中野孝次		関謙介
155	中野孝次著書	94	中野孝次		関謙介
156	第五高等学校音楽部 合唱用楽譜	1	第五高等学校音楽部	昭和21年	青木正二
157	辞書・教科書	3	松岡敏幸	昭和13～18年	青木正二
158	『寮歌集』	1	第五高等学校習学寮	昭和18年	青木正二
159	『独和辞典』	1	木村謹治 相良守峯	昭和19年	青木正二
160	アルバム	1	佐々正實	昭和13年	永井優美
161	『小貫章先生追想集Ⅰ』	1	小貫先生を偲ぶ会	平成2年	赤坂極
162	『小貫章先生追想アルバム』	3	小貫先生を偲ぶ会	平成2年	赤坂極
163	巻頭言草稿	1	津島敬一	平成4年	津島岑子
164	ノート	15	瀧口昇	昭和13年	寺岡光子
165	産業関係絵葉書	17	熊本地方専売局	昭和10年	藤本秀子
166	絵葉書 (熊本風景)新市街勸業館附近	2			藤本秀子
167	五高入学許可証	1	文部省専門学務局	明治37年	松井俊規
168	五高選抜受験者証票	1		明治37年	松井俊規
169	明治37年高等学校大学予科入学者選抜試験問題	13		明治37年	松井俊規
170	五高関係書籍	3	東京五高会	昭和40年	高田禎浩
171	教科書	6			高田禎浩
172	日記	4	高田浩運	昭和5年	高田禎浩
173	アルバム	1	高田浩運	大正15年	高田禎浩
174	五高山岳部屋久島記録	5	第五高等学校山岳部	昭和10年	古原和美
175	第五高等学校音楽部関係資料	3	第五高等学校音楽部	昭和23年	久富元博
176	ピアノ (マーター先生使用カ)	1			久富元博
177	『九州大学医学部五高会終焉の記文集』	1	西園昌久	平成24年	西園昌久
178	同窓会関係資料	45	五高同窓会	昭和48年	高田実
179	『全国五高会会報』 1号～15号	112		昭和50～平成12年	高田実
180	『憧憬湛ふ青春の』	1	第五高等学校昭和17年3月卒業生	平成14年	高田実
181	アルバム Bur Crinnerung	1		昭和17年	高田実
182	卒業証書	1	第五高等学校	昭和17年	高田実
183	龍泳会関係資料	5		平成7～10年	高田実
184	五高関係書籍	6	細川隆元	昭和53年	高田実
185	高田高著作綴	1		平成24年	高田実
186	戦時関係書籍	4		昭和50年	高田実
187	五高関係書籍	8	内田健三	昭和55～平成17年	高田実
188	ラグビー部写真データ	3			立花芳郎
189	ラグビー部写真	1			立花芳郎
190	アルバムデータ	1		昭和16年	堀川俊章
191	写真データ	9			福井孝一

192	アルバム 江月松風	1	第五高等学校理甲1	昭和18年	山本章
193	アルバム	1	熊本高等工業	昭和15年	山本章
194	アルバム	1		昭和2年	榊信子
195	射撃部メダル	1			吉村光弘
196	卒業証	1	第五高等学校	昭和23年	西村睦子
197	『我が家の歴史 私の履歴書』	1	大慈弥嘉久	平成14年	都留忠久
198	『寮歌集』	4	第五高等学校習学寮	昭和18年	高尾壽郎
199	卒業生関係書籍	2		平成11・20年	高尾壽郎
200	第五高等学校習学寮惣代会関係資料	1	高尾壽郎	平成22年	高尾壽郎
201	五高演劇サークル「マリウス」パンフレット・鑑賞券	1		昭和23年	高尾壽郎
202	五高時代写真	35		昭和22年	高尾壽郎
203	絵葉書 本館	1			高尾壽郎
204	第五高等学校昭和十八年会名簿	1	五高昭和18年会	平成18年	有田哲哉
205	五高関係資料	5		平成15年	岸田善三郎
206	アルバムデータ 水得龍如	1	昭和18年卒業文甲1	昭和18年	岸田善三郎
207	東洋史試験問題	1	第五高等学校	昭和16年	岸田善三郎
208	アルバムデータ 龍南	1	昭和18年文甲3	昭和18年	岸田善三郎
209	李源京氏送別会写真	1	昭和18年文甲3	昭和18年	石松竹雄
210	アルバム 龍南	4	昭和18年理甲3	昭和16・18年	室原亥十二
211	五高時代写真	24		昭和16年	瓜生正美
212	部旗	1	第五高等学校陸上部		長野吉彰 福井孝一
213	ランニングシャツ	1	第五高等学校陸上部		長野吉彰 福井孝一
214	賞状 400m継走優勝	1	東京帝国大学陸上運動部、京都帝国大学陸上競技部	昭和22年	長野吉彰 福井孝一
215	陸上競技インターハイ廿三年史 (写)	1	蛭川幸茂	昭和52年	長野吉彰 福井孝一
216	同窓会関係資料	7			長野吉彰
217	卒業証書	11	第五高等学校	昭和22年	長野吉彰
218	写真	1	昭和18年理甲3	昭和18年	三戸章正
219	漱石・寅彦関係書籍	8	夏目鏡子、松岡譲	昭和3～18年	田淵 元
220	写真	11		昭和32年	宮本伍朗
221	アルバム	1	出口俊雄	昭和24年	出口俊雄
222	雄図は燃ゆる龍南の天地	1	武内哲夫	大正6年	小山紘
223	色紙「又日新」	1	荒木雄豪	昭和55年	京都産業大学 白本正二
224	入学関係書類	3	第五高等学校	昭和20年	松波陽子
225	写真	10		昭和23年	松波陽子
226	五高関係書籍	18			高尾壽郎
227	五高同窓会関係資料	33			高尾壽郎
228	『熊本高等工業学校沿革史』	1	熊本高等工業学校	昭和13年	和田正隆
229	寄付金感謝状	1	熊本県知事富岡敬明	昭和23年	和田正隆
230	『秋月梯次郎－老日本の面影－決定版』	1	松本健一	平成25年	水田宗昭
231	五高関係書籍	3			平山謙二郎
232	太鼓	1			福岡五高会
233	掛け軸「必勝」	1	池田勇人		福岡五高会
234	掛け軸「為福岡五高会 池田勇人」	1	池田勇人		福岡五高会
235	同窓会関係資料	6			慶田徳三
236	アルバム	1	第五高等学校	昭和16年	田代照子
237	『屋久島山岳大系 五高山岳部部報復刻』	1	太田五雄	平成25年	太田五雄
238	アルバム 五高	1	五高80周年記念祭記念アルバム委員会	昭和43年	富田美樹子

239	『外科各論 上肢篇』	1	第五高等中学校医学 部教授医学士高畑挺 三 口述	明治20年	高杉澄子
240	小泉八雲レリーフ	1	峯孝	昭和19年	舒文堂河島 書店
241	絵葉書 (熊本名勝)東唐人町	1			薄田千穂
242	アルバム 景山信義	2		大正8・9年	景山徹也
243	アルバム	1		昭和6年	江富聡
244	葉書 衛藤秀樹宛	1			五高同窓会
245	封筒 衛藤秀樹・祐盛・辰之助宛	7			五高同窓会
246	アルバム 高く聳ゆる	1		昭和8年	五高同窓会
247	アルバム 龍南物語	1		昭和11年	五高同窓会
248	絵葉書 第五高等学校	11			五高同窓会
249	『胎』 1巻1号～2巻1号	9	熊本医科大学医化学 教室内「胎」発行所	大正15～昭和14 年	五高同窓会
250	『藪』 1～9号、歌集	10	熊本医科大学文芸部	大正15年	五高同窓会
251	アルバム	1		昭和5年	五高同窓会
252	ノート Teruo Sakano	1			五高同窓会
253	『天文年鑑』	2	天文同好会 編	昭和6・7年	五高同窓会
254	アルバム 培本養心	1		昭和14年	五高同窓会
255	『龍南会雑誌』 59号 116号	2	第五高等学校龍南会	明治30・39年	五高同窓会
256	「熊本高等工業学校一覧」	3	熊本高等工業学校	大正15～昭和16 年	五高同窓会
257	「熊本薬学専門学校一覧」	1	熊本薬学専門学校	昭和8年	五高同窓会
258	アルバム ALBUM	1		昭和5年	五高同窓会
259	『文豪夏目漱石』 新小説臨時号	1	小林直造	大正6年	五高同窓会
260	『弾性体理論 弾性振動及び音響学』	1	田丸卓郎	昭和7年	五高同窓会
261	『万国読史系譜』	1	長谷川貞一郎、武藤虎 太、牧山清	明治35年	五高同窓会
262	絵葉書	46			五高同窓会
263	『柔道大意』	1	有馬純臣	大正2年	五高同窓会
264	『中学理化示教』	1	白壁傑次郎	明治32年	五高同窓会
265	『大日本地理集成』	1	矢津昌永、角田政治、 小平高明	明治40年	五高同窓会
266	『中学日本地誌』	1	矢津昌永	明治28年	五高同窓会
267	『新編 日本略史』	8	笠間益三	明治11年	五高同窓会
268	『初等 代数学 上巻』	1	千本福隆 編纂 櫻井房記 校訂	大正12年	五高同窓会
269	『図学教科書図式 壺』	1	飯沼基次郎	明治39年	五高同窓会
270	『政治原論』	1	石原健三	明治23年	五高同窓会
271	『近代の恋愛観』	1	厨川白村	大正13年	五高同窓会
272	「火蓋 第二輯」	1	第五高等学校	昭和21年	五高同窓会
273	「火蓋 No.4」	1	五高文化協会	昭和22年	五高同窓会
274	「熊本工業会報」	1	熊本工業会	昭和18年	五高同窓会
275	夏目漱石遺墨(記念品)	1			五高同窓会
276	絵葉書 熊本高等工業学校	6			五高同窓会
277	『講道館創立五十年記念帖』	1	講道館	昭和9年	五高同窓会
278	『鴨緑江橋梁工事報告』	1	朝鮮総督府鉄道局	明治45年	五高同窓会
279	東京帝大卒業証書・教練検定合格証明書	1	東京帝国大学	昭和18年	五高同窓会
280	THE OLD WOMAN WHO LOST HER DUMPLINGS	1	LAFCADIO HEARN	明治35年	五高同窓会
281	『伊太利紀行』	1	ゲーテ 作 高木敏雄 訳	大正3年	五高同窓会
282	『徒然草』	1	校註者 田中辰二	昭和7年	五高同窓会
283	『ヒュペーリオン—希臘の世捨人—』	1	ヘンデルリー 作 渡邊格司 訳	昭和11年	五高同窓会
284	『大迫尚隆遺稿』	1	納富貞雄	昭和3年	五高同窓会
285	『田代善太郎日記』	3	田代晃二	昭和43～48年	五高同窓会

286	図書目録	1	第五高等学校習学寮	昭和12年	五高同窓会
287	『随筆雑誌 新風土』	6	島崎翁助	昭和14年	五高同窓会
288	『芝居の知識』	1	社団法人日本放送協 会九州支部	昭和8年	五高同窓会
289	『夕鶴』	1	山本安英の会	昭和59年	五高同窓会
290	リーフレット 新興博から景勝天草へ	1		昭和10年	五高同窓会
291	絵葉書 (天草名勝) 情緒豊かなる崎津港全 景	14			五高同窓会
292	リーフレット 球磨川下り	1	門司鉄道局	大正13年	五高同窓会
293	『森先生傳』	1	金港堂書籍株式会社	明治32年	五高同窓会
294	『古蘭』	1	大川周明	昭和25年	五高同窓会
295	『出了象牙之塔』	1	厨川白村 魯迅 訳	昭和10年	五高同窓会
296	『KOKORO』	1	ラフカディオ・ハーン	明治29年	五高同窓会
297	『くもの糸』	1	南里義則	平成17年	五高同窓会
298	『ある徴兵拒否者の歩み トルストイに導 かれて』	1		昭和58年	五高同窓会
299	『重光葵外交回想録』	1	重光葵	昭和28年	五高同窓会
300	『笠戸丸より六十年』	1	在伯県人会連合会	昭和44年	五高同窓会
301	『大阪市方面委員民生委員制度五十年史』	1	大阪市 大阪市民生 委員連盟	昭和48年	五高同窓会
302	『明治期学制改革の研究』	1	内田紘	昭和43年	五高同窓会
303	『小倉の鬼火』	1	飛松辰典	平成11年	西川盛雄
304	『ラフカディオ・ハーンの英作文添削』	1	西川盛雄/アラン・ロ ーゼン	平成22年	西川盛雄
305	『ラフカディオ・ハーンの英作文教育』	1	アラン・ローゼン/西 川盛雄	平成23年	西川盛雄
306	『萩原朔太郎選書』 他	3	隅田直樹	平成18年	平山謙二郎
307	『メチル水銀を水俣湾に流す』	1	入口紀男	平成20年	入口紀男
308	『Minamata Bay ,1932』	1	Norio Iriguchi		入口紀男
309	『漱石と世界文学』	2	西槇 偉 他	平成21年	西槇偉
310	『漱石の「明暗」と明治の気骨』	2	石原禮三	平成20年	石原禮三
311	『五高五十年史』	1	第五高等學校開校 五十年記念會	昭和14年	野中瑞穂
312	『龍南回顧』	1	東京五高会	昭和42年	野中瑞穂
313	『本田啓吉先生 遺稿・追悼文集』	1	本田啓吉先生遺稿・追 悼文集刊行会	平成19年	藤本秀子
314	『寺田寅彦 バイオリンを弾く物理学者』	1	末延芳晴	平成21年	末延芳晴
315	『日本の伝統建築の構法』	1	内田祥哉	平成21年	内田祥哉
316	『雲流れて五十年』	1	森一郎	平成7年	森一郎
317	『龍南の青春 九龍会だより特集号』	1	九龍会だより編集委 員会	平成6年	力武利夫
318	『五高開校百周年記念祭記録集』	1	五高開校百周年記念 祭実行委員会	昭和64年	源了圓
319	『武夫原頭に草萌えて』	1	五高十日会	昭和62年	山口雅也
320	『漱石全集』 第1～16巻	1	夏目漱石	昭和40～42年	中村伝
321	『日露戦争従軍将兵の手紙』	1	濟々巒日露戦役記念 帖編集委員会	平成13年	泉田智宏
322	『アーカイブズ学研究』 No.4～12	8	日本アーカイブズ学 会	平成18年	外川健一
323	『くまもと城下の地名』	1	熊本地名研究会	平成20年	東孝治
324	『秋月悌次郎詩碑建立記念誌』 他	4	秋月悌次郎詩碑建立 委員会	平成2年	今江正知
325	『武雄蘭書目録』	1	木村一郎	平成21年	木村祐子
326	『漱石・白秋・清張と阿蘇火山』	1	須藤靖明	平成16年	藤本秀子
328	五高卒業生著書	7	内田健三 他		百合本順太郎
329	『エコノミスト、歴史を読み解く』	1	工藤晃	平成20年	工藤晃
330	『怒りの河』	1	李佳炯	平成7年	大島襄二



331	『虚子と現代』	1	岩岡中正	平成22年	岩岡中正
332	『戦時体制下の語られざる技術者たち』	1	本山聡毅	平成19年	本山聡毅
333	『The Smallpox Eradication Saga An Insider's View』	1	Isao Arita		蟻田功
334	「天然痘根絶と人類の未来」	1	蟻田功	平成22年	蟻田功
335	『No Smallpox Forever Report of Commemoration Conference』	1		平成22年	蟻田功
336	『山 80年の回想』	1	古原和美	平成23年	古原和美
337	『小林多喜二とその朋友たち』	2	藤田廣登	平成20年	藤田廣登
338	『監獄行政官僚と明治日本 小河滋次郎研究』	1	小野修三	平成24年	小野修三
339	『山田方谷の夢』	1	野島透	平成23年	野島透
340	『山田方谷ゆかりの群像』	1	野島透・片山純一	平成23年	野島透
341	『明治10年からの大学ノート』	1	二松學舎小史編集委員会	平成24年	野島透
342	『記念試合』	1	室積光	平成24年	鈴木トシコ
343	『元祖・漱石の犬』	1	横山俊之	平成24年	横山俊之
344	『秋田博正自伝』	1	秋田博正	平成17年	渡部進治
345	『子どもの「花」が育つとき』	1	内藤寿七郎	平成14年	榊信子
346	『機械やの見た明治の西洋』	1	柴田寛	平成14年	五高同窓会
347	『筆まめ祖父の気儘日記』	1	柴田寛	平成24年	五高同窓会
348	『緑色濃き立田山』 熊本大学工学部75年史	1	作道好男/江藤武人	平成46年	五高同窓会
349	『寮歌は生きている』	1	旧制高校寮歌保存会	昭和41年	佐川敏明
350	『唐津時代－第五高等学校水泳部前史－』	1	龍泳会東京支部	昭和58年	佐川敏明
351	『西郷隆盛』 第1～22巻	1	林房雄	昭和39～45年	緒方誠一郎
352	『自決－森近衛師団長斬殺事件－』	1	飯尾憲士	昭和57年	緒方誠一郎
353	『九州学院百年史』	1	九州学院百周年記念史編纂委員会	平成24年	学校法人九州学院
354	『夏目漱石と帰源院』	2	熊本県立美術館	平成25年	鎌倉漱石の会

## 2 購入資料（平成21～24年度）

番号	資料名	数量	作成者・発行者	年代
1	『熊本高等工業学校沿革史』	1	熊本高等工業学校	昭和13年
2	『行幸記念誌』	1	熊本高等工業学校	昭和6年
3	ポスター 熊本県第三区衆議院候補者大麻唯男	1	東京立憲青年総同盟本部	昭和13年
4	アルバム	1	熊本薬学専門学校	昭和13年
5	アルバム	1	九州薬学専門学校	大正12年
6	熊本医学専門学校平面図	1	熊本医学専門学校	
7	絵葉書 九州薬学専門学校	1		
8	絵葉書 熊本医学専門学校	5		
9	創立二十周年 記念論文集	1	熊本高等工業学校熊本工業会	大正15年
10	私立熊本医学専門学校平面図	1	私立熊本医学専門学校	
11	絵葉書 海軍大将有栖川宮殿下	1		
12	絵葉書 陸軍中将閑院宮殿下	1		
13	絵葉書 (熊本百景)	37		
14	『昭和6年陸軍特別大演習並地方行幸熊本県記録』	1	熊本県	昭和9年
15	写真 第五高等学校第四回卒業生写真	1		明治28年
16	写真 第五高等学校記念写真	1		
17	『天覧成績品目録』	1	熊本県学務部	昭和6年
18	『肥後医育史』	1	山崎正董	昭和4年
19	『龍南』 227号	1	第五高等学校雑誌部	昭和9年
20	『日露戦役写真帖』	1		明治39年
21	『会員異動名簿』	1	五高同窓会	昭和15年

22	『台北五高会会員名簿』	2		昭和16年
23	『第五高等学校同窓会 福岡支部会員名簿』	1		昭和22年
24	『会誌と名簿』 第6号	1	長崎医学五高会	昭和16年
25	熊本薬学専門学校入学志願資料	1	熊本薬学専門学校	昭和11年
26	『龍南会雑誌』『龍南』	21	龍南会	明治35年～昭和16年
27	『翼』 11月号 第1巻7号	1	第五高等学校内 翼詩社	
28	『熊本医学専門学校校友会雑誌』	4	熊本医学専門学校校友会	明治42年～大正6年
29	『KWAIDAN』	1	LAFCADIO HEARN	
30	アルバム 七高	1		
31	アルバム Postkartem Album	1		
32	写真 野球他	31		
33	『熊本医科大学一覧』	6	熊本医科大学	昭和10～16年
34	『OUT OF THE EAST』	1	ラフカディオ・ハーン	明治28年
35	絵葉書 (熊本百景)	5		
36	色紙 常無欲	1	佐藤栄作	
37	『校友会雑誌』 第28号	1	第一高等中学校校友会	明治26年
38	『放送講演集』 第四輯	1	社団法人日本放送協会九州支部	昭和6年
39	『高木敏雄書記論文集』 上巻	1	卯野木盈二	昭和6年
40	アルバム 五十年後第一年	2	赤土正眞	昭和13年
41	熊本市街図	1	長崎次郎	明治44年
42	最近熊本市街地図	1	都田伍	大正9年
43	熊本市明細案内地図 9月改正	1	野田傳吉	大正9年
44	最近実測熊本市街地図	1		昭和13年

### 3 寄贈資料（平成17年度以前）

番号	資料名	数量	作成者・発行者	年代	寄贈者
1	文乙試験問題	1	第五高等学校	昭和14年	宇野太郎
2	五高東光会語録	1		昭和55年	宇野太郎
3	三四郎日記	1	伊藤百世	明治45年	伊藤秀子
4	アルバム	1		昭和17年	田淵佐津子
5	五高開校九十周年灰皿	1		昭和52年	田淵佐津子
6	写真	6			田淵佐津子
7	ノート 昭和21年度金融論	1	中村重夫	昭和21年	田淵佐津子
8	ノート 貨幣論	2	中村重夫		田淵佐津子
9	心理学プリント	1	竹原東一		田淵佐津子
10	『一里木』	1		昭和16年	田淵佐津子
11	写真	23			水本破魔登
12	『五高七十年史』	1		昭和32年	田代照子
13	アルバム	2		昭和15・16年	田代照子
14	在寮記念品	4		昭和14年	田代照子
15	『全国五高会会報』 第1～11号	10		昭和50年	福田芳子
16	『八龍会誌』 1～28号	27		昭和24～42年	今田哲夫
17	『五高東光会建碑記念誌』	1		昭和55年	稲富貞雄
18	「五高昭和拾年文乙卒業五拾年記念誌」	1		昭和61年	本田不二男
19	長想思(アルバム)	1		昭和3年	坂本和子
20	SHUGAKURYO ALBUM	1		大正14年	坂本和子
21	「済美柔道会会報」	15	済美柔道会	大正15年	犬塚勲
22	第五高等学校医学部卒業証書コピー	1		明治28年	秋武里子
23	北九州区報 No.334	1		明治38年	角川武延
24	扁額 精力善用	1			岩村茂
25	掛軸 命名由来記秋月胤永	1		明治25年	山崎啓
26	掛軸 溝淵校長への寄書	1			山崎啓

27	五高関係写真	18		明治36年～大正2年	山崎啓
28	高橋仁助教授の試験問題	1		大正15年	齊藤辰巳
29	教科書	1			齊藤辰巳
30	教科書	6			光井庄太郎
31	教科書	7			坂田親信
32	教科書	4			安元一善
33	近藤清次郎教授の試験問題	7		昭和12年	神田慶也
34	白壁傑次郎教授の試験問題	4		昭和13年	神田慶也
35	部報	1	五高ア式蹴球部	昭和5年	神田慶也
36	教科書・ノート	12			神田慶也
37	寮歌集	1		昭和9年	甲斐茂吉
38	習学寮食器 木箱(壬寅8/17)付き	3			屋良教
39	『秋月悌次郎一老日本の面影』	1	松本健一	昭和62年	稲葉聡 水田宗昭
40	池田総理歓迎パーティ葉書	1		昭和35年	東野浩
41	楽譜 Untreue	1			東野浩
42	『龍南物語』	1		昭和6年	矢崎治雄
43	五高在学時のノート	1	関俊章		堀川俊章
44	扁額 剛毅朴訥	1	慈光		東京五高会
45	森興彦特別攻撃隊関係資料	1		昭和19～42年	芥川昭
46	平和の道しるべ No.10・12・13・20	1	知覧特攻平和会館 編	平成3年	芥川昭
47	額	1			芥川昭
48	森興彦関係資料ファイル	1			芥川昭
49	魂魄の記録 平和のみちしるべ	2	知覧特攻慰霊顕彰会、 知覧特攻平和会館管理組合	平成16年5月3日	芥川昭
50	特攻残記	1	元第105振武隊 佐藤亨	平成16年2月18日	芥川昭
51	集合写真 第十回法科卒業生	1		明治34年	石神啓吾
52	剣道部優勝 集合写真	1			井上義人
53	写真 磯本憲典	1			磯本憲典
54	滑空部(グライダー部)練習風景写真、ネガ共	3		昭和16年	宮部喜代二
55	教授似顔絵写真	1		昭和17年	宮部喜代二
56	中川元校長肖像写真	1			中川浩一
57	『若き哲学徒の手記』	1	弘津正二	昭和18年	高井敏雄
58	『わが失われし日本』 他五高関連書籍	10	ロバート・クラウダー		竹下精紀
59	「寂光」	1		昭和15年	竹下精紀
60	「白草」	4			竹下精紀
61	『思い出のアルバム抄』 他同窓会資料	18			竹下精紀
62	『隆元のわが宰相論』 他五高卒業生著書	12	細川隆元		平山謙二郎
63	『国史の研究 総説』 他五高関連書籍	80	黒板勝美		樋口尚
64	竹原東一教授寄贈資料	418		大正3年～昭和62年	竹原東一
65	河原畑正行教授寄贈資料	311		明治3年～平成17年	河原畑正行
66	大原英一教授寄贈資料	390		大正5年～昭和52年	大原英一
67	『現代学芸全書 数学発達史』	1	稲葉三男	昭和16年9月30日	牟田忠彦
68	『ESSAYS BY G.K. CHESTERTON』	1	日進堂編集部	昭和9年6月25日	牟田忠彦
69	「第五高等学校規則」		第五高等学校	明治25年	竹中龍範
70	「木魂」	2	第五高等学校山岳部	昭和4年8月16日	熊本大学山岳部
71	「こだま」	7	第五高等学校山岳部 蘇友会	昭和6～14年	熊本大学山岳部

72	『浅井東一先生追悼録』	1	第五高等学校山岳部 蘇友会	昭和29年9月10 日	熊本大学山 岳部
73	「こだま」	1	熊本大学山岳部蘇友 会	昭和53年1月26 日	熊本大学山 岳部
74	第五高等学校山岳部旗	1			熊本大学山 岳部
75	登山用概念図の木版	9			熊本大学山 岳部
76	漫然草(雑記帳)	12		昭和31年5月10 日	熊本大学山 岳部
77	地図・原稿類一括	1			熊本大学山 岳部
78	山岳部記録	1			熊本大学山 岳部
79	山行届	2		昭和39年	熊本大学山 岳部
80	『龍南』 247～251号	5		昭和15年7月10 日	田淵佐津子
81	『GOKOSEI OF RYUNAN』 龍南の五高 生	1	グレイアム・マーター	昭和5年7月8 日	牟田忠彦
82	龍泳会会報 他部活動関係資料	10		昭和8～59年	五高同窓会
83	アルバム	1		昭和12年	田中千束
84	アルバム 集合写真	2		大正15年	高石征男
85	五高外国人教師関係論文	7	上村直己	平成16年～	上村直己
86	習学寮アルバム写真	24	習学寮	昭和8年12月	行正節子
87	第五高等学校関係写真	9	富重写真所 岩田天真堂	明治36～43年	行正節子
88	『THE JOURNAL AMERICAN-EAST ASIAN RELATIONS』	1		平成6年	ロバート・ク ラウダー
89	卒業生書籍	12			平山謙二郎
90	『夏目金之助 ロンドンに狂せり』	1	末延芳晴	平成16年	末延芳晴
91	『佐藤寛子の「宰相婦人秘録」』	1	佐藤寛子	昭和49年	今江正知
92	『住友鴻之舞金山史』	1	鴻之舞金山史編纂委 員会	平成15年	住友金属 鉦 山株式会社
93	『水竹居文集』	1	赤星陸治・赤星隆子	平成20年	赤星隆子
94	『漱石の「明暗」と明治の気骨』	1	石原禮三	平成20年	中尾辰雄
95	『ハーン曼荼羅』	1	西川盛雄	平成20年	西川盛雄
96	『ラフカディオ・ハーン 小泉八雲と日本』	1	西野影四郎	平成21年	西野影四郎

(薄田千穂)

## IV 運営等に関する資料

### 1 入館者の動向

#### 平成5年度～20年度

年度	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備考
平成5年度	46	—	—	—	3,016	65.6	
平成6年度	110	—	—	—	2,215	20.1	
平成7年度	109	—	—	—	2,191	20.1	
平成8年度	109	—	—	—	4,311	39.6	
平成9年度	101	—	—	—	1,516	15	
平成10年度	104	—	—	—	1,470	14.1	
平成11年度	—	—	—	—	1,283	—	
平成12年度	—	—	—	—	2,002	—	
平成13年度	—	—	—	—	4,558	—	
平成14年度	102	—	—	—	2,017	19.8	
平成15年度	99	—	—	—	1,651	16.7	
平成16年度	99	—	—	—	2,409	24.3	
平成17年度	122	—	—	—	3,257	26.7	
平成18年度	314	818	1,455	4,345	6,618	21.1	
平成19年度	303	1,517	1,900	5,239	8,656	28.6	
平成20年度	296	1,938	2,243	5,942	10,123	34.2	

#### 平成21年度

年度	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備考
平成21年4月	30	369	165	293	827	27.6	忙中閑ありアートするプロフェッサー 3/19～5/18
5月	28	127	113	280	520	18.6	
6月	25	213	111	209	533	21.3	
7月	27	255	103	543	901	33.4	
8月	22	102	171	646	919	41.8	熊本大学の海外調査8/7～10/26
9月	26	49	85	725	859	33.0	
10月	27	96	324	701	1,121	41.5	
11月	26	348	315	839	1,502	57.8	坂の上の雲の時代11/1～1/31
12月	18	139	107	141	387	21.5	作陶展12/5～12/18
平成22年1月	20	156	162	154	472	23.6	
2月	20	57	57	264	378	18.9	

3月	29	88	251	674	1,013	34.9	昭和六年の天覧標本3/1～5/31
合計	298	1,999	1,964	5,469	9,432	31.7	

## 平成22年度

年度	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備考
平成22年4月	30	354	200	347	901	30.0	昭和六年の天覧標本3/1～5/31
5月	28	175	285	399	859	30.7	
6月	18	58	103	209	370	20.6	いないいないばあ～階段の会談 6/26～9/5
7月	26	179	96	272	547	21.0	
8月	19	31	252	884	1,167	61.4	五高時代の漱石先生2010 22.8/10～ 24～3/26
9月	26	50	110	348	508	19.5	
10月	27	481	594	640	1,715	63.5	アートするプロフェッサー10/1～ 12/6
11月	26	316	157	752	1,225	47.1	
12月	18	125	173	129	427	23.7	作陶展12/8～12/17
平成23年1月	21	137	98	271	506	24.1	ちょっと昔のくらし探検1/17～2/14
2月	20	143	110	187	440	22.0	
3月	29	141	97	618	856	29.5	
合計	288	2,190	2,275	5,056	9,521	33.1	

## 平成23年度

年度	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備考
平成23年4月	30	1,179	126	507	1,812	60.4	五高時代の漱石先生2010 22.8/10～ 24.3/26
5月	26	368	122	380	870	33.5	
6月	26	1,079	138	312	1,529	58.8	
7月	27	247	85	243	575	21.3	
8月	21	34	161	858	1,053	50.1	
9月	25	41	110	487	638	25.5	
10月	27	146	137	804	1,087	40.3	
11月	25	559	601	638	1,798	71.9	アートするプロフェッサー・五高記念 館収蔵美術品展11/4～12.5
12月	17	62	187	154	403	23.7	作陶展12.7～12/16
平成24年1月	20	65	130	68	263	13.2	ちょっと昔のくらし探.1/5.2/16
2月	23	62	67	202	331	14.4	
3月	29	59	120	430	609	21.0	熊本大学教育学部美術科卒業・修了制 作.3/13.3/25
合計	296	3,901	1,984	5,083	10,968	37.1	

## 平成24年度

年度	開館日数	学内	県内	県外	合計	1日平均	備考
平成24年4月	30	1,213	202	355	1,770	59.0	
5月	26	175	120	304	599	23.0	
6月	26	918	103	457	1,478	56.8	大城組の小さな巨人たち 9/15～10/28
7月	26	174	98	248	520	20.0	
8月	23	90	282	771	1,143	49.7	
9月	26	84	257	225	566	21.8	
10月	26	245	219	760	1,224	47.1	
11月	26	348	592	808	1,748	67.2	アートするプロフェッサー11/2～12/3
12月	20	105	87	134	326	16.3	
平成25年1月	20	94	90	86	270	13.5	
2月	22	69	82	165	316	14.4	ちょっと昔のくらし探検 1/24～2/23
3月	29	130	188	464	782	27.0	熊本大学教育学部美術科卒業修了制作 3/5～3/14
合計	300	3,645	2,320	4,777	10,742	35.8	

## 2 五高記念館機構



(平成26年3月28日現在)

## 3 五高記念館教職員

館長 (併任)	伊藤重剛 (平成18年4月1日～)
准教授 (専任)	岩崎竹彦 (平成19年1月1日～)
客員教授	磯田桂史 (平成24年9月1日～)
特定事業研究員 (非常勤)	藤本秀子 (平成18年4月1日～)
特定事業研究員 (非常勤)	薄田千穂 (平成18年11月1日～)
事務補佐員 (非常勤)	市原富代 (平成20年4月1日～)
事務補佐員 (非常勤)	宮田恭子 (平成23年11月7日～)
事務補佐員 (非常勤)	小多信幸 (平成23年9月12日～)
事務補佐員 (非常勤)	田中希和 (平成23年10月3日～)
事務補佐員 (非常勤)	戸島由加里 (平成25年7月17日～)
事務補佐員 (非常勤)	佐藤理恵 (平成25年8月1日～)

市民研究員	東 孝治 (平成21年 4月 1日～)
社会連携課ユニット長	吉本昭彦 (平成25年12月 2日～)
社会連携課 チームリーダー	園田哲朗 (平成23年 4月 1日～)
社会連携課 係長	尾方富美代 (平成23年 4月 1日～)
社会連携課 係員	小野川勇二 (平成23年 4月 1日～)
社会連携課 事務補佐員	荒木香穂 (平成22年 4月 1日～)

(平成26年 3月28日現在)

#### 4 五高記念館等運営委員会委員名簿

(平成25年 3月31日現在)

部 局 名	職 種	氏 名	任 期	備 考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	1号委員 (委員長)
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定	2号委員 (専任教員)
附属図書館	館長	森 正人	役職指定	3号委員 (図書館長)
文学部	教授	牧野 厚史	24.4.1～26.3.31	4号委員 (文選出)
教育学部	准教授	春田 直紀	24.4.1～26.3.31	4号委員 (教育選出)
法学部	教授	大澤 博明	24.4.1～26.3.31	4号委員 (法選出)
大学院自然科学研究科 (理学系)	准教授	磯部 博志	24.4.1～26.3.31	4号委員 (理、自然選出)
大学院生命科学研究部 (医学系)	教授	山本 哲郎	24.4.1～26.3.31	4号委員 (医、医教選出) 兼務教員
大学院自然科学研究科 (工学系)	教授	伊東 龍一	24.4.1～26.3.31	4号委員 (工、自然選出)
大学院社会文化科学研究科	教授	山下 裕作	24.4.1～26.3.31	4号委員 (社文選出)
大学院法曹養成研究科	教授	山本 悦夫	24.4.1～26.3.31	4号委員 (法曹選出)
大学院薬学教育部	准教授	松永 浩文	24.4.1～26.3.31	4号委員 (薬教選出) 兼務教員
マーケティング推進部長	部長	今田幸二郎	役職指定	5号委員
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	24.4.1～26.3.31	8号委員 24.4.1～24.12.26 6号委員 24.12.27～26.3.31
大学院自然科学研究科 (工学系・大学院)	准教授	星野 裕司	24.4.1～26.3.31	兼務教員
埋蔵文化財調査センター	准教授	松田光太郎	24.4.1～26.3.31	兼務教員

(順不同)

#### 5 教職員等の変遷

##### (1) 館長

- 初代館長 魚津郁夫 (文学部教授) 平成 5年 8月 1日～平成 8年 3月31日  
 第2代館長 江藤 孝 (法学部教授) 平成 8年 4月 1日～平成11年 3月31日  
 第3代館長 岩岡中正 (法学部教授) 平成11年 4月 1日～平成15年 4月30日  
 第4代館長 北野 隆 (大学院自然科学研究科教授) 平成15年 5月～平成18年 3月31日  
 第5代館長 伊藤重剛 (大学院自然科学研究科教授) 平成18年 4月 1日～

##### (2) 教職員 (五高記念館内のみ)

- 事務補佐員 竹森良子 平成18年 7月 4日～平成19年 3月31日



事務補佐員	洲崎五十鈴	平成19年4月1日～平成20年3月31日
事務補佐員	興梶順美	平成21年11月1日～平成23年3月31日
事務補佐員	草野航	平成23年8月22日～平成24年3月31日
事務補佐員	松村侑	平成23年9月1日～平成24年3月31日
事務補佐員	山田高司	平成23年9月12日～平成25年3月31日
事務補佐員	村口森恵	平成23年10月5日～平成25年3月31日
事務補佐員	野山倫太郎	平成23年10月17日～平成24年3月31日

### (3) 五高記念館等運営委員会

・第5期（平成20年4月1日～平成22年3月31日）

部局名	職種	氏名	任期	備考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	1号委員（委員長）
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定	2号委員（専任教員）
附属図書館長	館長	入口 紀男	役職指定	3号委員（図書館長）
大学院社会文化科学研究科	教授	安田 宗生	20.4.1～22.3.31	4号委員（文選出）
教育学部	准教授	春田 直紀	20.4.1～22.3.31	4号委員（教育選出）
法学部	教授	岩岡 中正	20.4.1～22.3.31	4号委員（法選出）
大学院社会文化科学研究科	教授	吉川 榮一	20.4.1～22.3.31	4号委員（社文選出）
大学院自然科学研究科（理学系）	准教授	磯部 博志	20.4.1～22.3.31	4号委員（理、自然選出）
大学院自然科学研究科（工学系）	教授	伊東 龍一	20.4.1～22.3.31	4号委員（工、自然選出）
大学院自然科学研究科（医学系）	教授	山本 哲郎	20.4.1～22.3.31	4号委員（医、医教選出）
大学院自然科学研究科（薬学系）	教授	高濱 和夫 入江 徹美	24.4.1～26.3.31 20.4.1～21.12.31	4号委員（薬教選出）
企画部	部長	山崎 雅彦	役職指定	5号委員
財務部	部長	岩倉 公男	役職指定	6号委員
研究・国際部	部長	園田 秋雄 今田幸二郎	役職指定 20.4.1～21.3.31 21.4.1～22.3.31	7号委員
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	20.4.1～22.3.31	8号委員
政策創造研究教育センター	教授	矢加部和幸	20.4.1～22.3.31	8号委員
			16名	

（順不同）

・第6期（平成22年4月1日～24年3月31日）

部局名	職種	氏名	任期	備考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	1号委員（委員長）
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定	2号委員（専任教員）
附属図書館長	館長	入口 紀男 森 正人	役職指定 22.4.1～23.3.31 23.4.1～24.3.31	3号委員（図書館長）
大学院社会文化科学研究科	准教授	鈴木 寛之	22.4.1～24.3.31	4号委員（文選出）
教育学部	准教授	春田 直紀	22.4.1～24.3.31	4号委員（教育選出）
法学部	教授	岩岡 中正	22.4.1～24.3.31	4号委員（法・法曹選出）
大学院自然科学研究科（理学系）	准教授	磯部 博志	22.4.1～24.3.31	4号委員（理、自然選出）
大学院自然科学研究科（医学系）	教授	山本 哲郎	22.4.1～24.3.31	4号委員（医、医教選出）

大学院自然科学研究科（工学系）	教授	伊東 龍一	22.4.1～24.3.31	4号委員（工、自然選出）
大学院社会文化科学研究科	教授	吉川 榮一	22.4.1～24.3.31	4号委員（社文選出）
大学院自然科学研究科（薬学系）	准教授	藤田美歌子	22.4.1～24.3.31	4号委員（薬教選出）
企画部 運営基盤管理部総務担当部長 同	部長	佐藤 悟 小原 康伸 鈴木 武	役職指定 22.4.1～22.9.29 22.9.30～23.3.30 23.4.1～24.3.31	5号委員
財務部 運営基盤管理部財務担当部長	部長	岩倉 公男 松原 省三	役職指定 22.4.1～22.9.29 22.9.30～24.3.31	6号委員
研究・国際部 マーケティング推進部長	部長	今田幸二郎	役職指定	7号委員
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	22.4.1～24.3.31	8号委員
政策創造研究教育センター	教授	矢加部和幸	22.4.1～23.3.31	8号委員
経営企画本部長	部長	佐藤 悟	22.10.1～24.3.31	8号委員

（順不同）

・第7期（平成24年4月1日～26年3月31日）平成25年3月31日現在

部局名	職種	氏名	任期	備考
館長	教授	伊藤 重剛	役職指定	1号委員（委員長）
五高記念館	准教授	岩崎 竹彦	役職指定	2号委員（専任教員）
附属図書館	館長	森 正人	役職指定	3号委員（図書館長）
文学部	教授	牧野 厚史	24.4.1～26.3.31	4号委員（文選出）
教育学部	准教授	春田 直紀	24.4.1～26.3.31	4号委員（教育選出）
法学部	教授	大澤 博明	24.4.1～26.3.31	4号委員（法選出）
大学院自然科学研究科（理学系）	准教授	磯部 博志	24.4.1～26.3.31	4号委員（理、自然選出）
大学院生命科学研究部（医学系）	教授	山本 哲郎	24.4.1～26.3.31	4号委員（医、医教選出） 兼務教員
大学院自然科学研究科（工学系）	教授	伊東 龍一	24.4.1～26.3.31	4号委員（工、自然選出）
大学院社会文化科学研究科	教授	山下 裕作	24.4.1～26.3.31	4号委員（社文選出）
大学院法曹養成研究科	教授	山本 悦夫	24.4.1～26.3.31	4号委員（法曹選出）
大学院薬学教育部	准教授	松永 浩文	24.4.1～26.3.31	4号委員（薬教選出） 兼務教員
マーケティング推進部長	部長	今田幸二郎	役職指定	5号委員
運営基盤管理部総務担当部長	部長	山下 登	役職指定 24.4.1～24.12.26	6号委員 24.4.1～24.12.26
運営基盤管理部財務担当部長	部長	松原 省三	役職指定 24.4.1～24.12.26	7号委員 24.4.1～24.12.26
政策創造研究教育センター	教授	上野 眞也	24.4.1～26.3.31	8号委員 24.4.1～24.12.26 6号委員 24.12.27～26.3.31
大学院自然科学研究科（工学系・大学院）	准教授	星野 裕司	24.4.1～26.3.31	兼務教員
埋蔵文化財調査センター	准教授	松田光太郎	24.4.1～26.3.31	兼務教員

（順不同）

## 6 五高記念館等運営委員会記録

### 平成21年度

- ・平成21年度第1回五高記念館等運営委員会次第
  - 1 日時 平成21年5月19日（火）
  - 2 場所 書面会議
  - 3 議事 受託研究（天草市文化的景観保存調査）の受入れについて
  
- ・平成21年度第2回五高記念館等運営委員会次第
  - 1 日時 平成21年7月30日（木）10：20～11：50
  - 2 場所 事務局3階 特別会議室
  - 3 議事
    - (1) 平成20年度事業報告について
    - (2) 平成20年度決算について
    - (3) 平成21年度事業計画について
    - (4) 平成21年度予算執行計画について
    - (5) その他
  - 4 報告連絡
    - (1) 外部資金の獲得状況について
    - (2) 兼業について
    - (3) その他

#### 【配布資料】

- 資料1 五高記念館等運営委員会名簿
- 資料2 平成20年度五高記念館事業報告
- 資料3 平成20年度五高記念館収支概要報告（案）
- 資料4 平成21年度五高記念館事業計画
- 資料5 平成21年度五高記念館予算執行計画（案）
- 資料6 科学研究費補助金・受託研究受入について
- 資料7 兼業状況
- 資料8 五高記念館等規則

- ・平成21年度第3回五高記念館等運営委員会次第
  - 1 日時 平成21年11月25日（水）
  - 2 場所 書面会議
  - 3 議事 受託研究（天草市文化的景観保存調査）の受入れについて
  
- ・平成21年度第4回五高記念館等運営委員会次第
  - 1 日時 平成22年3月9日（火）16：30～17：20
  - 2 場所 事務局3階 特別会議室
  - 3 議事
    - (1) 次期五高記念館長について

- (2) その他
- 4 報告連絡
  - (1) 五高記念館の活動状況について
  - (2) 外部資金の受入状況について
  - (3) 兼業について
  - (4) その他

【配布資料】

- 資料1 熊本大学五高記念館等規則
- 資料2 五高記念館等運営委員会名簿
- 資料3 五高記念館活動状況
- 資料4 外部資金受入状況
- 資料5 兼業状況

## 平成22年度

・平成22年度第1回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成22年4月23日（金）10：20～11：10
- 2 場所 事務局1階 大会議室
- 3 議事
  - (1) 平成22年度事業計画について
  - (2) 平成22年度予算執行計画について
  - (3) その他

4 報告連絡

- (1) 科研費の獲得状況について
- (2) その他

【配布資料】

- 資料1 五高記念館等運営委員会名簿
- 資料2 五高記念館等規則
- 資料3 平成22年度事業計画（案）
- 資料4 「熊本大学サマースクール～五高記念館で漱石を学ぶ～」の実施について（案）
- 資料5 平成22年度五高記念館予算執行計画（案）
- 資料6 科学研究費補助金受入について

・平成22年度第2回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成23年2月9日（水）15：00～16：50
- 2 場所 事務局3階 特別会議室
- 3 議事
  - (1) 第二期ユニバーシティミュージアム構想（案）について
  - (2) その他
- 4 報告連絡
  - (1) 博物館相当施設の指定について
  - (2) 五高記念館屋外トイレ設置工事について
  - (3) 熊本駅前再開発事業に伴うモチーフ提供について

(4) 文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業の参画について

(5) その他

**【配布資料】**

資料1 熊本大学ユニバーシティミュージアム構想第2期5ヵ年計画（平成23～27年度）（案）

資料2 博物館に相当する施設の指定について（文部科学省通知）

資料3 五高記念館屋外トイレ設置工事に関する図面

資料4 情報交流施設（仮称）への展示モチーフ提供関係資料

資料5 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業に関する資料

資料6 平成22年度五高記念館等運営委員会名簿

・平成22年度第3回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成23年3月25日（金）
- 2 場所 書面会議
- 3 議事 市民研究員の受け入れについて
- 4 報告連絡 ユニバーシティミュージアム構想について

**平成23年度**

・平成23年度第1回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成23年6月22日（水）10：20～11：50
- 2 場所 五高記念館1階講義室
- 3 議事
  - (1) 平成22年度事業について
  - (2) 平成22年度決算について
  - (3) 平成23年度事業計画について
  - (4) 平成23年度予算執行計画について
  - (5) その他
- 4 報告
  - (1) ユニバーシティ・ミュージアム構想検討WGについて
  - (2) 文化庁公募事業について
  - (3) 熊本大学歴史地区保存整備・利活用プロジェクトチームについて
  - (4) 兼業について
  - (5) その他

**【配布資料】**

資料1 五高記念館等運営委員会名簿

資料2 平成22年度五高記念館事業報告

資料3 平成22年度五高記念館収支報告（案）

資料4 平成23年度五高記念館事業計画（案）

資料5 平成23年度五高記念館予算執行計画（案）

資料6 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想の見直しに係る検討体制（総合企画会議資料）

資料7 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業の申請について

資料8 熊本大学歴史地区保存整備・利活用プロジェクトチーム（案）

資料9 兼業状況

## 資料10 五高記念館等規則

### ・平成23年度第2回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成23年10月3日（月）
- 2 場所 書面会議
- 3 議事

文化庁公募事業「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の採択及び旧第五高等中学校本館等保存活用計画策定委員会の設置について

#### 【配布資料】

資料1 一文化庁公募事業一文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業の申請について

資料2 重要文化財（建造物）保存活用計画策定指針

資料3 熊本大学旧第五高等中学校本館等保存活用計画策定委員会要領（案）

資料3-2 熊本大学五高記念館旧第五高等中学校本館等保存活用計画策定委員会（案）

### ・平成23年度第3回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成24年1月23日（月）16：10～17：35
- 2 場所 五高記念館1階講義室
- 3 議事

- (1) 次期五高記念館長について
- (2) 兼務教員の推薦について
- (3) その他平成23年度事業計画について

#### 4 報告

- (1) 第2期ユニバーシティ・ミュージアム構想について
- (2) 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業について
- (3) 兼業について
- (4) その他

#### 【配布資料】

資料1 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想第2期5か年計画

資料2 兼務教員の推薦について

資料3 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業について

資料4 兼業状況

資料5 五高記念館等運営委員会名簿

資料6 五高記念館等規則

### ・平成23年度第4回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成24年3月22日（木）
- 2 場所 書面会議
- 3 議事 市民研究員の委嘱について

## 平成24年度

### ・平成24年度第1回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成24年7月4日（水）15：00～17：00

2 場所 五高記念館 1 階講義室

3 議事

- (1) 平成23年度事業報告について
- (2) 平成23年度決算（収支報告）について
- (3) 平成24年度事業計画について
- (4) 平成24年度予算執行計画について
- (5) 客員教授の受け入れについて
- (6) ユニバーシティ・ミュージアム構想への取り組みについて
- (7) その他

4 報告

- (1) 外部資金の獲得について
- (2) 兼業について文化庁公募事業について
- (3) その他

**【配布資料】**

- 資料1 五高記念館等運営委員会名簿
- 資料2 平成23年度五高記念館事業報告
- 資料3 平成23年度五高記念館収支報告（案）
- 資料4 平成24年度五高記念館事業計画（案）
- 資料5 平成24年度五高記念館予算執行計画（案）
- 資料6 教員資格審査票・推薦理由書・研究業績等
- 資料7 ①熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想（第2期5か年計画）  
各施設等におけるミュージアム構想への取り組みについて  
②工学部研究資料館  
③山崎記念館・肥後医育記念館  
④熊薬ミュージアム、薬用資源エコフロンティアセンター  
⑤埋蔵文化財調査センター
- 資料8 外部資金獲得状況
- 資料9 兼業状況
- 資料10 五高記念館等規則

・平成24年度第2回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成24年11月15日（木）
- 2 場所 書面会議
- 3 議事 五高記念館等規則の一部改正について

・平成24年度第3回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成24年12月21日（金）10：30～11：30
- 2 場所 五高記念館 1 階講義室
- 3 議事
  - (1) ユニバーシティ・ミュージアム構想第2期5か年計画及び学長裁量経費要求について
  - (2) その他

**【配布資料】**

- 資料1 ユニバーシティ・ミュージアム構想第2期5か年計画（案）

- 資料2 学長裁量経費要求書（五高記念館）
- 資料3 学長裁量経費要求書（工学部資料館）
- 資料4 学長裁量経費要求書（肥後医育記念館）
- 資料5 学長裁量経費要求書（熊薬ミュージアム、薬用資源エコフロンティアセンター）

・平成24年度第4回五高記念館等運営委員会次第

- 1 日時 平成25年3月14日（木）15：00～16：00
- 2 場所 五高記念館1階講義室
- 3 議事
  - (1) 旧第五高等学校本館（熊本大学五高記念館）等保存活用計画の策定について
  - (2) その他
- 4 報告
  - (1) 学長裁量経費の採択状況について
  - (2) 五高記念館への寄付募集について
  - (3) 化学実験場の活用について
  - (4) 各施設の取り組み状況について
  - (5) その他の研究資料について

【配布資料】

- 資料1 旧第五高等学校本館（熊本大学五高記念館）等保存活用計画（案）
- 資料2 学長裁量経費採択状況
- 資料3 寄付金募集パンフレット

## 7 運営に関する諸規程等

### (1) 設置規程

熊本大学五高記念館は、国立大学法人熊本大学法人規則第36条及び熊本大学学則第9条に「学内共同教育研究施設」として位置付けられている。

・ 国立大学法人熊本大学法人規則第36条  
(学内共同教育研究施設)

第36条 本学に、教育職員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設として、次の学内共同教育研究施設を置く。

- 総合情報基盤センター
- 国際化推進センター
- 大学教育機能開発総合研究センター
- 政策創造研究教育センター
- 五高記念館
- eラーニング推進機構
- 沿岸域環境科学教育研究センター
- 先進マグネシウム国際研究センター
- 生命資源研究・支援センター
- エイズ学研究センター
- 環境安全センター



埋蔵文化財調査センター

・熊本大学学則第9条

(学内共同教育研究施設)

第9条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

総合情報基盤センター

国際化推進センター

大学教育機能開発総合研究センター

政策創造研究教育センター

五高記念館

eラーニング推進機構

沿岸域環境科学教育研究センター

先進マグネシウム国際研究センター

生命資源研究・支援センター

エイズ学研究センター

環境安全センター

埋蔵文化財調査センター

2 学内共同教育研究施設に関する規則は、別に定める。

## (2) 教授会等

五高記念館は学内共同教育研究施設であり、教授会に関しては国立大学法人熊本大学法人基本規則第50条及び熊本大学教授会等規則第4条の規定に基づき、教授会として「学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会」を置いている。学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会は、熊本大学教授会等規則第4条及び熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則第3条の規定に基づき、施設等の教育又は研究に関する重要事項について審議し、並びに施設等の教員の採用及び昇任のための選考並びに施設等の教員の再任審査に関する事項を行う、と定められている。また、熊本大学教授会等規則第14条及び熊本大学文学部教授会規則第2条の規定により、五高記念館の専任准教授は文学部教授会に所属している。

・国立大学法人熊本大学法人基本規則第50条

(教授会等)

第50条 学部、研究科、研究部及び教育部に、教授会又は研究科委員会を置く。

2 学長は、研究所、大学院先導機構、イノベーション推進機構、学内共同教育研究施設及び保健センターのうち必要と認めるものに、教授会又は教授会として運営委員会を置くことができる。

3 学長は、研究所、大学院先導機構、イノベーション推進機構、学内共同教育研究施設及び保健センターのうち前項の規定により教授会又は教授会として運営委員会を置く組織以外の組織にあっては、本学に、教授会として学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を置く。

4 前3項に規定する教授会又は研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

・熊本大学教授会等規則第4条及び第14条

(教授会)

第4条 大学院先導機構、イノベーション推進機構、学内共同教育研究施設で前条第1項に掲げる組織以外の組織及び保健センターにあっては、熊本大学に、教授会として学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を置く。

2 前項の委員会は、同項に規定する組織の教育又は研究に関する重要事項について審議し、及び当該組織の教員の採用及び昇任のための選考に関する事項を行う。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、教授会、研究科委員会及び代議員会等の組織運営等に関し必要な事項は、当該組織の長が別に定める。

・熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則

(任務)

第3条 人事等委員会は、施設等の教育又は研究に関する重要事項について審議し、並びに施設等の教員の採用及び昇任のための選考並びに施設等の教員の再任審査に関する事項を行う。

・熊本大学文学部教授会規則第2条

(構成)

第2条 教授会は、次に掲げる者をもって構成する。

(1) 文学部の専任の教授、准教授、講師及び助教

(2) 文学部の授業を担当する大学院社会文化科学研究科の専任の教授及び准教授

(3) 国際化推進センター、政策創造研究教育センター、大学教育機能開発総合研究センター、五高記念館及び埋蔵文化財調査センターの専任の教授又は准教授のうち、別に定めるところにより教授会が必要と認められた者

### (3) 熊本大学五高記念館等規則

熊本大学五高記念館等規則は、熊本大学学則第9条第2項(前掲)の規定に基づき、設置目的、業務、組織、館長、兼務教員、業務協力者、委員会の設置、委員会の組織、審議事項、委員長、議事、意見の聴取、事務等の五高記念館に関し必要な事項を定め、併せて熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想を視野に入れた本学の貴重な学術研究資料及び建築物の活用に関し必要な事項を定めている。

#### ○熊本大学五高記念館等規則

(平成18年10月26日規則第253号)

改正 平成19年3月30日規則第179号 平成20年9月2日規則第239号

平成22年9月30日規則第247号 平成24年12月27日規則第138号

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則(平成16年4月1日~制定)第9条第2項の規定に基づき、熊本大学五高記念館(以下「五高記念館」という。)に関し必要な事項を定め、併せて熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想を視野に入れた熊本大学(以下「本学」という。)の貴重な学術研究資料及び建築物(以下「資料」という。)の活用に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 五高記念館は、本学及び旧制第五高等学校、旧制第五高等学校その他本学の沿革にある学校の発足以来の資料の充実を図るとともに、質の高い学芸員教育を行い、もって、本学の教育研究に貢献し、地域文化の発展・向上に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 五高記念館は、次に掲げる業務を行う。

(1) 旧制第五高等学校の本館及び化学実験場(以下「五高記念館施設」という。)の資料を収集、整理

- 及び保管し、並びに展示・公開すること。
- (2) 五高記念館施設の資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
  - (3) 五高記念館施設の資料に関する講演会、講習会、研究会等の実施に関すること。
  - (4) 学芸員教育に関すること。
  - (5) 工学部研究資料館その他学部等の資料館に係る第1号から第3号までの業務に関する学部等に対する支援
  - (6) その他五高記念館の業務に関し必要な事項  
(組織)

第4条 五高記念館に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専任教員
- (3) 兼務教員
- (4) その他必要な職員  
(館長)

第5条 館長の選考及び任命は、本学専任の教授のうちから、第8条に定める委員会の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 館長は、五高記念館の業務を掌理する。
- 3 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 館長に欠員が生じた場合の補欠の館長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。  
(兼務教員)

第6条 兼務教員は、本学の教員のうちから、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

- 2 館長は、前項の推薦を行うに当たっては、兼務教員として推薦しようとする者の所属する部局の長の同意を得るものとする。
- 3 兼務教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 兼務教員に欠員が生じた場合の補欠の兼務教員の任期は、前任者の残任期間とする。  
(業務協力者)

第7条 五高記念館は、次に掲げる業務協力者を受け入れることができる。

- (1) ミュージアム・フェロー
- (2) 市民研究員

- 2 業務協力者に関し必要な事項は、別に定める。  
(委員会の設置)

第8条 五高記念館及び学部等の資料館（以下「五高記念館等」という。）の管理運営に関し必要な事項を審議するため、熊本大学五高記念館等運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第9条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 館長
- (2) 五高記念館の専任教員
- (3) 附属図書館長
- (4) 各学部（薬学部を除く。）、大学院社会文化科学研究科、大学院自然科学研究科、大学院医学教育部、大学院薬学教育部及び大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授 各1人
- (5) マーケティング推進部地域連携ユニット長
- (6) その他委員長が必要と認めた者 若干人

- 2 前項第4号及び第6号の委員は、学長が委嘱する。

- 3 第1項第4号及び第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 第1項第4号及び第6号の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第10条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 五高記念館の管理運営に関する事。
- (2) 五高記念館の業務に関する事。
- (3) 館長の推薦に関する事。
- (4) 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム構想の具体化に関する事。
- (5) その他五高記念館等に関し必要な事項

(委員長)

第11条 委員会に、委員長を置き、館長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第12条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第13条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させて意見を聴くことができる。

(事務)

第14条 五高記念館及び委員会の事務は、マーケティング推進部地域連携ユニットが処理する。

(雑則)

第15条 この規則に定めるもののほか、五高記念館の管理運営に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年12月1日から施行する。
- 2 熊本大学五高記念館等規則（平成16年4月1日～制定）は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に任命される館長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則施行の際現に熊本大学五高記念館長である者をもって充てるものとし、その任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。
- 4 この規則施行後、最初に任命される兼務教員の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。
- 5 この規則施行後、最初に委嘱される第8条第1項第4号の委員は、この規則施行の際現に附則第2項による廃止前の熊本大学五高記念館等規則第8条第1項第3号の委員である者をもって充てるものとし、その任期は、第8条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則（平成19年3月30日規則第179号）

この規則は、平成19年4月1日～から施行する。

附 則（平成20年9月25日規則第239号）

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則（平成22年9月30日規則第247号）

この規則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成24年12月27日規則第138号）

この規則は、平成25年4月1日～から施行する。

#### (4) 職員組織規程等

五高記念館の職員組織は、国立大学法人熊本大学法人基本規則第24条、第45条及び熊本大学学則第15条の規定に基づき、熊本大学五高記念館等規則第4条（前掲）において、館長、専任教員、兼務教員、その他必要な職員と定められている。現在、その他必要な職員としては、国立大学法人熊本大学有期雇用職員雇用規則及び国立大学法人熊本大学有期雇用職員就業規則に基づき特定事業研究員（2）と事務補佐員（1）を置いている。

また、専任教員の任用にあたって任期制（5年）が採用されたことから、その再任審査等については国立大学法人熊本大学教員の任期に関する規則第4条第2項及び熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則第8条第2項の規定に基づき、熊本大学五高記念館教員の再任審査等に関する内規を定めている。

##### ・国立大学法人熊本大学法人基本規則第24条及び第45条 （職員）

第24条 法人に、次の職員を置く。

教育職員

一般職員

医療職員

2 職員は、学長が任命する。

（学内共同教育研究施設長）

第45条 学内共同教育研究施設に、学内共同教育研究施設の長（以下「センター長」という。）を置く。

2 センター長は、学内共同教育研究施設の業務を掌理する。

3 センター長の選考等に関し必要な事項は、別に定める。

##### ・熊本大学学則第15条 （職員）

第15条 本学に、学長及び副学長を置き、学部学部長を、研究科（研究部及び教育部を含む。第6項において同じ。）に研究科長（研究部にあつては研究部長、教育部にあつては教育部長。第6項において同じ。）を置く。

2 本学に教授、准教授、専任講師、助教及び助手を置く。

3 前2項に定めるもののほか、本学に事務職員、技術職員、医療職員その他必要な職員を置く。

4 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

5 副学長は、学長の職務を助ける。

6 学部長及び研究科長は、学部又は研究科に関する校務をつかさどる。

7 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

8 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

9 専任講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

10 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

11 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

12 第3項に規定する職員の職務については、別に定める。

・国立大学法人熊本大学教員の任期に関する規則第4条

(業績審査)

第4条 教員を再採用しようとする場合、その可否は、当該教員の任期中の業績審査に基づき、任期満了の日の1年前までに決定するものとする。

2 前項の業績審査は、次の各号に掲げる事項について行うものとし、その審査の方法、項目等審査のために必要な事項については、教授会（熊本大学教授会等規則（平成16年4月1日～制定）第3条第1項に定める研究所及び学内共同教育研究施設の運営委員会並びに同規則第4条第1項に定める学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会を含む。以下同じ。）の議を経て、教育研究組織の長が別に定める。

- (1) 教育活動に関する事項
- (2) 研究活動に関する事項
- (3) 本学の管理運営、社会への貢献等に関する事項

・熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則第8条

(業績評価委員会)

第8条 人事等委員会に、施設等の教員の再任審査に係る業績評価に関する事項を審議するため、業績評価委員会を置く。

2 業績評価委員会の組織運営等に関し必要な事項は、人事等委員会の議を経て委員長が別に定める。

○熊本大学五高記念館教員の再任審査等に関する内規

(平成18年12月1日内規第12号)

(趣旨)

第1条 この内規は、国立大学法人熊本大学教員の任期に関する規則（平成16年4月1日～制定）第4条第2項及び熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年4月1日～制定）第8条第2項の規定に基づき、熊本大学五高記念館（以下「記念館」という。）教員の再任審査に係る業績評価委員会（以下「委員会」という。）の組織運営及び委員会が行う業績評価等に関し必要な事項を定める。

(業績評価委員会の組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長が指名する副学長
- (2) 館長
- (3) 熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会（以下「人事等委員会」という。）委員 3人以上
- (4) その他学長が必要と認めた者 若干人

2 前項の規定にかかわらず、同項第2号の館長が記念館の専任の教員の場合は、館長は、委員となることできない。

3 第1項第1号、第3号及び第4号の委員は、学長が人事等委員会の議を経て委嘱する。

(委員長)

第3条 委員会に、委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第4条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の3分の2以上をもって決する。

(業績評価資料の作成)

第5条 再任を希望する記念館の教員は、任期満了の日の1年6月前までに、業績評価資料を作成するものとする。

2 業績評価資料の評価項目は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 企画・運営業務に係る業績
- (2) 研究活動及び研究業績
- (3) 教育活動
- (4) 学術及び社会活動
- (5) 外部資金(研究費)獲得状況
- (6) その他評価を行うための適切な業績

(評価項目についての発表)

第6条 再任を希望する教員は、委員会において、評価項目についての発表を行う。

(業績評価)

第7条 業績評価は、委員会が、業績評価資料、委員会における発表内容、質疑等により行うものとする。

- 2 委員長は、前条により評価項目についての発表を行った教員に、業績評価の結果を文書により通知する。
- 3 前項の通知を受けた教員は、業績評価について委員長に対し、異議の申し立てを行うことができる。
- 4 委員長は、申し立ての内容を委員会に諮るものとする。
- 5 委員長は、業績評価を人事等委員会に報告する。

(意見の聴取)

第8条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(再任の可否の決定)

第9条 再任の可否は、委員長からの報告に基づき、人事等委員会が決定する。

- 2 前項の決定は、再任審査を受ける教員の任期満了の日の1年前までに行うものとする。
- 3 再任審査を受ける記念館の教員は、人事等委員会における当該教員の再任についての審議に加わることはできない。
- 4 記念館長は、人事等委員会の決定を受け、再任の可否について、再任審査を受けた教員に文書により通知する。

(対象除外期間)

第10条 出産・育児等により勤務できなかった期間等については、再任審査に係る業績評価の対象期間としないものとする。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、人事等委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年12月1日から施行する。

## (5) 資料公開等に関する規程等

五高記念館所蔵資料は、旧制第五高等中学校及び同第五高等学校の学籍簿等きわめて個人情報にかかわる資料を含んでいるため、国立大学法人熊本大学法人文書管理規則第2条及び国立大学法人熊本大学情報公開規則第2条において「五高記念館において、歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別の管理がされているもの」は法人文書から除くと定められ、情報公開の制限を設けて法人文書の適正な管理を行っている。また、五高記念館に関する法人文書は、その保存期間を定めた国立大学法人熊本大学法人文書管理規則第7条第1項及び別表の規定にかかわらず、五高記念館が必要と認めた法人文書について適切な保存管理を行っている。

五高記念館所蔵資料の公開については、熊本大学五高記念館等規則第3条第1項第1号（前掲）において、「旧制第五高等学校の本館及び化学実験場の資料を収集、整理及び保管し、並びに展示・公開すること」と定められている。

・ 国立大学法人熊本大学法人文書管理規則第2条

（定義）

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 法人文書 本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した文書（図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下同じ。）であって、本学の役員又は職員が組織的に用いるものとして、本学が保有しているものをいう。ただし、次に掲げるものを除く。

イ 官報、白書、新聞、雑誌、書籍その他不特定多数の者に販売することを目的として発行されるもの

ロ 特定歴史公文書等

ハ 熊本大学附属図書館及び熊本大学五高記念館において、歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別の管理がされているもの（ロに掲げるものを除く。）

(2) 歴史公文書等 法第2条第6項に規定する歴史公文書等をいう。

(3) 特定歴史公文書等 法第2条第7項に規定する特定歴史公文書等という。

(4) 教育研究関係文書 専ら教育及び研究の用務に供するための法人文書で、教員又は教育研究組織が主体となって管理するものをいう。

(5) 医療関係文書 専ら医療の用務に供するための法人文書で、医療関係者又は医療組織が主体となって管理するものをいう。

(6) 法人文書ファイル等 本学における能率的な事務又は事業の処理及び法人文書の適切な保存に資するよう、相互に密接な関連を有する法人文書（保存期間を同じくすることが適当であるものに限る。）を一の集合物にまとめたもの（以下「法人文書ファイル」という。）及び単独で管理している法人文書をいう。

(7) 法人文書ファイル管理簿 本学における法人文書ファイル等の管理を適切に行うために、法人文書ファイル等の分類、名称、保存期間、保存期間の満了する日、保存期間が満了したときの措置、保存場所、作成又は取得した年度、作成又は取得した者、保存期間の起算日、媒体の種別及び法人文書ファイル等の管理者を記載した帳簿をいう。

(8) 部局 各学部、大学院各研究科、大学院生命科学研究部、大学院各教育部、各研究所、医学部附属病院、大学院先導機構、イノベーション推進機構、国際化推進機構、熊本大学学則（平成16年4月1日～制定）第9条第1項に規定する学内共同教育研究施設、附属図書館、保健センター及び教養教育機構をいう。

(9) 部局長 前号に定める部局の長をいう。

(10) 事務組織の各部等 経営企画本部、マーケティング推進部、教育研究推進部、学生支援部、医学部附属病院事務部及び運営基盤管理部をいう。

・ 国立大学法人熊本大学情報公開規則第2条

（定義）

第2条 この規則において「独立行政法人等」とは、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人及び法別表第1に掲げる法人をいう。

2 この規則において「法人文書」とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）であって、本学の役員又は職員が組織的に用いるものとして、本学が保有し



ているものをいう。ただし、次に掲げるものを除く。

- (1) 官報、白書、新聞、雑誌、書籍その他不特定多数の者に販売することを目的として発行されるもの
- (2) 国立大学法人熊本大学法人文書管理規則（平成23年3月30日制定）第2条第1号に規定する特定歴史公文書等
- (3) 熊本大学附属図書館及び熊本大学五高記念館において、歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料として特別の管理がされているもの

## (6) 利用規則等

五高記念館の利用に関すること（開館時間、休館日、入館料、入館の制限、入館者の順守事項、教室使用、弁償）は、熊本大学五高記念館等規則第15条（前掲）の規定に基づき、熊本大学五高記念館の管理運営に関する内規を定めている。

五高記念館資料の取扱に関すること（特別利用、館外貸出し、出版物等への掲載、寄贈の受入、移管等、寄託の受入等）は、熊本大学五高記念館等規則第15条（前掲）の規定に基づき、熊本大学五高記念館資料取扱要項を定めている。ただし、資料の寄贈については、国立大学法人熊本大学寄贈物品取扱規則に基づき受入を行っている。

### ○熊本大学五高記念館の管理運営に関する内規

（趣旨）

第1条 この内規は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年12月1日制定）第15条の規定に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定める。

（開館時間）

第2条 五高記念館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。ただし、午後3時30分以降の入館は、認めない。

2 前項の規定にかかわらず、熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）が必要と認めたときは、開館時間を延長又は短縮することができる。

（休館日）

第3条 五高記念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
- (3) 年末年始 12月28日から翌年1月4日まで
- (4) その他学長が指定した日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは、臨時に開館又は休館することができる。

（入館料）

第4条 五高記念館の入館料は無料とする。

（入館の制限）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 秩序若しくは風俗を乱し、又はそのおそれがあると認められた者
- (2) 他人に迷惑をかけ、又は危険物を所持している者
- (3) その他管理上支障があると認められる者

（入館者の順守事項）

第6条 入館者は、五高記念館職員の指示に従うほか、次の事項を守らなければならない。

- (1) 展示資料（館長が特に指定した展示品を除く。）に触れないこと。
- (2) 許可を受けずに展示資料の撮影をしないこと。

(3) 指定された場所以外での飲食、喫煙及び火気を使用しないこと。

(教室使用)

第7条 五高記念館教室を使用しようとする者は、五高記念館教室使用届を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

(弁償)

第8条 入館者は、資料を汚損若しくは亡失したとき又は五高記念館の施設、設備、備品等に損害を与えたときは、これを弁償しなければならない。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

## ○熊本大学五高記念館資料取扱要項

(趣旨)

第1条 この要項は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年12月1日制定）第15条の規定に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）における資料の取扱いに関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要項において、「特別利用」とは、資料を閲覧し、複写し、若しくは撮影し、又は五高記念館の写真原板を用いて印画を作成することをいう。

(特別利用及び館外貸出しに供する資料)

第3条 特別利用及び館外貸出しに供することができる資料は、五高記念館の収蔵する資料（以下「資料」という。）とし、原則として寄託を受けている資料の館外貸出しは除くものとする。

(特別利用の許可)

第4条 資料の特別利用は、次の各号に掲げる場合に許可するものとする。

(1) 国、地方公共団体その他教育、研究機関等が、教育、学術又は文化に係る事業の用に供することを目的として利用するとき。

(2) 熊本大学教職員及び学生が、教育又は学術研究の用に供することを目的として利用するとき。

(3) その他館長が特に必要があると認めたとき。

(特別利用の手続)

第5条 資料の特別利用を希望する者は、資料特別利用許可申請書を熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）に提出するものとする。

2 館長は、特別利用を許可するときは、資料特別利用許可書を申請者に交付するものとする。

3 特別利用させる資料が寄託を受けたものにあつては、当該資料の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

(館外貸出しの許可)

第6条 資料の館外貸出しは、次の各号に掲げる場合に限り許可するものとする。

(1) 当該資料が、学術上の調査研究又は教育普及のために使用され、かつ、取扱い上の安全性が確保されると認めたとき。

(2) その他館長が特に必要があると認めたとき。

(館外貸出しの手続)

第7条 資料の館外貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）は、資料貸出許可申請書を館長に提出するものとする。

2 館長は、貸出しを許可するときは、資料貸出許可書を借受者に交付するものとする。

3 借受者は、資料の借用に際して、資料借用書を提出するものとする。

(館外貸出しの条件)

第8条 館長は、資料の館外貸出しを許可する場合には、資料の管理等について必要な条件を付することができる。

(特別利用及び館外貸出しの制限)

第9条 館長は、次のいずれかに該当すると認められるときは、資料の特別利用及び館外貸出しを許可しないものとする。

- (1) 貴重な資料で、保存管理上支障が生じると認められるとき。
- (2) 著作権又は個人情報の保護上支障が生じると認められるとき。

(出版物等への掲載)

第10条 利用者は、特別利用によって複製された資料を出版物等に掲載しようとするときは、出版物等掲載許可申請書を館長に提出するものとする。

2 館長は、掲載を許可するときは、出版物等掲載許可書を利用者に交付するものとする。

(寄贈の受入)

第11条 資料の所有者から、五高記念館に資料の寄贈の申し出があったときの手続については、国立大学法人熊本大学寄贈物品取扱規則(平成16年4月1日~制定)の定めるところによるものとする。

2 館長は、資料を受領したときは、寄贈者に寄贈資料受領書を交付するものとする。

(移管等)

第12条 館長は、必要に応じて寄贈資料の移管又は廃棄をすることができる。

(寄託の受入)

第13条 五高記念館に資料を寄託しようとする者は、資料寄託申込書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 館長は、資料を受託したときは、寄託者に寄託資料預り書を発行するものとする。

3 資料の寄託期間については、寄託者と協議の上決定するものとする。

(寄託資料の保管等)

第14条 寄託資料の保管その他の取扱いについては、五高記念館の所蔵する資料に準じて行わなければならない。

2 寄託資料は、五高記念館がすべての責任をもって保管しなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、寄託資料が天災、その他不可抗力により紛失又は破損したときは、損害賠償の責めを負わない。

附 則

この要項は、平成20年10月1日から施行する。

○資料特別利用許可申請書（第5条関係別紙様式）

別紙様式（第5条関係）

資料特別利用許可申請書

熊本大学五高記念館長様

年 月 日

申請者  
住所 〒  
電話  
氏名 印

熊本大学五高記念館資料の特別利用をしますので下記のとおり申請します。

記

利 用 目 的	・研究のため（研究名）			
	・その他（ ）			
利 用 方 法	・閲覧			
	・複写（フィルム デジタルデータ）			
	・撮影（静止画 動画）			
	・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで（ 日間）			
利 用 資 料	資 料 名	点 数	登 録 番 号	備 考
そ の 他				

※注意事項  
 ・委託資料・借用資料については、所蔵者等の承諾書を添付してください。  
 ・資料写真等を刊行物に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要です。  
 ・資料の特別利用にあたっては、五高記念館職員の指示にしたがってください。  
 ・資料の保存管理上又は著作権法・個人情報保護法により、特別利用ができない資料もあります。

○資料特別利用許可書（第5条関係別紙様式）

別紙様式（第5条関係）

資料特別利用許可書

熊本大学五高第 号  
年 月 日

様

熊本大学五高記念館  
館長 印

年 月 日付で申請のあった熊本大学五高記念館資料の特別利用を下記のとおり許可します。

記

利 用 目 的	・研究のため（研究名）			
	・その他（ ）			
利 用 方 法	・閲覧			
	・複写（フィルム デジタルデータ）			
	・撮影（静止画 動画）			
	・その他（ ）			
利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで（ 日間）			
利 用 資 料	資 料 名	点 数	登 録 番 号	備 考
そ の 他				

※注意事項  
 ・資料写真等を刊行物に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要です。  
 ・資料の特別利用にあたっては、五高記念館職員の指示にしたがってください。  
 ・著作権法・個人情報保護法により問題が生じた場合、五高記念館と利用者が誠意をもって協議し、対応することとする。

○資料貸出許可申請書（第7条関係別紙様式）

別紙様式（第7条関係）

資料貸出許可申請書

熊本大学五高記念館長様

年 月 日

申請者  
住所 〒  
電話  
氏名 印

熊本大学五高記念館資料の貸出しを受けたいので、下記のとおり申請します。

記

利 用 目 的				
利 用 方 法				
利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで			
利 用 資 料	資 料 名	点 数	登 録 番 号	備 考
そ の 他 （輸送方法、資料取扱責任者等）				

※注意事項  
 ・資料写真等を刊行物に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要です。  
 ・資料の借受けにあたっては、五高記念館職員の指示にしたがってください。  
 ・資料の保存管理上又は著作権法・個人情報保護法により、貸出しできない場合もあります。

○資料貸出許可書（第7条関係別紙様式）

別紙様式（第7条関係）

資料貸出許可書

熊本大学五高第 号  
年 月 日

様

熊本大学五高記念館  
館長 印

年 月 日付で申請のあった熊本大学五高記念館資料の貸出しを下記のとおり許可します。

記

利 用 目 的				
利 用 方 法				
利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで			
利 用 資 料	資 料 名	点 数	登 録 番 号	備 考
そ の 他 （輸送方法、資料取扱責任者等）				

※注意事項  
 ・資料写真等を刊行物に掲載したり、テレビ番組や映画等で利用する場合は、別の申請書が必要です。  
 ・資料の借受けにあたっては、五高記念館職員の指示にしたがってください。  
 ・著作権法・個人情報保護法により問題が生じた場合、五高記念館と借受者が誠意をもって協議し、対応することとします。

○資料借用書（第7条関係別紙様式）

別紙様式（第7条関係）

資料借用書

熊大五高第 号  
年 月 日

様

国立大学法人熊本大学五高記念館  
館長

下記の資料を確かに借用いたしました。

記

1 資料

名 称	点 数	備 考

2 借用期間  
年 月 日から 年 月 日

3 その他

○出版物等掲載許可申請書（第10条関係別紙様式）

別紙様式（第10条関係）

出版物等掲載許可申請書

年 月 日

熊本大学五高記念館館長様

申請者  
住所 〒  
電話  
氏名 印

下記のとおり熊本大学五高記念館資料を出版物等に掲載したいので申請します。

記

資 料 名			
掲載の目的及び形式並びに使用部分			
出版物等の標題			
出版社（者）等	著（編）者		
刊行予定年月日	年 月 日	予 定 価 格	無償 有償 円

※著作権者がある資料については著作権者の承諾書を、寄託された資料については寄託者の承諾書を添付すること。

○出版物等掲載許可書（第10条関係別紙様式）

別紙様式（第10条関係）

出版物等掲載許可書

熊大五高第 号  
年 月 日

様

熊本大学五高記念館  
館長 印

下記のとおり熊本大学五高記念館資料の出版物等掲載を許可します。

記

資 料 名			
掲載の目的及び形式並びに使用部分			
出版物等の標題			
出版社（者）等	著（編）者		
刊行予定年月日	年 月 日	予 定 価 格	無償 有償 円

※許可条件  
1. 記載事項以外の目的に使用しないこと。使用目的以外の使用により著作権法及び個人情報保護法の問題が生じた場合は、申請者がすべての責任を負うこと。  
2. 出典等を明記すること。  
3. 掲載出版物等を当館に寄贈すること。

○寄贈資料受領書（第11条関係別紙様式）

別紙様式（第11条関係）

寄贈資料受領書

熊大五高第 号  
年 月 日

様

熊本大学五高記念館  
館長 印

熊本大学五高記念館に下記の資料をご寄贈いただきありがとうございました。大切に保存し、本学の教育・研究並びに広く市民の観覧・研究に活用させていただきます。

記

1. 資料

名 称	点 数	備 考

2. その他

○資料寄託申込書（第13条関係別紙様式）

別紙様式（第13条関係）

資料寄託申請書

熊本大学五高記念館館長様

年 月 日

寄託申請者  
住所 〒

電話  
氏名 印

下記の資料を熊本大学五高記念館に寄託したいので申請します。

記

1. 資料

名 称	点 数	備 考

2. 寄託期間  
年 月 日から 年 月 日まで

3. その他

○寄託資料預り書（第13条関係別紙様式）

別紙様式（第13条関係）

寄託資料預り書

熊本大学五高第 号  
年 月 日

様

熊本大学五高記念館  
館長 印

下記の資料を熊本大学五高記念館の寄託資料としてお預りしました。

記

1. 資料

名 称	点 数	備 考

2. 受託期間  
年 月 日から 年 月 日まで

3. その他

国立大学法人熊本大学寄贈物品取扱規程は省略する。

**（7）業務協力者に関すること**

○熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー要項

（趣旨）

第1条 この要項は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年10月26日制定）第7条第2項に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）に受け入れるミュージアム・フェローの取扱いに関し必要な事項を定める。

（受入申請）

第2条 五高記念館の専任教員又は兼務教員は、五高記念館が実施する業務において、大学院学生を主体的に参画させることにより、コミュニケーション能力及びマネジメント能力が育成され、キャリアアップが図れると判断した場合は、本学の大学院学生の中からミュージアム・フェロー候補者として選定し、参画内容に対する本人の同意を得た上で、五高記念館が別に定める申請書に大学院学生が所属する研究科長又は教育部長の承諾書及び本人の履歴書を添えて、熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）に申し出るものとする。

（受入資格）

第3条 ミュージアム・フェローとして受け入れることができる者は、本学の大学院学生のうち、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学芸員資格を有する者
- (2) 学芸員資格取得を目指す者

（受入承認）

第4条 館長は、五高記念館等運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、ミュージアム・フェローの受入れを決定し、本人へ委嘱するものとする。

（業務）

第5条 ミュージアム・フェローは、五高記念館が実施する業務に参画し、専任教員又は兼務教員の下で、研究及び事業の補助を行う。

（委嘱期間）

第6条 ミュージアム・フェローの委嘱期間は、運営委員会の議に基づき、館長が決定する。

（報酬等）

第7条 ミュージアム・フェローに対する委嘱期間中の報酬、謝礼は本学からは支給しない。

2 ミュージアム・フェローの業務に係る経費の支給については、運営委員会が別に定める。

（業務従事内容証明書の交付）

第8条 ミュージアム・フェローが、従事した業務についての証明を願い出たときは、館長は業務従事内容証明書を交付する。

（遵守事項）

第9条 ミュージアム・フェローは、この要項に定めるもののほか、五高記念館の職員の指示に従わなければならない。

（雑則）

第10条 この要項に定めるもののほか、ミュージアム・フェローに関し必要な事項は、館長が別に定める。

### 附 則

この要項は、平成20年10月1日から施行する。

### ○ミュージアム・フェロー参画承諾依頼書

（第2条関係別紙様式）

別紙様式（第2条関係）

**熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー参画承諾依頼書**

平成 年 月 日

(大学院生所属部局長) 殿

(五高記念館専任教員・兼務教員 職・氏名)

下記学生については、五高記念館で実施する業務に参画させることにより、学芸員として必要なコミュニケーション能力・マネジメント能力が育成され、キャリアアップが図れると判断しましたので、当学生からの内諾を得て下記のとおり五高記念館ミュージアム・フェローとして活動を行わせたいと存じます。

つきましては、熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー要項第2条に基づき、学生が所属する研究科長等のご承諾をいただきたいと思っておりますので、よろしくお取り計らいくださいようお願いいたします。

また、ご了承の上は、別紙により承諾書をいただきますようお願いいたします。

記

1	学生所属・氏名	所 属 _____ 氏 名 _____
2	委 嘱 内 容	五高記念館ミュージアム・フェロー
3	従 事 業 務	
4	委 嘱 期 間	委嘱日から平成 年 月 日まで 密着する学生については、終了日まで
5	期 待 さ れ る 効 果	
6	備 考	

(上記内容について内諾しました。)

学生所属・氏名 (自筆) \_\_\_\_\_

### ○ミュージアム・フェロー参画承諾書

（第2条関係別紙様式）

別紙様式（第2条関係）

**熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー参画承諾書**

平成 年 月 日

(五高記念館専任教員・兼務教員 職・氏名) 殿

(大学院生所属部局長)

平成 年 月 日に依頼があった下記の五高記念館ミュージアム・フェローについては、これを承諾します。

記

1	学生所属・氏名	所 属 _____ 氏 名 _____
2	委 嘱 内 容	五高記念館ミュージアム・フェロー
3	従 事 業 務	
4	委 嘱 期 間	委嘱日から平成 年 月 日まで 密着する学生については、終了日まで
5	期 待 さ れ る 効 果	
6	備 考	

## ○ミュージアム・フェロー申請書

(第2条関係別紙様式)

別紙様式(第2条関係)	
<b>熊本大学五高記念館ミュージアム・フェロー申請書</b>	
平成 年 月 日	
五高記念館長殿	
(五高記念館専任教員・兼務教員 職・氏名)	
下記学生について、五高記念館ミュージアム・フェローとして参画させたいので、受入をご承認願います。	
記	
1	学生所属・氏名 所 属 _____ 氏 名 _____
2	委 嘱 内 容 五高記念館ミュージアム・フェロー
3	従 事 業 務
4	委 嘱 期 間 委嘱日から平成 年 月 日まで 修了する学生については、修了日まで
5	期待される効果
6	備 考
<small>※注 この申請書に、大学院生が所属する研究科長等の参画承諾書及び大学院生の履歴書を添えて提出してください。</small>	

## ○熊本大学五高記念館市民研究員要項

(趣旨)

第1条 この要項は、熊本大学五高記念館等規則（平成18年10月26日制定）第7条第2項に基づき、熊本大学五高記念館（以下「五高記念館」という。）に受け入れる市民研究員の取扱いに関し必要な事項を定める。

(受入)

第2条 熊本大学五高記念館長（以下「館長」という。）は、五高記念館が実施する業務において、広く一般市民の参画を求め、協働して実施することが望ましいと判断した場合は、市民研究員として五高記念館に受け入れることができる。

(受入手続)

第3条 一般市民が五高記念館の実施する事業へ参画を希望する場合は、五高記念館が別に定める申込書に必要書類を添えて、館長に申し込まなければならない。

(受入承認)

第4条 館長は、五高記念館等運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、市民研究員の受入れを決定し、本人へ委嘱するものとする。

(業務)

第5条 市民研究員は、五高記念館が実施する業務に専任教員及び兼務教員と協働してボランティアとして参画する。

(受入期間)

第6条 市民研究員の受入期間は、運営委員会の議に基づき、館長が決定する。

(報酬等)



第7条 市民研究員に対する受入期間中の報酬、謝礼は本学からは支給しない。

2 市民研究員の業務に係る経費の支給については、運営委員会が別に定める。

(研究料)

第8条 市民研究員に係る研究料は、徴収しない。

(業務従事内容証明書の交付)

第9条 市民研究員が、従事した業務についての証明を願い出たときは、館長は業務従事内容証明書を交付する。

(弁償等の義務)

第10条 市民研究員は、受入期間中において故意又は重大な過失により本学の施設、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

(遵守事項)

第11条 市民研究員は、ボランティア保険等へ自己加入しなければならない。

2 市民研究員は、この要項に定めるもののほか、五高記念館の職員の指示に従わなければならない。

(雑則)

第12条 この要項に定めるもののほか、市民研究員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年10月1日から施行する。

### ○市民研究員申込書（第3条関係別紙様式）

別紙様式(第3条関係)		
熊本大学五高記念館市民研究員申込書		
五高記念館長 殿		
平成 年 月 日		
(申込者) 住所 _____		
ご職業 _____		
ご氏名 _____		
下記のとおり、熊本大学五高記念館の市民研究員として貴五高記念館が実施する事業へ 参加したいので申し込みます。		
記		
1	委 嘱 内 容	五高記念館市民研究員
2	参 画 業 務	
3	委 嘱 期 間	委嘱日から平成 年 月 日まで
4	博物館・生涯学習 等に関するこれ までの従事歴	
5	期待する効果	
6	備 考	
※注 この申込書に、履歴書を添えて申し込んでください。		
※受入担当教員記入 上記の者について、五高記念館市民研究員として参加することを希望し、受入後は連絡窓口等として担当することを承めます。		
平成 年 月 日		
所属・氏名 _____ 印		

## (8) 公印規程

五高記念館の公印は、国立大学法人熊本大学公印規則第2条及び同第4条並びに別表第1に基づき、組織

の印、職の印を定めている。また、同規則第8条及び別表第2の定めにより、研究・国際部社会連携課長を公印管守責任者、社会連携係長が指名する係長を公印管守補助者とし、適切な公印管理を行っている。

・ 国立大学法人熊本大学公印規則第2条・第4条・第10条

(定義)

第2条 この規則において「公印」とは、本学において本学の役員又は職員が職務上作成した文書に使用する印章で、その印影を押すことにより当該文書が真正なものであることを認証することを目的とするものをいい、次項の組織の印、第3項の職の印及び第4項の会計機関等の印を総称する。

2 この規則において「組織の印」とは、本学又はその内部組織の名称を刻印した公印をいう。

3 この規則において「職の印」とは、役員又は本学の内部組織に置かれた職員で、その職務権限が定められたものの役名又は職名を刻印した公印をいう。

4 この規則において「会計機関等の印」とは、別表第1会計機関等の印の項に規定する会計機関又は管理の機関（以下「会計機関等」という。）の名称及び当該会計機関等の所属する組織の名称又は当該会計機関等の職名（以下「会計機関等名」という。）を刻印した公印をいう。

(公印の種類及び寸法)

第4条 本学における公印の種類及び寸法は、別表第1に定めるとおりとする。

(公印管守責任者等)

第10条 本学における公印を管守させるために別表第2のとおり公印管守責任者、副公印管守責任者及び公印管守担当者（以下「公印管守責任者等」という。）を置き、公印管守責任者等が管守すべき公印の範囲は、同表に定めるところによる。

2 公印管守責任者は、公印が適切に使用されるよう公印を管理し、及び公印が使用されないときは、それを確実な保管設備に格納し厳重に保管しなければならない。

3 公印管守責任者は、管守すべき公印の範囲が広範囲な場合において職務の遂行上支障があるときは、公印管守責任者の職務の一部又は全部を副公印管守責任者に行わせることができる。

4 公印管守担当者は、公印管守責任者及び副公印管守責任者の職務を補助するものとする。

国立大学法人熊本大学公印規則に基づく別表は省略する。

## (9) 防災規程

五高記念館の防火については、国立大学法人熊本大学防火規則第2条及び別表（第2条第4項関係）の定めにより、運営基盤管理部の施設担当部長を防火管理者、マーケティング推進部地域連携ユニット長を副防火管理者としている。また、同規則第4条第3項の規定に基づき、国立大学法人熊本大学消防団を置いている。消防団は、国立大学法人熊本大学消防団規則第3条の定めにより、本学の職員及び学生をもって組織され、同条第2項の規定により分団を置いている。分団は、同条第3項及び別表1（第3条関係）によって編成され、五高記念館は人文社会科学系分団に所属している。

国立大学法人熊本大学防火規則及び国立大学法人熊本大学消防団規則は省略する。

## (10) 新聞・雑誌・書籍・放送等掲載一覧

### 新聞

#### 平成21年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成21年4月5日	イザベラ・バード 五高講演の謎と意味・中 新入生のため急遽実現	熊本日日新聞
2	平成21年4月6日	イザベラ・バード 五高講演の謎と意味・下 感動 格調高く記す	熊本日日新聞
3	平成21年4月30日	クマモトプレス 熊本大学 五高記念館 「剛毅木訥」明治の青春を体感…	熊本日日新聞
4	平成22年2月15日	熊本大で来月公開 幻の天覧植物標本発見 昭和天皇来熊前に全県挙げて採集	熊本日日新聞
5	平成22年2月20日	キャンパス通信 五高記念館で天覧標本展示	熊本日日新聞
6	平成22年3月2日	天覧標本など91点展示 五高記念館80年前の自然伝える	熊本日日新聞

#### 平成22年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成22年5月23日	わたしを語る・尺咫在自道 道は自ら咫尺（しせき）に在り（32）＝熊本保健科学大学学長の小野友道さん 五高記念館の開放に尽力	熊本日日新聞
2	平成22年6月8日	いきいき スマイルショット 旧制第五高等学校昭和18年会＝熊本大の五高記念館前	熊本日日新聞
3	平成22年7月5日	熊本大の滞在型講座 夏目漱石の足跡たどる	茨城新聞
4	平成22年7月6日	熊本大が産交ツーリズムと初企画 漱石を学ぼう 講義とツアー	熊本日日新聞
5	平成22年8月24日	漱石にどっぷり5日間 熊本大サマースクール開講 県内外ファン探訪の旅満喫	熊本日日新聞
6	平成22年8月24日	漱石学ぶ熊本大スクール開講 全国から7人参加	西日本新聞
7	平成22年8月24日	八雲の心に迫る鈴木さんの映像 五高記念館	熊本日日新聞
8	平成22年8月26日	熊本の魅力発信 滞在型講座 熊本大が開始 初回は漱石、現地講義も	朝日新聞
9	平成22年9月20日	熊本大の「人材」関連の動き 地域・社会貢献 五高で「漱石」を学ぶ	熊本人材新聞
10	平成22年10月3日	熊本大教員の力作並ぶ 五高記念館で美術展	熊本日日新聞
11	平成22年11月13日	赤れんが資料館にマンドリンの調べ 熊本大工学部でコンサート	熊本日日新聞
12	平成22年12月12日	余暇旅 新幹線の先に 八雲が愛した森の都 軍都・学都 明治の熊本	朝日新聞

#### 平成23年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成23年5月3日	教師漱石しのぶ 五高記念館 孫が訪問 家族の写真など見学	熊本日日新聞
2	平成23年5月11日	らいふプラス トラベルナビ 若き漱石に出会う 熊本市	日本経済新聞
3	平成23年11月4日	歴史学ぼう感じよう 明治の学生の気持ちで 熊本大連続講座が開講	熊本日日新聞

4	平成23年12月15日	私のお薦めスポット 明治の気概を現代に伝える 放送大学熊本学習センター所長 崎元達郎	熊本日日新聞
5	平成24年1月14日	麦島勝写真展 昭和の天草たどる 戦後高度成長期・・・100枚 建物、生活に時代の変化	熊本日日新聞
6	平成24年3月30日	十字街 福岡五高会が故池田勇人元首相ゆかりの太鼓を寄贈	熊本日日新聞

## 平成24年度

	掲載年月日	掲載記事	掲載誌
1	平成24年5月3日	「五高の学徒出陣」に光 熊本大が研究報告書	熊本日日新聞
2	平成24年5月24日	くまもと漱石倶楽部 武田邦彦さん（東京） 年齢重ねて漱石回帰	熊本日日新聞
3	平成24年9月16日	校外で初めて生け花発表会 熊本大付属特別支援学校	熊本日日新聞
4	平成24年9月17日	感性豊か 絵や書展示 熊本市障害ある子の作品130点	西日本新聞
5	平成24年9月27日	ギャラリー “大城組” の小さな巨匠たち展	毎日新聞
6	平成24年9月28日	出かけませんか 障害持つ子の書や絵 熊大で小さな巨匠たち展	読売新聞
7	平成24年10月20日	絵・書・詩 小さな巨匠たち 豊かな力を見て 28日まで熊大支援学級生らの「大城組」作品展	朝日新聞
8	平成24年11月3日	くまTOMO 夏目漱石編 俳句を楽しむ極意とは？ こぼれ話 なかなかの美声？	熊本日日新聞
9	平成24年11月12日	Look 熊本大学教職員美術展「アートするプロフェッサー」	熊本日日新聞
10	平成24年11月18日	天窓 戦争の記憶を次世代に	熊本日日新聞
11	平成25年3月27日	ミュージアム 学校建築・その2 熊本大学五高記念館	交通新聞

## 雑誌等

### 平成21年度～24年度

	発行年月日	掲載記事	掲載誌	発行所
1	平成21年5月11日	大学の文化財㉒ 国重要文化財 熊本大学五高記念館（第五高等学校本館）	文部科学 教育通信	ジアース 教育新社
2	平成21年5月25日	大学の文化財㉓ 国重要文化財 熊本大学赤門（第五高等学校表門）	文部科学 教育通信	ジアース 教育新社
3	平成21年6月8日	大学の文化財㉔ 国重要文化財 熊本大学化学実験場（第五高等学校化学実験場）	文部科学 教育通信	ジアース 教育新社
4	平成21年6月22日	大学の文化財㉕ 国重要文化財 熊本大学工学部研究資料館（熊本高等工業学校 機械実験工場）	文部科学 教育通信	ジアース 教育新社
5	平成21年7月13日	大学の文化財㉖ 国登録有形文化財 熊本大学事務局本部（熊本高等工業学校 本館）	文部科学 教育通信	ジアース 教育新社
6	平成21年7月20日	建築物語『三四郎』と旧制第五高等学校	WEDGE	株式会社ウエッジ
7	平成21年7月27日	大学の文化財㉗ 国登録有形文化財 熊本大学 医学部山崎記念館（熊本医科大学山崎記念図書館）	文部科学 教育通信	ジアース 教育新社
8	平成21年 夏	「熊本の偉人 木下順二」	Hand to Land 夏号	Hand to Land編集室

9	平成21年10月1日	五高記念館	JR九州パンフレット『駅長おすすめの「ホテル」』	JR九州旅行事業本部
10	平成21年 秋	特集「熊本の洋館」	Hand to Land 秋号	Hand to Land編集室
11	平成21年12月5日	坂の上の雲 完全ガイド日本のロケ地	NHKスペシャルドラマ・ガイド 坂の上の雲	日本放送出版協会
12	平成22年1月22日	連載 週刊 司馬遼太郎 子規と秋山兄弟の選択「坂の上の雲」の世界	週刊朝日	朝日新聞出版
13	平成22年2月26日	熊本大学五高記念館	るるぶナビ『九州ドライブ』'10~'11	JTBパブリッシング
14	平成22年4月1日	時空を越えた「歴史の遊び場」大集合 漱石が教えた学校 熊本大学五高記念館	プレジデントFamily plus	プレジデント社
15	平成22年4月5日	熊本の漱石	週刊 司馬遼太郎 6「坂の上の雲」の世界	朝日新聞出版
16	平成22年4月26日	建築は時代を語る 旧制第五高等学校	AGORA	JAL インターナショナル
17	平成22年5月27日	熊本城下と周辺 赤煉瓦の五高記念館	歴史回廊 くまもと魅力発見の旅	熊本日日新聞社
18	平成22年5月30日	シリーズ熊本偉人伝⑦夏目漱石 前編	季刊 旅ムック	エース出版
19	平成22年7月	文豪たちが愛したまち 熊本東	ふうらり県央	熊本県観光交流国際課
20	平成22年11月30日	シリーズ熊本偉人伝⑧夏目漱石 後編	季刊 旅ムック	エース出版
21	平成23年2月23日	熊本大学五高記念館	るるぶナビ『九州ドライブ』'11~'12	JTBパブリッシング
22	平成23年2月25日	九州近代化遺産 熊本大学五高記念館	JR九州「旅三昧」	JR九州
23	平成23年3月1日	みちくさ彩景 学び舎紀行 旧第五高等学校 (熊本大学五高記念館)	『まいんど』	財団法人 日本中小企業福祉事業財団 (日本フルハップ)
24	平成23年3月	のんびりトコトコ路地歩き 第四回【熊本市黒髪界隈】	& and	西部ガス
25	平成23年春	シリーズ近代日本を辿る旅4 魂の巡礼-熊本	FOUNTAINS	JALホテルズ
26	平成23年9月15日	特集 西日本 名作の舞台を旅する 文豪への才気を醸成した森の都 漱石の熊本の旅	Blue Signal	JR西日本
27	平成24年3月1日	熊本県 文豪たちが愛した「森の都」熊本	ソラシドエア機内誌「ソラタネ」	スカイネットアジア航空
28	平成24年4月1日	熊本大学五高記念館	熊本コンベンションガイドマップ・熊本市ガイドマップ・熊本市修学旅行のさるき方・観光ガイドブック	熊本国際観光コンベンション協会
29	平成24年7月1日	熊本大学紹介ページ	オープンキャンパスに行こう！	株式会社ベネッセコーポレーション
30	平成25年1月20日・2月20日・3月20日	熊本大学化学実験場-外観・階段教室・ドラフトチャンバー (表紙写真)	『化学と教育』第61巻1号~3号	日本化学会

## 書籍等

### 平成21年度～24年度

	発行年月日	掲載記事	書籍名	発行所／著者
1	平成21年10月23日	「文化財建造物みてあるき 旧第五高等中学校」／五高記念館外観	日本の伝統建築の構法（柔軟性と寿命）	市ヶ谷出版社
2	平成22年2月25日	「熊本 立田山周辺から大津街道へ」／五高記念館外観	熊本県の歴史散歩	山川出版社
3	平成22年3月3日	「青春時代 船乗りになりたがったが」／五高記念館外観	土木技師 田淵寿郎の生涯	あるむ／重網伯明
4	平成22年3月25日	肥後村々雨乞い行列絵巻	「八代妙見祭」調査報告書	八代市教育委員会
5	平成22年3月31日	自明治廿一年至同廿九年 高等学校長会議決議・自明治二十年至同二十四年 協議会 永久	「1880年代教育政策の動向と第五高等中学校の実態に関する研究」研究成果報告書	広島大学文書館／小宮山道夫
6	平成22年7月16日	旧第五高等中学校本館・旧第五高等中学校表門・旧第五高等中学校化学実験場	日本近代建築大全〈西日本編〉	講談社
7	平成22年10月2日	第五高等中学校正門（創立当時）・五高記念館外観・五高記念館復原教室・嘉納治五郎肖像	「小泉八雲展」図録	神奈川近代文学館
8	平成23年2月25日	「コラム 五足の靴と二本木遊郭」／生徒賞罰	Visual Dermatology	学研メディカル秀潤社
9	平成23年6月30日	天覧木炭と天覧石材の展示風景	「昭和六年の天覧標本」展示図録	熊本県文化企画課
10	平成23年10月20日	五高記念館外観	「熊本大学60年史写真集」	熊本大学
11	平成24年1月20日	明治三十一年協議会書類・佐賀福岡尋常中学校参観報告書	修猷館の英語教育明治篇	海鳥社／安部規子
12	平成24年3月16日	第五高等中学校本館（創立当時）	会津藩儒将 秋月韋軒伝	勉誠出版／徳田 武
13	平成24年5月1日	五高記念館外観	遺したい日本の風景Ⅶ 学び舎	光村推古書院
14	平成24年7月2日	五高記念館外観	郷土読本“夢の実現を”ふるさとくまもとの人々	熊本市教育委員会
15	平成24年8月	「【国指定重要文化財】熊本大学五高記念館」／五高記念館外観	教育文化遺産をたずねる	山川出版社
16	平成24年11月1日	遠山参良関係資料	九州学院百年史	九州学院高等学校

## 放送等

### 平成21年度～24年度

	放送年月日	内容	番組名	放送局名
1	平成22年1月1日	五高記念館外観	「たけしの新世界七不思議4」	テレビ東京
2	平成22年1月4日	五高記念館外観・夏目漱石試験問題・開校十周年記念祝辞	「なるほどザ 熊本」	テレビ熊本

3	平成22年4月9日	五高記念館外観・復原教室	『四国スペシャル』 「漱石の五七五～夏目漱石と正岡子規俳句が結ぶ絆～」	NHK松山放送局
4	平成22年7月7日	五高記念館外観・ラフカディオ・ハーン試験問題	「路面電車の走る街」	BS-TBS
5	平成22年8月11日	五高記念館外観・廊下・階段・復原教室・嘉納治五郎肖像画・表門	「八雲（ハーン）紀行」	NHK松江放送局
6	平成22年10月1日	五高記念館および周辺	市政広報テレビ番組 「クローズアップくまもと」	JCNくまもと
7	平成23年4月13・14・17日	宣誓簿・明治39年度卒業写真・絵葉書・熊本大学五高記念館図録	「平凡道を非凡に歩む～青年の父田澤義鋪～」	鹿島ケーブルテレビ
8	平成23年7月21日	五高記念館外観・復原教室	「こうち情報いちばん内～土佐偉人伝～」	NHK高知放送局
9	平成24年2月12日	五高記念館外観・復原教室	「文豪の湯」	BS-TBS
10	平成24年4月以降不定期	五高記念館外観	「日本シネマ紀行 季節を訪ねて 春九州」	日本映画衛生放送
11	平成25年1月13日	五高記念館外観・復原教室	「日本人は何を考えたのか 第10回」	NHK放送総局
12	平成25年1月19日	夏目漱石関連資料	「若っ人ランド」	テレビ熊本

## その他

### 平成21年度～24年度

	制作年月日	内容	タイトル	制作社名
1	平成22年10月1日	五高記念館外観・復原教室	「五高記念館は語る」	熊本市
2	平成23年4月	五高記念館外観	「新しい社会」6年生ビデオ教材	東京書籍
3	平成23年6月	五高記念館外観	観光・史跡情報	Yahoo! JAPAN・JR東日本・JR西日本・地球の歩き方旅スケ
4	平成24年8月15日	「無料スポット&節約おでかけ2012」熊本大学五高記念館	「るるぶ.com」	JTBパブリッシング

※施設名称については建物用途別表にある名称に統一

(市原富代)

## V 学芸員養成課程に関する事

平成21年（2009）4月の博物館法施行規則改正を機に文部科学省が作成した『博物館実習ガイドライン』においては、博物館実習における学内実務実習は学内の附属博物館等を活用することが望ましいとされている。また、これまで館園実習については登録博物館又は博物館相当施設（大学においてこれに準ずるものとして認める施設を含む）において実習を行うことが望ましいとされていたが、本ガイドラインでは登録博物館又は博物館相当施設（大学附属博物館を含む）において実習を行うことが望ましいと変更された。すなわち、学芸員養成課程開講大学においては、実習施設としての役割を担う附属博物館の設置が強く求められていることになろう。

本学ではガイドライン以前から五高記念館において学内実務実習を行い、必要な設備・備品の整備につとめるとともに、過年度には博物館相当施設の指定を受けるなど、大学附属博物館としての充実に注力しているところである。国指定重要文化財建造物である五高記念館での実習は、受講生に文化財保護の理念と文化財を大切にすることを涵養するまたとない機会であろう。

学内実務実習は、調査研究活動・展覧会活動・教育普及活動・資料の取扱いと梱包技術の習得など、可能な限り博物館での学芸活動に即した形で実施している。調査研究活動では五高記念館の収蔵資料を活用した資料撮影・資料調書や資料カードの作成、展覧会活動では熊本県松橋収蔵庫と連携した「ちょっと昔のくらし探検」展の開催、資料の取扱いと梱包技術の習得は綿マクラ作り・美術工芸資料及び考古資料の取扱いと梱包などを行っている。また、平成24年度入学生から適用の新カリキュラムにおいては、五高記念館及び工学部研究資料館を見学実習施設の一つとして位置づけている。

（岩崎竹彦）



## VI 研究

### 旧第五高等学校の建築図面に関する研究

準会員 ○麻 生 貴 裕\*<sup>1</sup> 正会員 伊 藤 重 剛\*<sup>2</sup>

9. 建築歴史・意匠 - 2. 日本近代建築史  
明治 煉瓦造 学校 図面 旧制五高

#### 1 はじめに

旧第五高等学校の本館（現熊本大学五高記念館）、化学実験場、表門は、明治22年に竣工した建物で、昭和44年に国の重要文化財の指定を受けた。当初の図面も建物と共に附指定を受け、熊本大学付属図書館に所蔵され、また附指定されていないが、同時期に作図されたと考えられる図面は、五高記念館に所蔵されている。これらの図面は和紙にインクで描かれ着彩された素晴らしい図面であるが、詳細な調査はされていない。（図1）これまで明治初期の建築図面については研究論文も殆どなく、これらの図面の資料的価値は高いと思われる。本研究では、その概要を報告し分析を行ない、明治初期の建築図面がどのように作成されたか、どのように使用されたかなどについて考察を加えるものである。

#### 2 図面の概要

##### 1) 枚数

図面は本館分27枚、化学実験場分10枚、表門分8枚、食堂分2枚の計48枚で、うち附指定が40枚で、指定されていないのが8枚である。図面内には、図面の名称と縮尺が示されており、一部の図面には日付や添え書きなどが書かれ、押印や付箋のあるものがある。その全てを表1に示した。

##### 2) 用紙

用紙は、約270×390mmの通常より大型の薄い半紙を数ミリの糊代をとって何枚か貼り合わせ、図の大きさに合わせて作成されている。この薄い用紙が、四辺に約10mmづつ余裕を残して、広い厚手の和紙によって裏貼りされて、現在の状態になっている。表1に示した用紙の大きさは、この裏貼りの和紙の大きさである。

図面をよく観察すれば、薄い用紙には折皺や折つ

た時の隅の部分の汚れや破損、裏に書かれた文字などが観察される。例えば本館平面図（図面番号1）は大きさが665×938mmであり、用紙は上を縦位置に下を横位置に半紙を貼り合わせて作られ、左端を切り落して必要な大きさに整えられている。（図2）

また折皺の痕跡からは、この図面が8枚に折られていたことがわかる。図中の実線が薄い半紙の大きさ、破線が折皺の位置を表す。このことから、図面は薄い用紙に描かれ、そのままある時期まで折り畳まれた状態で保管されていたことが分かる。その後ある時点で、厚手の和紙に裏貼りされ補強されたと思われる。しかし、いつ厚手の和紙に貼られたかは不明である。また薄い半紙が使用されたのは、現在のトレーシングペーパーのように重ねて複写するためだったと思われる。

この厚い和紙の四隅には、画鋏で開けられたと考えられる小さな穴が開いており、いつの時点かで掲示ないし展示されたことが分かる。

##### 3) 図面の大きさ

用紙は図の大きさに合わせて作られており、図の大きさに応じて大小様々である。表2は図面の縦横の大きさをグラフにしたもので、これから分かるとおり、17枚の図面が約950×680mmである。菊判全紙の大きさが939×636mmであるので、周囲の余裕を考慮に入れると、おそらく菊判の規格に合わせたものと推測される。ちなみに、最大のものは、表門の鑄鉄の原寸図（図面番号43）で1860×661mmである。また最小のものは本館正面入口の図で414×296mm（図面番号13）及び本館床下換気口の図で295×415mm（図面番号25）であり、これらは薄い半紙1枚約270×390mmに、厚手の和紙の周囲に余裕10mmを取って、290×410mmとしている。

##### 4) 線と彩色

図面は、インキングされた同じ太さの黒い線によって作図されている。どのようなペンを使ったかは不明であるが、おそらく烏口を用いたと思われる。

図面 番号	登録 番号	図面名称	図の種類	縮尺	大きさ (mm)	備考
1	A-2	第五高等学校本校教場之地絵図	平面	1/100	665×938	大場の割印(二つ)有り、重要文化財指定
2	A-3	第五高等学校校建築地業之図	平面	1/100	292×979	大場の印有り、重要文化財指定
3	D-1	第五高等学校校教場之図	平面	1/100	578×1010	
4	A-1	第五高等学校校前面	立面	1/100	290×1033	重要文化財指定
5	A-4	第五高等学校校正面中央図	立面	1/20	996×650	大場の印有り、重要文化財指定
6	D-2	第五高等学校校後面	立面	1/100	290×1037	
7	A-6	第五高等学校校切断図	断面	1/20	948×692	重要文化財指定
8	A-5	第五高等学校校前面中央切断図	断面、矩計	1/20	978×412	重要文化財指定
9	A-12	第五高等学校校正面梯子図	断面、詳細	1/20	606×946	重要文化財指定
10	D-3	第五高等学校校正面梯子段図	断面、詳細	1/20	644×965	大場の印(二つ)有り
11	A-13	第五高等学校校左右廊下梯子段図	断面、詳細	1/20	672×919	重要文化財指定
12	A-9	第五高等学校校後面入口ノ図	詳細	1/20	461×948	重要文化財指定
13	A-19	第五高等学校校本校後面入口 及左右側面入口共梯子溜リノ件ニ付伺図	断面、詳細	1/20	414×296	大場、山口半六の印、大場の割印有り 重要文化財指定
14	A-11	第五高等学校校本校後面庇	詳細	1/20	689×958	久留、山崎の印有り、重要文化財指定
15	A-7	第五高等学校校前面中央玄関	詳細	1/10	639×946	重要文化財指定
16	A-10	第五高等学校校室内唐戸図 窓図	詳細	1/10	646×897	重要文化財指定
17	A-8	第五高等学校校教場入口改正之図	詳細	1/10	636×561	重要文化財指定
18	A-14	第五高等学校校梯子段親柱及手摺木図1	詳細	1/2	943×630	重要文化財指定
19	A-15	第五高等学校校梯子段親柱及手摺木図2	詳細	1/2	979×651	重要文化財指定
20	A-16	第五高等学校校梯子段親柱昇取付図	詳細	1/2	954×713	重要文化財指定
21	A-17	第五高等学校校梯子段昇取付図	詳細	1/2	954×659	重要文化財指定
22	A-18	第五高等学校校梯子段跳場図	詳細	1/2	963×683	重要文化財指定
23	A-22	第五高等学校校煉瓦扣柱図	断面、詳細	1/20	634×291	重要文化財指定
24	A-20	第五高等学校校側石割左翼図	詳細	1/10	280×763	大場の印有り、重要文化財指定
25	A-21	第五高等学校 床乃下風窓及間仕切煉化積方之図	詳細	1/10	295×415	大場の印有り、重要文化財指定
26	A-23	側面廻り風窓鋳鉄物正寸図	詳細	原寸	404×564	大場(訂正、他1)の印有り 重要文化財指定
27	A-24	第五高等学校 本校蛇腹模様換及樋釣鐵物図	詳細	原寸 1/10	410×964	重要文化財指定
28	B-1	第五高等学校校化学実験場	平面、立面、断面	1/100	614×853	重要文化財指定
29	B-10	第五高等学校校化学実験場	平面	1/100	402×670	山口半六の印有り、重要文化財指定
30	D-4	熊本第五高等学校校理化学百分一之図	平面	1/100	544×1044	大場の印(二つ)有り
31	B-2	第五高等学校校化学実験場根切之図	平面	1/100	302×718	重要文化財指定
32	B-3	第五高等学校校化学講堂之図	平面、詳細	1/20	647×965	重要文化財指定
33	B-4	第五高等学校 化学実験場講堂規矩図全分析室等規矩図	断面、詳細	1/20	611×1230	重要文化財指定
34	B-5	第五高等学校 化学実験場及物理学教場下水之図	詳細	1/10	461×475	重要文化財指定
35	B-6	第五高等学校 化学実験場ドラフトチャンパー	詳細	1/10	667×944	山口半六の印有り、重要文化財指定
36	B-7	第五高等学校校化学実験場分析機	詳細	1/10	403×572	山口半六の印有り、重要文化財指定
37	B-8	第五高等学校校化学実験場大流シ図	詳細	1/10	401×564	山口半六の印有り、重要文化財指定
38	B-9	第五高等学校 化学普通試験室石造実験台	詳細	1/20 1/10	475×661	山口半六の印有り、重要文化財指定
39	D-7	第壹号在熊本第五高等学校表門平面図	平面	1/20	709×1061	福田、東條の印有り
40	C-2	改正第貳号在熊本第五高等学校表門之図	立面	1/20	736×1063	福田の印有り、重要文化財指定
41	C-1	第五高等学校表門図	立面	1/10	665×927	福田、東條の印有り、重要文化財指定
42	C-3	第壹号第五高等学校表門切面	立面、詳細	1/10	715×1051	東條、福田の印有り、重要文化財指定
43	C-4	在熊本第四号第五高等学校門鑄鉄現寸	詳細	原寸	1860×661	福田、〇〇の印有り(図面番号45と同じ印) 重要文化財指定
44	C-5	在熊本第五号第五高等学校門門現寸図	詳細	原寸	944×666	福田、稲〇の印有り、重要文化財指定
45	C-6	在熊本第六号 第五高等学校門上落シ鉄物現寸	詳細	原寸	944×667	福田、〇〇の印有り(図面番号43と同じ印) 重要文化財指定
46	D-8	第三号在熊本第五高等学校表門現寸図	詳細	原寸	937×1055	福田、東條の印有り
47	D-6	第五高等学校校食堂百分ノ一図	平面、立面	1/100	405×692	山口半六、稲〇、久留の印有り 久留の印は他とは異なる印
48	D-5	第五高等学校校食堂図面	断面	1/20	675×940	山口半六、中嶋、久留の印有り

(〇は、判別不可能な字)

表1 図面一覧

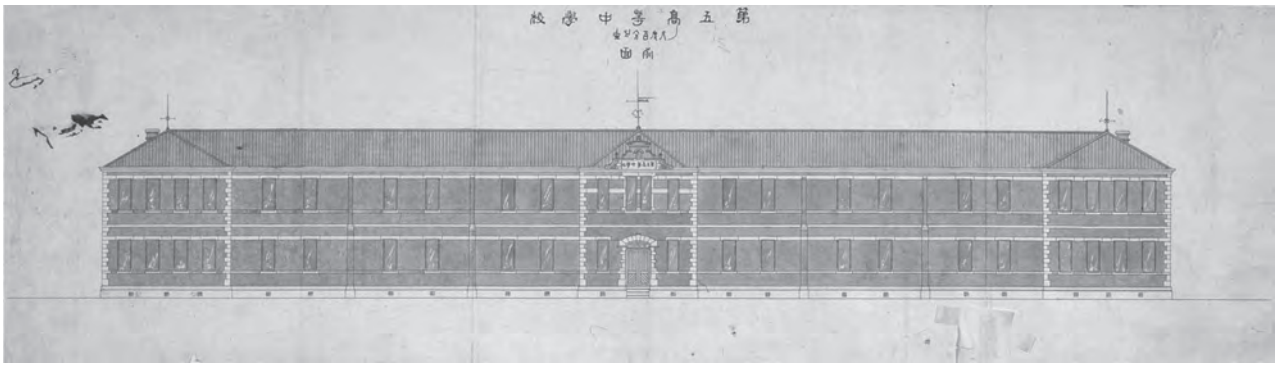


図1 第五高等中学校正面（図面番号4）

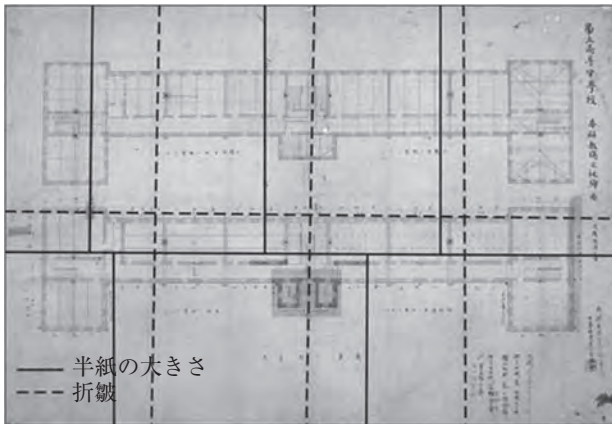


図2 半紙の大きさと折皺（図面番号1）

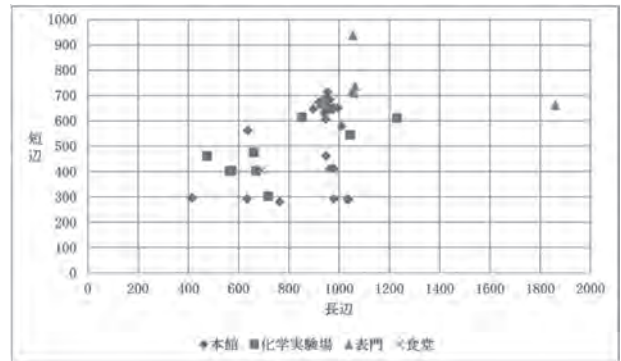


表2 用紙の大きさ（単位mm）

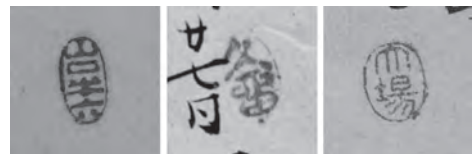


図4 印鑑(左から山口半六、久留、大場)

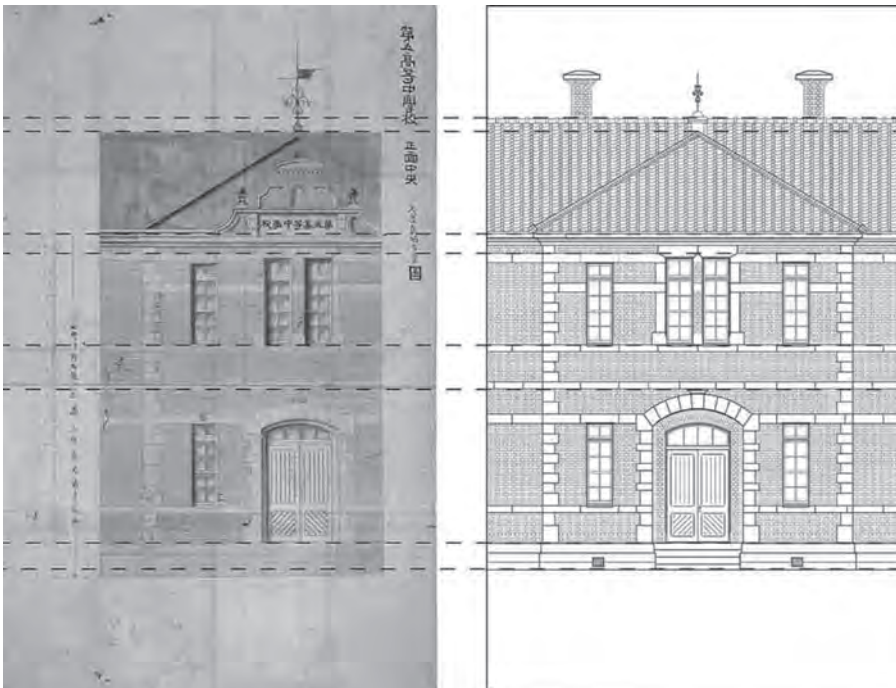


図3 中央部の当初図面と実測図面（伊藤研究室による）の比較

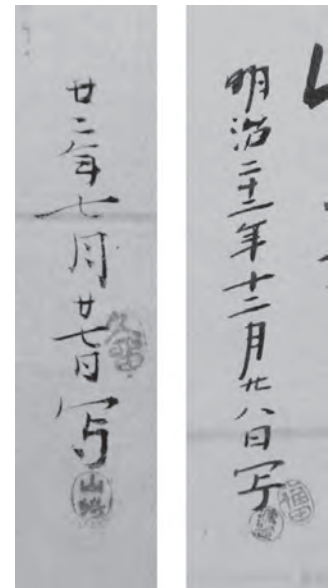


図5 日付と印(左：図面番号14、右：図面番号45)

ひとつの図面の中で太さは変えられておらず、現代の図面のように、断面線を太く見え掛りの線を細くするといったことは、見られない。その代わり、見え掛り部分つまり表面と断面に異なる配色をすることで表現している。そのため同じ材質には、同系統の色が配色されながらも、表面には淡い色、断面には濃い色が配色することによって、表面と断面を区別している。

合計で10色が使用され、幾つか例外はあるが、煉瓦の表面には赤茶色、断面には赤色、木材の表面には黄色、断面には茶色、石材の表面には灰色、断面には藍色、地面の表面には緑色、断面には焦茶が配色され、その他の部材にも同様に表面と断面で色が使い分けられている。

#### 5) 印鑑

図面には9人の人物の印鑑(図4)が確認される。現在の現場監督に当たると考えられる督役の大場景貞の「大場」印は、最も多く14個確認される。特に重要な数値、設計変更がなされた図面、大場氏自身の作図と考えられる図面などに捺されている。

「山口半六」の印は、8個確認され、主に化学実験場のドラフトチャンパーなどの附属設備の図面に多く見られる。特殊な設備であるため、特に山口の確認を必要としたものと思われる。

「久留」の印は3個確認され、全て「○年○月○日写」と書かれた複写図面に押されているので、複写が間違いのないか確認するために捺されたものと思われる。残りの「福田」「東條」「山崎」「中嶋」他2名の印も、複写図面に捺されている。

#### 6) 日付

図面には、日付が記入された図面がある。まず前項で述べた「○年○月○日写」と書かれた複写の日付を著したものである。これは12枚あり、明治21年9月8日を最初として、23年1月9日が最後である。表門の複写図8枚は22年12月から23年1月にかけてのものである。複写の目的は図面の汚損や破損のためと思われるが、明確な理由は不明である。

別の日付は、図面番号2の本館の「四月二日栗石浅深ヲ調」、図面番号32の化学実験場の「金物三枚釘リヲ四枚トス 四日十三日主任何ニ決ス」であり、これらは工事途中のメモ書きであり、工事記録から判断してそれぞれ明治21年4月2日、明治22年4月13日と思われる。

### 3 考察

#### 1) 図面作成時期

図面作成時期は、複写図面以外は明確には分からない。しかし、「五高五十年史」によると、明治21年2月に起工したとあるので、図面は遅くとも明治20年末までには作成されたものと思われる。設計は文部省の山口半六と久留正道が担当したが、棟札には、山口は「工事監督」、久留は「設計」と書かれ、久留の落成報告には「…小官山口半六氏と該建築の設計を為し…」とある。両者の役割分担は明確ではないが、いずれにしる二人が共同して設計に当たり、直接図面を作成したのは大場など部下たちだったと思われる。

#### 2) 現状との比較

保存された図面と実際の建物を比較すると、若干の変更箇所はあるものの、ほぼ設計図面のとおりに出来上がっている。設計変更された箇所は、本館正面中央の立面図の比較で分かるのとおり、(図3)正面玄関の屋根の上に設置される予定だった校名板が削除された点、屋根の高さ、軒蛇腹の形状、正面アーチの形状の変更などが顕著な点である。

### 4 まとめ

本研究により、第五高等学校の建築図面について、以下のことが明らかになった。

- 1) 用紙は薄い半紙を貼り合わせて、トレーシングペーパーのように使われたと推測できる。
- 2) 用紙の大きさは図面の大きさに合わせた手製で、菊判939×636mmを基準に作られたと考えられる。
- 3) 図面は同じ太さの黒い線で描かれ、断面と表面を同系色の色で、濃さを変えて表現された。

本図面は、既成品の製図用紙が販売されておらず、複写機のない明治初期に、建築図面がどのように作成されたか、明らかにする貴重品な資料と考えられる。

#### 参考文献

- 1) 第五高等学校開校五十年記念会編、「五高五十年史」、1939年3月、p 115
- 2) 「旧制高等学校全書 第五巻 設置・運営編」、旧制高等学校資料保存会、1982年11月
- 3) 藤森照信、「日本の近代建築」(上)(下)、岩波新書、1993年

\* 1 熊本大学工学部建築学科 4年  
\* 2 熊本大学大学院自然科学研究科教授 工博

# 大正・昭和の『龍南会雑誌』『龍南』と雑誌部委員—懸賞と検閲—

特定事業研究員 薄 田 千 穂

## 1 はじめに

『龍南会雑誌』は第五高等中学校・第五高等学校(以下、五高と称する)の校友会「龍南会」発行の雑誌である。1891(明治24)年11月26日に創刊し、1919(大正8)年の172号から名称を『龍南』と改めた。1948(昭和23)年3月25日発行の「復刊253号」を以て終刊している。『龍南会雑誌』『龍南』には、教員や生徒・卒業生が寄稿・投稿した論文・小説・俳句・和歌・漢文などの作品が発表された。また、龍南会運営委員会の議題、部長・委員の交代、予算・決算、各部の活動など龍南会の活動の様子、学校行事など生徒たちの活動を具体的に記した記事も多く掲載されている。編集する雑誌部委員は概ね選挙によって選出され、雑報や編輯後記をはじめとして多くの記事を執筆した。

熊本大学五高記念館館報第1号<sup>1)</sup>に掲載した研究報告「『龍南会雑誌』と雑誌部委員—明治期の動向を中心として—」では、編集・執筆にあっていた雑誌部委員を取り上げ、草創期の龍南会における雑誌部委員の位置の変化と明治期の雑誌部委員が抱える問題と動向について述べた。本稿では雑誌部委員が執筆した「編輯後記」をもとに、大正・昭和期の『龍南会雑誌』『龍南』と雑誌部委員の動向について、検閲の問題と絡めながら述べていく。なお、文末に雑誌部委員一覧を付した。

## 2 原稿の不足と懸賞

前稿では、龍南会の中で雑誌部委員がその位置づけを小さくしていった過程と、先輩から『龍南会雑誌』を引き継いだという責任感や気概を持ちながらも、他の生徒たちの無関心に直面し、自ら原稿を執筆せざるを得ない状況の中にあった雑誌部委員たちの苦悩について述べた。それはとりもなおさず『龍南会雑誌』が五高内での位置を小さくしていったことを示している。その象徴的な出来事として、1912(明治45)年3月の予算会議をめぐる騒動と、次年度の雑誌部予算が100円削られ5回の発行が3回となることで決着がついた経緯を記述した。

翌年、予算を減らされながらも次年度の雑誌部委員は例年通り5回発行した。但し1冊100頁前後であったページ数はこの年は平均78ページとなっている。『龍南会雑誌』(以下号数のみ表記する)148号(大正元年12月20日)には「物質的には多少縮少したけれど、材料、実質、内容に至りては寧ろ非常なる改善を施されたことは、手前味噌ではあるが、大に吾々の誇とする所なることを断言する」と、雑誌部委員が気概を述べている。騒動の余波なのかこの年投稿は増加しており、予算が不十分のため寄稿を割愛せねばならないといううれしい悲鳴も聞こえる。しかしその後は慢性的な原稿不足が続き、1914(大正3)年に懸賞を新設することとなった。但し『龍南会雑誌』誌上には懸賞の募集に関する記事は特に見当たらず、後の記事から推察するところ掲示板などで投稿が呼びかけられていたようである。第1回の懸賞作品を掲載した155号(大正3年11月25日)には次のように述べている。

いつも編輯の際、吾々を悩ます物は原稿の不足である。それが為に部長とも談合の上、今回初めて、論文と創作との懸賞募集をやった。而かも夏休と云ふ、長い期間を置いて之を募集したが、残念乍ら充分なる効果を取める事が出来なかった。それでも創作の方は数編のかなり長い小説や、一寸した戯曲を得る事が出来たし又翻訳物をも集める事が出来た。然し論文の方は皆無である。今後募集する場合には、諸君は進んで論文を寄せられん事を今より希望して置く。

この時、応募者は8名で、応募作品は小説・戯曲・訳文であった。審査を小松倍一教頭・深澤由次郎教授・長江藤次郎教授・村上龍英教授・江部淳夫教授が行い、作品名と点数・批評が掲載された。全文が掲載さ

れたのは、1等「蝸牛」6等「龍南会雑誌に対する吾人の希望」である。懸賞と言いながら、最初は賞品については考えていなかった風であり、156号（大正3年12月25日）に賞品の賞牌を制定したという記事が掲載された。177号（大正10年3月10日）に次のような具体的な図案が説明されている。

中央の立像はShakspeareの立像であって、これはMark Twainの“Ls Shakspeare dead?”の口絵写真版に依ったのであるが、原版が随分綿密なので、小さなメタルの中に挿れるのは如何かと考へたが結局入れることにした。周囲の文字はArs Longa Vita Brevis（芸術は長く人生は短し）であることは御覧の通りである。懸賞文は規定に依り、第三位までを当選者と定め、それ等の諸君には各々銀牌を、その他の応募者諸君には全部に銅牌を差上げる。

第2回の募集について156号（大正3年12月25日）に次のような論題が設けられた。

- 一、龍南誌第百五十五号を評す
- 一、空中領有権設定の可否
- 一、何々（小説を除く）を読む
- 一、東西思想の融合を論ず
- 一、国際道徳論
- 一、世界戦乱の吾人に与ふる教訓

しかし、「第二回の懸賞文募集に関しては大方の御賛同を得て委員も大満足であったが、さて実際の応募数も見ると僅々五篇」の応募があったのみであった（157号 大正4年3月30日）。論題が設けられたのはこの時だけであったが、158号（大正4年6月20日）には「論説、紀行文、小説として掲示した」とあり、さらに187号（大正12年11月20日）では「甲種 論文、乙種 創作、丙種 詩・歌・句」と区分して募集された。原稿募集は主に掲示板に掲示されたが、雑誌部委員が個人的に直接投稿を呼びかけていたようである。

このように、『龍南会雑誌』は慢性的な原稿不足に悩み、懸賞を設けて寄稿を求めた。原稿の応募は時期によって多寡はあったが原稿不足解消の決め手とはならず、「編輯後記」からは次のように雑誌部員の苦悩する様子がうかがえる。

175号（大正9年6月10日）

なんと言っても原稿の足りないこと位、委員をなやますことはない。僅ばかり集った原稿の殆どすべてを採用することにしてもまだ足りず、やむなく委員の方で埋合せをつけて出すと、若し委員の名がずらりと目次欄に並びでもしようものなら、屹度「委員横暴」といったやうな非難の声がどこからとなく洩れてくる。

186号（大正12年7月）

前委員もこぼしていたことだが、原稿の集らないのは大頭痛だ。試験前の或日、私は五十枚足らずの投稿を何度繰ってみたかわからない。けれども殖えるわけでもなし、それかと云って、薄っぺらなのが配付されるのを考えると堪らない。私は馬鹿息をいとほしがる母親の気持で、其の投稿を繰って見ることを止めなかった。さもあらばあれ、責めは自分にあるを思はずにはられません。

245号（昭和14年12月20日）

「懸賞号」にこれだけの原稿ではどうも淋しい。それに今度も又委員の作を入れねばならなかった。この原稿不足の原因については、生徒たちの無関心もあったが、以下のように同人誌<sup>(2)</sup>やクラス雑誌の隆盛のような積極的理由や、五高生としてレベルの高い原稿を求められていたこともあったと思われる。

170号（大正8年5月20日）

今更喋々する迄もないということであるが、将来第二の時代を指導し改造し行く可き大任を負うている青年として、我等は是非共此の属する部の如何を問はず思想問題を等閑にしないと同時に一方健全な趣味を涵養し高尚な文芸を享樂するようになりたい。現代の低級趣味の流行も畢竟するにより高きより良き美を解しない結果だ。此の意味から言っても諸君がよしや貧しく共本誌を益々愛し育んで行かれんことを希望して止まぬ。

198号（大正15年7月10日）

本号はゆくとして可ならざるなき現龍南文壇の精華なりと揚言すべく、私は生憎の蛮勇を持ちえませぬ。華々しき龍南文壇の現状を俯瞰する時、まだまだ潜勢力の偉大なものを認め。如何に龍南人中心の同人雑誌が4つもあり、その方面で忙殺されておるとは云え、各同人諸兄始め諸君の龍南愛が涸れかかってはしないかと杞憂する。諸君大いに御投稿ありその美を競はれては如何に。時に各雑誌同人諸氏に再考を請ふてやまぬ。編輯者に対しての不満でも介在しておるならば容赦なく述べてもらへば結構喜んで拜聴する。

240号（昭和13年3月4日）

四五年前には五高ルネッサンスが力強く叫ばれ、高校のレベルを抜いた多くの作品の登場によって、運動も漸くその緒につきかけたものですが、強力な後継者がなかった為か、急激な衰退を見せてしまひました。然し、少数の有力者によって、文化的関心は喚起されることはあっても、文化の発展は全体の上にごそ築かるべきでありませう。皮相的には文化の衰退を予期させるやうな時代にあつて、現在五高に少からぬクラス雑誌の発刊が見られる事は、文化的関心がこの学園を覆ふことの一つの証左とは見られないでせうか。

また、編輯後記からは、予算の不足や印刷費の暴騰、印刷所の作業との折り合いもつけながら他の生徒たちが勉強に専念している試験期間中に編集作業を進めていた様子などもうかがえる。

159号（大正4年12月15日）

何時でも雑誌部の仕事は人が試験準備に取り掛らうと云ふ頃に始まるので際どい早業をしなければならぬ。それ丈け諸君も心して読んで頂き度い。

170号（大正8年5月20日）

紙価も依然下らず印刷費に至っては上ることはあつても下る見込のない今日、与へられた僅かな経費でやって行かうとするのだからなかなか容易なわざでない。然し夫れかと云つて頁数を減じたくもないので勢紙質を下げることとなつたが、内容を豊富にする為には止むを得ぬ犠牲であらう。

## 雑誌部部長一覧

年度	号数	氏名	教科	五高在任期間	備考
明治24～25年度	1～16	大瀬甚太郎	歴史哲学	明治24.1.12～ 明治26.9.13	
明治26～29年度	17～55	内田周平	漢文歴史	明治25.9.8～ 明治30.8.21	
明治30～31年度	56～71	黒本植	国語漢文	明治26.11.15～ 明治32.12.28	
明治32～34年度（途中）	72～86	児島献吉郎	漢文	明治31.8.13～ 明治42.1.15	
明治34（途中）～39年度	87～119	高木敏雄	ドイツ語	明治33.8.14～ 明治40.1.23	五高明治23年9月補充科2級入学、明治29年第1部文科卒 明治27年～28年雑誌部委員
明治40～大正7年度	120～169	本田弘	国語	明治33.8.14～ 大正8.10.25	五高明治23年9月入学、明治30年第1部文科卒 明治27年～29年雑誌部委員
大正8年度	170～174	高木市之介	国語・作文	大正4.9.1～ 大正9.5.10	本田弘病気につき交代 三高卒
大正9～11年度	175～184	澤瀉久孝	国語・作文	大正8.8.31～ 大正11.8.10	三高卒

大正12～昭和15年度	185～247	八波則吉	国語・作文	大正9.5.11～ 昭和15.8.26	五高明治28年入学、明治31年第1部文科卒
昭和16～18年度	248～253	池田長三郎	哲学	昭和14.10.28～ 昭和23.1.1	

『龍南会雑誌』『龍南』1号～復刊253号、『第五高等学校一覧』各年、在籍記録により作成

ここで、五高の教員と『龍南会雑誌』とのかかわりについて述べておく。龍南会では、各部の部長には教員が就任することになっていた。雑誌部長一覧に記載している通り、五高出身の雑誌部長は高木敏雄、本田弘、八波則吉の3人であり、この3人が雑誌部部長を務めた時期は合わせると実に36年に及ぶ。また、高木敏雄、本田弘は龍南会が発会し、『龍南会雑誌』が発刊された時期に五高に在籍しており、雑誌部委員を務めていた。八波則吉は雑誌部委員の経験は無く2人とは入学年が違うが、1～2年在籍期間が重なっている。初期の五高は生徒数も少なく、1888（明治21）年入学1895（明治28）年卒業の村川堅固によると「生徒数が少なかったと云ふ事も原因であります、文科理科工科等と分れて居りまして、後で医科も出来ましたが、大抵顔を知らない者はないんであります。又道で会って話をしない者はなかった様であります。（中略）上級の方も下級生に対する所の威力と云ふものが、却々盛んであった。（中略）人の顔は、自分より上の級の人の名前と云ふものは、みんな知って居りまして、敬意を表しておりました。<sup>(3)</sup>」という状況であった。学年は違うが、同じ文科でもあり、3人が五高時代に面識があった可能性は大きい。いずれも草創期の龍南会、『龍南会雑誌』を知る人物である。このため、『龍南会雑誌』『龍南』への思い入れや伝統を受け継ぐという意識は大きなものであったに違いない。実際本田弘教授については、次のように率先して熱心に編集、校正にあたっていたようである。懸賞をはじめたのは本田弘教授が雑誌部長を務めていた時期である。

157号（大正4年3月30日）

本田部長の御熱誠は幾度小生等を奮起せしめたことであつたらう。部員が多忙の時などは校正万端御一人で為て下さったこともある。要するに五人の委員は兄弟として先生をその父と思つて事務にあたつた。

また、懸賞の審査のため部長を含め毎年概ね6人の教員が応募原稿に目を通してることが、毎回の謝辞として記されている。時期によっては、上記の本田教授のように審査のみならず雑誌部委員とともに編集や校正にあたっており、原稿を掲載するかどうかについて実質的な決定権を持っていたのは部長であったと推測される。なお後述するが、戦後の「復刊253号」を主導したと推測されるのは1912（大正元）年1部英文入学、1915（大正4）年卒業の高森良人教授であった。

次にこの龍南会雑誌の編集体制がはらんでいた問題を検閲の側面から検討する。

### 3 『龍南会雑誌』『龍南』に見る「検閲」

日本近代における検閲の目的の一つに社会主義運動の取り締りがあった。1898（明治31）年安部磯雄らにより社会主義研究会が設立され、社会主義思想が広がりを見せつつあった。熊本においても社会主義雑誌『熊本評論』が1907（明治40）年6月20日に発刊された。『熊本評論』は1908（明治41）年9月20日の31号まで刊行したが廃刊を余儀なくされ、後継の『平民新聞』は発刊日に印刷所から運び出されることを押収された。<sup>(4)</sup> 1912（明治45）年の大逆事件では4名の熊本関係者が起訴され2名が死刑になった。<sup>(5)</sup> この期の『龍南会雑誌』にも以下のような記事の中で、学校側からの検閲がありそれを「痛嘆すべき」「やかましい事情」と生徒たちがとらえていた様子がわかる。

81号（明治33年9月30日）

（前略）本誌の運命は一に諸君が双肩に懸りつつありといへども、言論の束縛あるひは本誌不振の消息を伝ふるものなしとせず。吾人をして直言せしめよ。本誌は校風改善の好方便たるべき性質を失して、殆ど御用新聞的態度を執りつつあり。否、しかすべく余義なくせられつつあるなり。阿諛の言は呈すべし。侃諤の危言は吐く可からず。婉曲の辞或は可なり。鯁直の語固より禁すべし。此の如き



は当局者が本誌に対する政略にして、言論の自由殆どと压制束縛せられ本誌は僅かに一縷の余命を喘々の間に保ちつつあるのみ。(中略) 吾人は本誌の出づる毎に、常に舎監乃至学校よりの干渉を受け甚しきは其の主義方針にさへ窘束を加へんとするものあるを見る。これ豈痛嘆すべきの至りならずや。(後略)

138号(明治43年12月20日)

近頃文芸の取締が一般に厳になったが吾が龍南会雑誌も多少そこに制限ができたので校閲其他やかましい事情がふりかかって来た。勢ひ少々時日が延んだ上に延ぶ事になる。

1917(大正6)年ロシア十月革命がおこり、そのニュースは世界をかけ廻った。日本においても1918(大正7)年12月に吉野作造らが社会主義の研究会である黎明会を組織し、東大法科学生による新人会が結成された。この動きは五高にも影響を及ぼし、1922(大正11)年5月社会思想研究会が結成された。また、1923(大正12)年5月7日には国家主義を標榜する東光会が発会式を挙げている。このころの様子を演説部員が次のように述べている。

185号(大正12年3月1日)

(前略) 演説部不振の第二の原因は学校当局の保守的態度である。(中略) 一度内部を覗いて見ると想像以上の困難な且不快な事情が伏在していて手枷足枷の束縛は、遂に吾等委員をして身動きもさせず、何等新しい一事業だに着手せしめずして、旧態依然たるこの部の衰微に切齒扼腕しつつ其の職を去らざるを得ざらしめていたのである。(中略) 当局従来の保守的態度は、固く固く演説部の外に伸ぶことを禁止し、抑圧していたのである。少く共これまでの委員にはさう思はれたのである。それは学校当局のためには極めて安全なる、賢い方策であるかも知れぬ。然し真に吾龍南を愛する者がどうしてこれが忍べやうか。

『龍南会雑誌』は、1919(大正8)年10月23日刊行の172号から『龍南』と改称し、前述のように1914(大正3)年に始めた懸賞により原稿の充実を図っていた。懸賞の審査は6人の教員によって行われ、掲載原稿選考の権限は実質的に部長である教員が持つことになった。これは生徒の意識がないままに教員が原稿検閲を行っていたということになる。このころになると、『龍南』誌上では、以下のように原稿が掲載できないことに対する苦悩が語られる。原稿に対して削除や改作が指示されていることがわかるが、これに対する疑問や批判は見当たらない。

177号(大正10年3月10日)

此度集った原稿の中にて可成優秀な作であり乍ら見す見す没にしなければならなかった私共の苦衷も察して頂きます。此事は特に投稿者に申上ることですが、貴方の論文は決して劣っているからではない。他雑誌へ持って行けば確に立派な物に相違ありません。けれどもその理由には改めて申上ります。

178号(大正10年7月10日)

載せる事が出来なかつたうちに、「社会主義者としてのハイネ」は真に内容のある好論文と思つたけれど検閲の関係で思ひとまった。私は「仕方がない」といふあきらめをいだいて、小説「墮胎」と共に捨てなければならなかつた。一寸記して筆者にお断りしておく。

188号(大正12年12月24日)

一年の間に一番苦しかったのは、原稿の集らなかつた時と、折角集った原稿も、学校の方からの注意で掲載出来なかつた時の気まづさである。あれらの原稿を寄せて下さった方々に私共は改めて御断り申して置き度い。

194号(大正14年6月24日)

作者の了解によるとは云へ削除の部分があつたのは遺憾である。松本君の結論が失くなってをかしくなったのも夫であるし、大山君のもひどい。諸兄にお詫びしておきます。

一方、「私は「龍南」をして一方に偏せさせたくない。私はあくまで公平に立つ。」(194号(大正14年6月24日))とあり、社会主義関係だけではなく、東光会関係の原稿も掲載していない。

1924（大正13）年11月、全国の社会思想研究会解散に先がけて五高社会思想研究会が解散させられた。共産党員の全国的大検挙である1928（昭和3）年3月15日（3・15事件）の際、五高では6人が退学処分を受け、翌1929（昭和4）年4月16日の大検挙（4・16事件）では4人が論旨退学となっている。その後も、五高では1930（昭和5）年5月28日付で論旨退学2人、謹慎4人、訓戒3人の処分者を出し、1931（昭和6）年10月に3人が謹慎処分を受けた。これは昭和3年に発刊した全日本無産者芸術連盟（ナップ=共産党系）の機関誌『戦旗』の購読や配布に関する処分であった。五高内でも社会主義思想の取り締まりが行われていたことがわかる。<sup>6)</sup>

この期の『龍南』上には、部長や学校の意見で原稿が掲載出来なかったことについての記事が多くみられる。196号（大正14年12月15日）では、下記の通り「終任にあたって」が全文不掲載になった。しかし、検閲に対する批判的意見は「遺憾」とどまり、204号では「禁止」ではなく「遠慮」と主張している。また、「思想善導」「イデオロギー」などの言葉が多くみられるようになっていた。

196号（大正14年12月15日）

（終任に当って）

野口義博（休学）

渡邊武

学校当局の命によりて、掲載不可能となれるを遺憾とす。

204号（昭和2年12月20日）

過去に二三回禁ぜられた。勿論禁止と言はれたのではないが、遠慮を命ぜられた。今又「ファシズムに就て」の小論は歴史的記述が缺けて全文不穏当であると言って禁止否遠慮させられた。今提出している「印度民族運動」の小論も何等かの理由で禁ぜられるであらう。

歴史的記述が缺けて居るとは我々に大した利益のない現象の羅列、即ち「西洋史」の復誦がしてない事を意味する様に考へられる。だがファシズムを論ずるにあたり斯る記述が常に必要か否か疑ふのであります。併し「不穏当」が主なる理由であるなら何も言はない。ただ私がファシスト又はファシズムの礼賛者でなかったからである。

207号（昭和3年11月10日）

「こゝろ」は地平線を貫き上った作だった。残念ながら選者諸教授の御注意により、（作者の了解をえて）発表することが出来なかった。

211号（昭和4年12月10日）

三十余編全体として見る時、思想善導されている龍南人の風貌を窺ふことが出来た。僅かの動きを詩に於て感じさせられるが、それとても所ではあるまいか。

218号（昭和6年6月25日）

島田君の評論「劇団に就いて」は本号に於ける異色ある収穫物であると思ふ。総ての物がプロレタリア、イデオロギーの下に働きかけて居る今日に於て、検閲も無事に通過する様無難に書いて下さった氏の苦心は誠に感謝しなければならぬ。

219号（昭和6年11月20日）

「鉦山くるゝ」は改作を命じた為に、教授批評の所謂「イデオロギーの不鮮明」に墮した事は遺憾であった。此処に一寸弁解して置く。

1932（昭和7）年3月同盟休校事件が起こった。龍南会総務が学校無検閲の「雑報」を発行し全生徒に配付したことを理由に退学届の提出を命じられた。これに抗議して1、2年生が習学寮に立て籠もり、その期間は10日に及んだ。熊本県特高課が出勤して沈静化したが、停学・訓戒などの処分は555名にも及んだ。この事件からは、未検閲の印刷物に対する学校側の過剰な反応が見て取れる。『龍南』についての検閲が恒常化し生徒が出版するものに対する警戒感が薄れていたところへ晴天の霹靂であったのかもしれない。なお、『龍南』誌上にはこの事件についての記述はない。以後も原稿の不掲載についての記述が続く。

224号（昭和8年3月2日）

論文三編中内容の性質上掲載不可能となった二編については諸兄と共に残念に思ふ。

225号（昭和8年7月2日）

論文は龍南に載せられる様なものを書いて欲しい。即ちもっと合法的なものである。

231号（昭和10年6月15日）

我々委員は「龍南」に対する非難を屢々耳にする。即ち或者は「龍南」を以て内容に乏しいイデオロギーの欠如したものとして軽蔑し、或者は軟弱なる作品を包含する一顧の価値なきものとして頭から黙殺せんとする。（中略）実はもう一篇あったのだが止むを得ぬ事情で載せる事が出来なくなり、この代りを百方骨折ったけれども私たちがその代償として得たのは私たちに対する非難と嘲笑と軽蔑だった。

235号（昭和11年11月10日）

中山善雄君の創作「ある時期」は、入選したにもかかわらず、部長の意見によって掲載不可能となった事は、作者に対して、まことに気の毒な事であった。

以上のように、明治期の『龍南会雑誌』にみられた雑誌の検閲についての批判的な意見は影をひそめ、大正・昭和期の『龍南』誌上には検閲による原稿不掲載に対しての目立った批判はなかった。これには懸賞の審査により原稿の掲載の権限が自然と教授である部長にゆだねられていたこと、その部長を多くの期間五高出身の教員が務めていたことが大きな原因であると考えられる。五高出身の教員は半ば卒業生として伝統を受け継ぐという姿勢で雑誌部にかかわっていたのではないだろうか。そのため、先輩から『龍南』を引き継いだという責任感や気概を持ちながらも他の生徒たちの無関心に直面した雑誌部委員たちは、生徒たちより教授たちに信頼を寄せたに違いない。しかし、教員の立場では学校として時の政策に対応しなければならない側面を持ち合わせていた。それは時として生徒たちを監視すると同時に保護するという意味もあった。そのため原稿を審査する場面で、質だけではなく思想傾向であるい落とさなければならないことが多くなっていったに違いない。それに対して生徒たちは「禁止ではなく遠慮である」と主張したり、掲載できる原稿を応募してほしいというような呼びかけすら行った。しかし、231号に「内容に乏しく、イデオロギーが欠如したもの」という『龍南』に関する批判を自ら掲載しているように、『龍南』の抱える問題に気が付いていたのかもしれない。

次項では、戦時体制下と戦後の『龍南』について記述する。戦時下にあり、副題とした検閲についてはさらに厳しくなっているのが自明の時代であるが、実際に『龍南』に携わった雑誌部委員から得られた情報とともにここに記録しておく。

#### 4 戦時体制下と戦後の『龍南』

1940（昭和15）年8月国内新体制要項の発表により、全国高等学専門学校校長会議は、学校・学友会・寮を一元化した修練組織の確立を決議した。これにより学校報国団体制確立方が通達され、各学校の校友会は報告団に編成替された。龍南会も11月12日龍南学徒報国団となった。このため『龍南』は248号（昭和16年2月25日）を新体制号とし、皇紀二千六百年記念作文や興亜学生勤労報国隊参加記などを掲載した。251号（昭和17年7月15日）の編輯後記には雑誌部長が方針を次のように述べている。なお、部長が編輯後記を執筆するのは初めてである。

編輯後記

雑誌部長 池田長三郎

（前略）

その秋、新体制が布かれて、雑誌部は龍南学徒報国団文化部の中に編入された。いかめしい肩書がついて、しりごみするやうな龍南人ではないことを「新体制号」が裏づけした。新しく生まれ変わった雑誌部の立場と根本方針とを指示するの必要に迫られて、吾々は協議の上左の要綱を決定した。

一、「龍南」は全校龍南人に開かれたる総合雑誌であること。

一、「龍南」は龍南学徒の生ける魂の発露にして、龍南精神の表現たること

一、「龍南」は五高文化の水準を示し、健全なる文化の建設的努力の結晶たること

右、三綱領を掲示し、その上に要旨を徹底するため檄を飛ばして生徒に訴へた。その他、原稿募集の仕方や原稿の採否の方法に関する規約を協議して夫々依頼した。一般の応募原稿は各組長を通じて雑誌部の幹事に提出することになっている。幹事は文理科各一名であるが、原稿の清書、校正など到底二名ではやりきれないので、臨時数名の雑誌部付を依頼している。

(後略)

また、1942(昭和17)年、在学期間が短縮され3年生が9月に卒業した。これによる影響を252号(昭和17年12月20日)では「今回は随分応募者も少なくなった為紙数も大分薄くなった。之も三年生が居ると居ぬとでは程違ふかと今更驚く。」と述べている。

1943(昭和18)年には、龍南学徒報国団の編成替えによりついに雑誌部がなくなることになった。同年7月発刊の253号では雑誌部の解消と次号から総務部の編輯となることについて次のように述べられている。

『龍南』第253号を諸君に送るに当り、先づ、次号からは雑誌部によってではなく、総務部によってこの『龍南』の編輯がなされることを言っておかなければならない。

『龍南』が存し、諸君の『龍南』に対する愛着が失はれない限りその編輯が雑誌部から総務部の手に移らうと、それは小さなひとつの推移に過ぎない。しかし、かう書かねばならぬ吾々雑誌部の者の心にわだかまっているものは、矢張り、一抹の未練である。

今度習学寮の雑誌が廃せられ、『龍南』に合併されることとなったが、かうした寮誌の運命を眼の前にしても、吾々は寮誌を中心に習学寮の生活を生きて来た諸君に対して、矢張り、同情を禁じ得ないものである。

しかし、全寮制の実現とともに、総ての寮生によって『龍南』をもり立ててゆくこととなって、この問題もやがて解決されるだらう。

(中略)

最後に―

かくて、雑誌部は発展的解消を遂げた。(後略)

この雑誌部の解消について、当時雑誌部員を務めていた百合本順太郎は「当時は第二次世界大戦の最中で、あらゆる物資は不足し、統制経済に移っていました。生活必需品は配給制になり、米・衣料等は勿論、紙等配給以外は入手が困難になっていました。学校としても雑誌の継続は無理だと判断されたのだと思います。」と述べている。

総務部石丸公による254号が出されたのは1年後の1944(昭和19)年6月15日である。五高では「学徒出陣」で生徒たちを送り出したこともあり、学徒出陣特集号となった。冒頭に壮行歌が掲載され、総務部による学徒出陣の記が続いている。詩歌や創作にも学徒出陣に対する思いがつつられている。

その後、学徒出陣、勤労働員で生徒の姿が学校から消えてゆき、1945(昭和20)年には授業が停止になった。『龍南』は資材不足、人材不足により、戦前に刊行されることはなかった。

『龍南』が、復刊したのは戦後の1948(昭和23)年である。戦後物資が不足し、五高在校生も食糧が入手できずに食糧休暇があった時期である。冒頭高森良人教授の「龍南に寄せて」によると、1947(昭和22)年に五高開校60周年の記念事業が行われており、卒業生の援助により『龍南』の復刊が実現している。この復刊号は号数から言えば255号となるはずであるが、なぜか「復刊253号」と印刷されている。刊行の経緯について詳しいことはわからない。但し、前述のとおり冒頭の「龍南に寄せて」を高森教授が執筆していることや卒業生の回想から、刊行の中心になったのは高森教授であると思われる。高森教授は先述のとおり五高1912(大正元)年1部英文入学、1915(大正4)年卒業であり、1957(昭和32)年に『五高七十年史』を執筆・編纂した

また、雑誌部委員として名を連ねている高見正明、小宮孝善、深堀光広は、この「復刊253号」の存在を知らないという。高見正明によれば、掲載した高見の原稿は当時の文芸部誌に寄稿したものであり、中心と

なって編集した隅川哲司しか当時のいきさつはわからないということであった。隅川はすでに鬼籍の人である。なお、この4名は同じクラスであった。最後の編輯後記は次のとおりである。文の調子や内容は戦前の編輯後記と似かよったものがある。

何時ものこと乍ら原稿の応募が低調であった。表現すべき内容と能力はあるがただ表現しないのか。それとも表現すべき内容も能力もないのか。殊に社会思想に関する論文が全然見られなかったことは其自身が社会意識欠如の表徴ではないにしても一而龍南の傾向を見せていると思ふ。珍しいものとしては「鉄道実習に関する記録」が一篇見られたが単に作文的な内容であるので割愛した。

文芸方面では短歌の応募皆無、詩も多くはなく穂本君のみが多数提出してくれた。けれど龍南会中比較的活発である文芸部の存在は新しい意欲を期待してよからう。小さな完成を試みるよりは可能性を問題としたい。(中略) 作品の銓衡に当っては松本教授、田崎教授の御指導を仰ぎ、殊に田崎教授よりは日本では全く未知の新しい翻訳、サモセット・モームの作品を投稿していただく筈であったが手続の関係上、やむなく取り止めることとした。両教授に深く感謝します。(後略)

## 5 おわりに

雑誌部委員は『龍南会雑誌』『龍南』へ掲載する原稿が思うように集まらないという苦悩を常に抱えていた。これは、同人雑誌やクラスでの回覧雑誌があったこと、雑誌部委員の多くが文科であったため、内容が文学的なものに偏っていったことやそれによる生徒たちの無関心、第五高等学校の校友会誌として高度な内容のものが要求されていたことが原因としてあげられる。雑誌部委員は、投稿を呼びかける掲示を出したままの時もあり、知人に呼びかけてなんとか原稿を集めたという時もあり、原稿が足りなかったので自分自身で書いたということもあり、時々で対応していたが、総じて他の生徒たちは無関心だったようである。

このため苦肉の策として考えられたのが1914(大正3)年度に始まった懸賞であった。懸賞によっても原稿不足の解消はできず、編輯後記には原稿の集り具合と全校への呼びかけが、かならずとっていいほど書かれている。この懸賞応募作品の審査をしたのは五高の教員たちであった。毎回雑誌部長を始めおおよそ6人の教員が、点数をつけ批評をした。これは能力と立場の問題から必然のことではあるが、生徒たちの原稿に教員が必ず目を通すという体制をつくりあげていたことになる。そのうえ、選考という名の掲載の可否を決める権限は教授である部長にあった。稚拙な原稿を掲載しないということは当然のことであるが、自分で投稿を呼びかけたにもかかわらず当選した優れた原稿が掲載できないことに苦悩を覚える雑誌部委員も少なからずいたようである。しかし、なぜ掲載しないのかという批判的な意見は雑誌上には見当たらず、かえって「禁止ではなく遠慮である」「論文は龍南に載せられるようなものを書いて欲しい。即ちもっと合法的なものである。」という自己規制的な姿勢が垣間見える。また、部長をはじめとする教員たちが大きく影響を及ぼしていた。雑誌部委員たちとともに、生徒たちの気風の変化や思想統制の中で、『龍南』を守り五高の伝統を受け継ぐという使命感を何とか果たそうとしていた様子が「編輯後記」から伝わってくる。

最後に「五高における自治・自由」について述べてみたい。高等学校に入学する年齢は中学校4年修了時で16才、5年卒業時で17才である。管理・監視が厳しい中学校を卒業し、高等学校に入学して自治・自由の精神に触れた生徒たちであるが、まだ大人としての自由を得るまでの過渡期にあった。軍国主義が勢を増す中、高等学校という空間では配属将校として赴任した軍人が「どんな教官でも生徒の方に同化されてしまっていたようです」<sup>(7)</sup>といわれるほど、生徒たちの自由が尊重された。しかし、それは学校の保護の中という括弧つきの自由であった。それも戦時体制により刻々奪われていくなか、教員と生徒が最低限の自由・自治を守ろうとしていたことが『龍南会雑誌』『龍南』からもうかがえるように思えるのである。

この報告の執筆に使用した記事の検索や雑誌部部長・委員の一覧作成は2007年度日本学術振興会科学研究費補助金奨励研究「第五高等学校『龍南会雑誌』目次のデータベース化及び書誌学的研究」(19902013)により作成した『龍南会雑誌』『龍南』目録によった。

本稿には、2009年に行った「戦中・戦後の第五高等学校に関する調査」<sup>(8)</sup>による百合本順太郎氏<sup>(9)</sup>、高見正

明氏<sup>00</sup>への聞き取りの情報を掲載した。ここに記して感謝の意を表します。

注

- (1) 薄田千穂「『龍南会雑誌』と雑誌部委員—明治期の動向を中心として—」『熊本大学五高記念館報』第1号 2009年12月25日 95-101P
- (2) 『龍南』上で確認できるのは、同人誌短歌雑誌「白路」、詩歌雑誌「山上」、「翼」などである。
- (3) 村川堅固「在学時代の思出」『会報 開校五十年記念号』第13号 五高同窓会 昭和12年12月25日 39P  
 明治20年の開校時、高等中学校の課程は「本科」2年だったが、高等中学校への入学要件である尋常中学校の施設や教育程度は全国的に不備、不均等で尋常中学校卒業生の学力は不十分だった。そのため、高等中学校が本科入学のための3年の予科を設け、さらにその下に2年の補充科を置いた。  
 1888（明治21）年に本科が（一部（法科・文科）、二部（理科・工科）、三部（医科）に分けられ、1893（明治26）年には二部に農科が加わった。1920（大正9）年度までの年暦は9月～7月、以後は4月～3月である。
- (4) 猪飼隆明「『熊本評論』と熊本における初期社会主義運動」『新熊本市史 通史編 第6巻 近代Ⅱ』2001年3月30日 799-816P
- (5) 猪飼隆明「大逆事件と熊本グループ」『新熊本市史 通史編 第6巻 近代Ⅱ』2001年3月30日 816-834P
- (6) 中村青史「学生運動」『新熊本市史 通史編 第7巻 近代Ⅲ』2003年3月28日 266-276P
- (7) 薄田千穂「第五高等学校における軍事教練・査閲」2010年 18P
- (8) 「戦中・戦後の第五高等学校に関する調査」については、「第五高等学校における軍事教練・査閲」2010年（2009年度日本学術振興会科学研究費補助金奨励研究「旧制高等学校と軍隊の関わりに関する研究」）熊本大学五高記念館叢書第1集「第五高等学校の学徒出陣」において部分的に報告している。
- (9) 昭和16年理甲3入学、昭和18年卒業
- (10) 昭和21年文甲1入学、昭和24年卒業

## 『龍南会雑誌』『龍南』雑誌部委員一覧

年度	発行回数	号数（発行年月日）	委員数	雑誌部委員名	学科学年クラス	備考
明治24年度	6	1（明治24年11月26日） ～6（明治25年4月20日）	8	木崎虎太	本科1部2年文科	雑誌部委員8名、演説部委員兼任
				加藤本四郎	本科1部2年法科	
				白石秀大	本科1部2年法科	
				古森幹枝	本科1部1年法科	
				安住時太郎	本科1部1年法科	
				中山文次郎	本科1部1年法科	
				佐藤傳蔵	本科2部2年理科	
				江口俊博	予科3級甲組	
明治25年度	10	7（明治25年5月20日） ～16（明治26年4月30日）	8	浅川雄太郎	本科1部2年文科	
				中山文次郎	本科1部2年法科	
				古森幹枝	本科1部2年法科	
				安東俊明	本科1部2年法科	
				隈本繁吉	本科1部1年文科	
				白河次郎	本科1部1年文科	
				江口俊博	予科2級甲組	
				村川堅固	予科1級甲組	
明治26年度	10	17（明治26年5月27日） ～26（明治27年5月7日）	7	白河次郎	本科1部2年文科	
				和木貞	本科1部2年文科	
				隈本繁吉	本科1部2年文科	
				朝山景秀	本科1部2年法科	
				村川堅固	本科1部1年文科	
				水月仲丸（哲英）	本科1部1年文科	
				大塚末雄	本科1部1年文科	
				江口俊博	予科1級乙組	

明治27年度	10	27 (明治27年 5月25日) ～34 (明治28年 3月 5日)	6	村川堅固	1部3年文科	総務委員2名、雑誌部委員6名となる。34号に委員臨時改選記録あり
				秋月胤継	1部3年文科	
				水月仲丸 (哲英)	1部3年文科	
				高木敏雄	1部2年文科	
				杉山富植	1部2年文科	
				江口俊博	1部2年文科	
	35 (明治28年 4月 5日) ～36 (明治28年 5月 7日)	6	太田辰一	1部3年文科		
			十時弥	1部2年文科		
			飯田御世吉郎	1部2年文科		
			渡辺断雄	2部2年理工農科		
			本田弘	1部1年文科		
			小原之正 (達明)	1部1年法科		
明治28年度	9	37 (明治28年 6月 7日) ～45 (明治29年 3月31日)	6	十時弥	1部3年文科	演説部が独立し、演説部委員2名、雑誌部委員5名となる。「吉丸一昌以外の4氏は4月14日の役員会(予算会議)に於て、本誌の目的について総務委員長嶺氏と意見の衝突を来して退任し、4氏が之に代る」(238号)
				高木敏雄	1部3年文科	
				飯田御世吉郎	1部3年文科	
				渡辺断雄	2部3年工科	
				本田弘	1部2年文科	
				小原之正 (達明)	1部2年法科甲組	
明治29年度	10	46 (明治29年 4月 7日) ～55 (明治30年 3月30日)	4	本田弘	1部3年文科	
				大野禧一	3部3年医科	
				湯浅孫三郎	1部2年文科	
				小嶋武雄	1部2年文科	
明治30年度	9	56 (明治30年 5月28日)	5	小嶋武雄	1部3年文科	
				吉丸一昌	1部3年文科	
				伊喜見謙吉	1部3年文科	
				湯浅孫三郎	1部2年文科	
	57 (明治30年 6月13日) ～64 (明治31年 3月30日)	5	松崎求己	1部2年文科		
			吉丸一昌	1部3年文科		
			藤村作	1部3年文科		
			楠田義任	1部3年法科乙組		
明治31年度	7	65 (明治31年 5月24日) ～71 (明治32年 3月31日)	5	徳谷豊之助	1部3年文科	
				清水壮左久	1部3年法科乙組	
				戸次正	1部2年文科	
				堀内収蔵	1部2年文科	
				大槻静修	1部1年法科乙組	
明治32年度	7	72 (明治32年 5月31日) ～78 (明治33年 5月 5日)	5	大木俊九郎	1部3年文科	
				常吉徳寿	1部3年法科乙組	
				柳井幸弘	1部2年文科	
				田仲 (成田) 忠良	1部2年文科	
				島田敏三	1部2年法科乙組	
明治33年度	6	79 (明治33年 6月 5日) ～84 (明治34年 3月22日)	5	岡嶋誘	1部3年文科	
				石川重治	1部3年文科	
				成田忠良 (79～80)	1部3年文科	
				豊田多賀雄 (81～84)	1部3年法科乙組	
				丸山篤	1部2年文科	
				田嶋勝太郎	1部2年法科	

明治34年度	7	85 (明治34年 6月3日) ~91 (明治35年 4月25日)	5	今村勝	1部3年文科	
				高田知一郎	1部3年文科	
				吉田修夫	1部3年文科	
				青木新	1部2年甲組	
				咲花一二三	1部2年丙組	
明治35年度	7	92 (明治35年 4月31日) ~98 (明治36年 3月31日)	5	谷口保太郎	1部3年甲組	学寮会幹事に当選に付辞任
				鴻巣盛廣	1部3年乙組	
				今岡信一郎	1部3年乙組	
				咲花一二三 (92~93)	1部3年丙組	
				関一男 (94~98)	3部3年	
				後藤文夫	1部2年乙組	
明治36年度	7	99 (明治36年 5月25日) ~105 (明治37年 3月13日)	5	恵利武	1部3年甲組	
				江上恒之	1部3年丙組	
				松居與一郎	1部2年甲組	
				猪股勲	1部2年甲組	
				大野至海	1部2年甲組	
明治37年度	5	106 (明治37年 5月25日) ~110 (明治38年 3月10日)	5	太田黒作次郎	1部3年甲組	
				平井三男	1部3年乙組	
				佐々木良綱	1部3年丙組	
				高田保馬	1部2年甲組	
				内田虎六	1部2年乙組	
明治38年度	5	111 (明治38年 5月20日) ~115 (明治39年 3月8日)	5	倉岡軍次	1部3年甲組	
				吾妻耕一	1部3年乙組	
				沼川福太	1部3年乙組	
				谷龍之助	1部3年丙組	
				奥村安基	1部2年乙組	
明治39年度	4	116 (明治39年 5月23日) ~119 (明治40年 3月26日)	5	深川繁治	1部3年甲組	
				柏木純一	1部3年甲組	
				松村武雄	1部3年乙組	
				大川周明	1部3年乙組	
				緒方大象	3部3年	
明治40年度	6	120 (明治40年 5月28日) ~125 (明治40年 6月17日)	5	石田馨	1部3年甲組	村山真雄論旨退学に付辞任
				立花親民	1部3年甲組	
				船越純一	1部3年甲組	
				加瀬丈兵衛	1部3年乙組	
				村山真雄 (120~121)	1部2年甲組	
				前田讓 (122~125)	1部2年丙組	
明治41年度	5	126 (明治41年 6月18日) ~130 (明治42年 3月31日)	5	千田憲	1部3年乙組	
				山浦護	1部3年乙組	
				牛原虎生	1部3年乙組	
				前田穰	1部3年丙組	
				神山義次	1部3年丙組	
明治42年度	5	131 (明治42年 6月20日) ~135 (明治43年 3月30日)	5	住田一郎	1部3年甲1組	落合直幸韓国へ渡航に付辞任
				太田文雄	1部3年甲2組	
				青木敬次	1部3年甲2組	
				中村寛猛 (132~135)	1部3年甲2組	
				落合直幸 (131)	1部1年乙組	
				江口渙	1部1年乙組	



明治43年度	5	136 (明治43年6月15日) ~140 (明治44年3月25日)	5	富田仙三	1部3年甲1組	
				河崎清風 (平川)	1部3年甲2組	
				赤瀬八代喜	1部3年乙組	
				南正樹	1部3年丙組	
				吉鹿善郎	1部2年甲1組	
明治44年度	5	141 (明治44年6月5日) ~145 (明治45年5月10日)	5	吉鹿善郎	1部3年甲1組	145号に予算削減問題掲載
				藤山一雄	1部3年甲2組	
				小田精一	1部3年甲2組	
				江口渙	1部3年乙組	
				古賀行義	1部3年乙組	
明治45年 大正元年度	5	146 (明治45年6月20日) ~150 (大正2年6月15日)	5	中村重喜	1部3年甲1	
				栗林卯平	1部3年乙	
				陶山喜六	1部3年乙	
				中村静	2部3年甲1	
				北村直躬	3部3年	
大正2年度	4	151 (大正2年6月20日) ~154 (大正3年6月20日)	5	松隈国健	1部3年甲2	「所謂吉野家問題のため総務以下14人の委員大正3年2月辞職し、我が部に於ても山下、富安、湯川の三氏退き、その補欠として、下林一之、城戸甚次郎、竹下武雄の諸氏その後を襲ふ」(200号)
				鳥井匡	1部3年乙	
				山下雅実 (151~152)	1部3年丙	
				高安三次 (151~152)	2部3年乙	
				湯川蜻洋 (151~152)	3部3年	
				下林一之 (153~154)	1部3年甲1	
				城戸甚次郎 (153~154)	1部3年乙	
				竹下武雄 (153~154)	1部3年乙	
大正3年度	3	155 (大正3年11月25日) ~157 (大正4年3月30日)	5	徳永信愛	1部3年甲	
				松延弥三郎	1部3年甲	
				田邊方亮	2部3年甲	
				島剛	2部3年乙	
				河野勉	3部3年	
大正4年度	3	158 (大正4年6月20日) ~160 (大正5年3月28日)	5	林穆	1部3年甲2	小島と有馬の交代時期不明
				山本正己	1部3年乙	
				上田吉郎	1部3年丙	
				小島政一郎 (158~159?)	2部3年甲2	
				有馬桂 (159?~160)	2部3年乙	
				山下實	3部3年	
大正5年度	3	161 (大正5年6月15日) ~163 (大正6年3月30日)	5	笹山忠夫	1部3年甲1	(牛原虚彦)
				佐々弘雄	1部3年甲2	
				牛原清彦	1部3年乙	
				井田哲	1部3年乙	
				高木千丈	2部3年丙組	
大正6年度	3	164 (大正6年6月20日) ~166 (大正7年3月31日)	5	久保田峻	1部3年甲1組	
				大江昇	1部2年甲2組	
				濱静雄	1部3年丙組	
				遠藤永次郎	2部3年甲1組	
				荻野文城	3部3年	
大正7年度	3	167 (大正7年6月20日) ~169 (大正8年3月31日)	5	南清之助	1部3年甲2組	
				徳永新太郎	1部3年乙組	
				石橋信夫	1部3年乙組	
				赤木貞一	2部3年甲1組	
				工藤好美	3部2年	

大正8年度	5	170 (大正8年5月20日) ~174 (大正9年3月30日)	5	東博仁	1部3年甲1組	
				下村信貞	1部3年甲2組	
				佐々木高遠	1部3年丙組	
				林喬	2部3年乙組	
				高林傳男	3部3年	
大正9年度	(3)	175 (大正9年6月10日) ~177 (大正10年3月10日)	5	太田辨次郎	1部3年甲1組	177号は大正9年度の懸賞号と 大正10年度の第1号と合併号。 懸賞は太田辨次郎が編集、その 他は新委員が編集
				草場香	1部3年甲2組	
				田代三千稔	1部3年乙組	
				瀬口正央	1部3年丙組	
				岩崎重雄	2部3年乙組	
大正10年度	(4)	177 (大正10年3月10日) ~180 (大正10年12月24日)	5	平野丈雄	文科3年甲1組	
				森本治吉	文科3年甲2組	
				安達左京	文科3年甲2組	
				内山鑄之吉	文科3年甲3組	
				小川敏男	理科3年乙組	
大正11年度	3	181 (大正11年3月10日) ~184 (大正11年12月23日)	5	藤村次郎	文科3年甲1組	
				東利久	文科3年甲2組	
				後藤寿夫	文科3年甲3組	
				中村政雄	文科3年乙組	
				山本直太郎	文科3年乙組	
大正12年度	3	185 (大正12年3月1日) ~188 (大正12年12月24日)	5	小川久雄 (亀山) (185~187)	文科3年甲1組	兵役志願
				徳廣巖城	文科3年甲2組	(上林暁)
				永松定 (185~187)	文科3年甲3組	休学
				大島大	文科3年乙組	
				龍野繁太郎	理科3年甲1組	
大正13年度	4	189 (大正13年3月) ~192 (大正13年12月24日)	5	高橋道男	文科3年甲1組	
				大口恭助	文科3年甲2組	
				相良久雄	文科3年甲3組	
				田代四郎	文科3年乙組	
				佐藤梯	理科3年乙組	
大正14年度	4	193 (大正14年2月24日) ~196 (大正14年12月15日)	5	小關紹夫	文科3年甲1組	
				高濱充	文科3年甲2組	
				渡邊武	文科3年甲3組	
				野口義博	文科3年乙組	
				辻英武	理科2年甲1組	
大正15年 昭和元年度	4	197 (大正15年2月20日) ~200 (大正15年12月25日)	5	河野浅士	文科3年甲1組	文芸部と記載
				井上縫三郎	文科3年甲1組	
				松尾勝敏	文科3年甲2組	
				歳川満雄	文科3年甲3組	
				松本惣一郎 (197)	(文科2年乙組)	
佐伯玄洞 (198~200)	文科3年乙組					
昭和2年度	4	201 (昭和2年3月1日) ~204 (昭和2年12月20日)	5	長屋肇	文科3年甲1組	文芸部と記載
				犬養孝	文科3年甲1組	
				松井武夫	文科3年甲3組	
				北之園寛繁	文科3年甲3組	
				富成喜馬平	文科3年乙組	
昭和3年度	4	205 (昭和3年2月25日) ~208 (昭和3年12月10日)	5	桑瀬良	文科3年甲1組	雑誌部と記載
				佐々木堯	文科3年甲2組	
				坂本浩	文科3年甲2組	
				永積安明	文科3年甲3組	
				村岡示申武	文科3年乙組	

昭和4年度	4	209 (昭和4年2月20日) ~212 (昭和4年12月23日)	5	小林章	文科3年甲1組		
				緒方茂夫	文科3年甲2組		
				田邊猛	文科3年甲3組		
				鵜殿新一	文科3年乙組		
				松村二郎	理科2年乙組		
昭和5年度	4	213 (昭和5年3月10日) ~216 (昭和5年12月10日)	5	福田令人	文科3年甲1組		
				小林章	文科3年甲3組		
				上妻齊	文科3年乙組		
				水谷啓二	理科3年甲3組		
				平木恭三郎	理科3年乙組		
昭和6年度	4	217 (昭和6年3月1日) ~220 (昭和7年1月20日)	5	岩永武夫	文科3年甲1組		
				朽葉幹生	文科3年甲2組		
				佐々木清亮	文科3年乙組		
				桑原謙之	理科3年甲2組		
				大森正	理科3年甲3組		
昭和7年度	3	221 (昭和7年1月20日) ~223 (昭和7年12月3日)	5	多々隈卓郎	文科3年甲2組		
				馬場強	文科3年甲3組		
				中井正文	文科3年乙組		
				岩田武	理科2年甲1組		
				海城濟	理科2年乙組		
昭和8年度	3	224 (昭和8年3月2日) ~226 (昭和8年7月3日)	5	松井武州	文科3年甲2組		
				中村信一	文科3年甲3組		
				中島五太	文科3年甲3組		
				海城濟	理科3年乙組		
				柴田仁	理科2年甲2組		
昭和9年度	3	227 (昭和9年2月28日) ~229 (昭和9年11月25日)	5	松本文雄	文科3年甲2組		
				北野裕一郎	文科3年甲3組		
				柴田四郎	(理科2年甲2組)		昭和9年3月26日退学 落第
				烏田家弘	理科3年甲2組		
				梅崎春生	文科2年甲2組		
昭和10年度	3	230 (昭和10年2月23日) ~232 (昭和10年12月15日)	5	伊喜見隆吉	文科3年甲1組		
				東明雅	文科3年甲2組		
				楠田郁夫	文科3年甲3組		
				藤田忠	文科3年乙組		
				阿部辰生 (230)	文科1年甲1組		昭和10年3月29日死亡
昭和11年度	3	233 (昭和11年2月15日) ~235 (昭和11年11月10日)	5	前田可博	文科3年甲2組		
				長尾壽雄	文科2年乙組		昭和11年4月休学
				尾越孝人	(文科1年乙組)		昭和11年3月31日退学
				加藤一雄	理科2年甲3組		
				平戸喜信 (裕人)	理科2年乙組		
昭和12年度	4	236 (昭和12年2月16日) ~239 (昭和12年10月30日)	5	竹内良知	文科3年甲3組		
				足立正治	理科3年甲2組		
				平戸喜信 (裕人) (238)	理科3年乙組		
				長尾壽雄 (236~237)	文科2年乙組		昭和12年5月退学
				古賀廉造	文科2年乙組		
				加冷隆美	文科2年乙組		
昭和13年度	3	240 (昭和13年3月4日) ~242 (昭和13年12月10日)	5	屋舗健治	文科3年甲1組		
				中原淳吉	文科3年甲3組		
				加冷隆美	文科3年乙組		
				古賀廉造	(文科2年乙組)		昭和13年3月29日退学 落第
				後藤伝一郎	文科1年乙組		

昭和14年度	3	243 (昭和14年3月3日) ～245 (昭和14年12月20日)	5	上野裕久	文科3年甲1組	
				赤羽羊治	文科3年乙組	
				後藤狷士	文科3年乙組	
				川崎薩男	理科3年甲2組	
				後藤伝一郎	文科2年乙組	
昭和15年度	2	246 (昭和15年3月1日) ～247 (昭和15年7月10日)	6	桜井秀雄	文科3年甲1組	
				金子正信	文科3年甲3組	
				後藤伝一郎	文科3年乙組	
				大関徳道	文科3年乙組	
				園田憲章	理科3年甲3組	
				今泉素行	理科2年甲1組	
昭和16年度	2	248 (昭和16年2月25日) ～249 (昭和16年9月25日)	2	宇野太郎	文科3年乙組	
				今泉素行	理科3年甲1組	
昭和17年度	2	250 (昭和17年2月15日) ～251 (昭和17年7月15日)	2	谷川巖	文科3年乙組	
				松井峻	理科3年甲2組	
昭和18年度	2	252 (昭和17年12月20日) ～253 (昭和18年7月20日)	2	徳澄正	文科2年甲1組	雑誌部解消、寮報が龍南に合併
				百合本順太郎	理科2年甲3組	
昭和19年度	1	254 (昭和19年6月15日)	1	総務部編集 石丸公	文科2年2組	
昭和20年	1	復刊253 (昭和23年5月25日)	4	高見正明	文科3年甲1組	昭和21年入学文1甲
				小宮孝善	文科3年甲1組	昭和22年2年編入文1組
				深堀光広	文科3年甲1組	昭和20年入学文1イ
				隅田哲司	文科3年甲1組	昭和19年入学理6

『龍南会雑誌』『龍南』1号～復刊253号、『第五高等学校一覧』各年、在籍記録により作成

注1 氏名欄の括弧内数字は担当した号数 注2 学科学年クラス欄の括弧は、雑誌部委員選任時のクラスで、進級前のものである。

熊本大学五高記念館館報 第2号  
(平成21年度～24年度)

---

発行日 平成26(2014)年3月28日  
編集・発行 国立大学法人 熊本大学五高記念館  
〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-40-1  
TEL (096)342-2050 FAX (096)342-2051  
URL : [www.goko.kumamoto-u.ac.jp](http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp)  
Email : [goko@kumamoto-u.ac.jp](mailto:goko@kumamoto-u.ac.jp)  
印刷 グランツ株式会社

